

デジタルネイティブ世代に聞く

ののの本音

Ask the digital native generation for 100 true feelings



by BIGL®BE

Myself

Society

Medīa/Tech

Index

P.3 はじめに

調査概要 P.4

P.5-75 Chapter1: Myself(Q1-29)

P.76-104 Chapter2:Work(Q30-40)

P.105-146 Chapter3:Love(Q41-66)

P.147-192 Chapter4:Society(Q67-83)

P.193-239 Chapter5: Media/Tech (Q84-100)

P.240 Information



はじめに

「あしたメディア by BIGLOBE」とは、国内最大級のインターネット接続事業を提供するビッグローブ株式会社が運営するオウンドメディア。現代社会が抱える課題を浮き彫りにし、改善のヒントを提示して社会課題の解決に寄与することを目的としています。そして、社会課題の改善は、一企業の取り組みで達成されるものではなく、社会全体への働きかけが重要だと考えています。

あしたメディアの読者層は、10代後半~30代。「あしたレポート 2025」は、そんな1990年以降に生まれ、物心がついた時からインターネットに囲まれていたデジタルネイティブ世代を主な対象とした調査報告書です。自分自身のことから始まり、働き方、恋愛結婚、社会に至るまで、100のテーマからなる質問を通じて、今後社会の中心を担うデジタルネイティブ世代の考え方を明らかにすることで、社会課題の顕在化と解決の糸口を提示します。

4 あしたレポート2025

調査概要

調査名 : 「あしたレポート 2025」

調査対象 :全国の18歳から69歳までの男女1,000人

(18~19歳70人、20~24歳180人、25~29歳180人、30~34歳170人、

35~39歳100人、40代から60代までそれぞれ100人)

調査方法 :インターネット調査

調査期間 : 2025年1月30日~2月3日

調査委託先:株式会社ネオマーケティング

※ 本調査レポートの百分率表示は四捨五入の丸め計算を行っており、合計しても100%とならない場合があります。 また複数回答可の設問があるため、合計100%を超える場合があります。





Chapter 1

Myseff 自分自身について



あしたレポート2025 🍑

Chapter 1: Myself

最初のチャプター「Myself」では、まず自分自身のライフスタイルや生活にフォーカスした調査を中心に紹介していく。 インターネットの発達により、日常的に外から多くの情報を浴び続けているデジタルネイティブ世代は、自分自身をどう捉えているのだろうか。 特に注目したいトピックスは以下の3つだ。

SNS時代のアイデンティティ

デジタルネイティブ世代が暮らす社会は、"自己を発信すること"と切り離せない。 インターネットが普及した1990年代以降に生まれ、ホームページやSNSなど自己表現のできるツールが身近にあるデジタルネイティブ世代は、 どのように自己を捉えているのか。趣味からメンタルヘルスの問題まで紐解く。

消費のリアル

大量生産・大量消費に象徴される1950年代〜1970年代の高度経済成長期や1989年〜1991年のバブル期を経て、2000年代はモノの価値観が揺らぎ、商品の持続可能性や正当性がより重視される時代となった。同時に長引く不況や物価上昇が続くなかで、商品の品質とコスパの狭間で揺れる消費者も多いだろう。いまデジタルネイティブ世代がリアルに使えるお金から、どのような消費をしているのか。

「推し活」はもはや常識?

特定のモノや人物を応援する「推し」という言葉。2011年には「推しメン」という言葉が第28回ユーキャン新語・流行語大賞にもノミネートされた。 あしたレポートでは一般化された言葉の「推し活」について、深掘りして質問した。

本チャプターの最後では、知性派ギャルと自称する2001年生まれの湯上響花氏に、 デジタルネイティブ世代として感じるいまの時代について話を伺った。

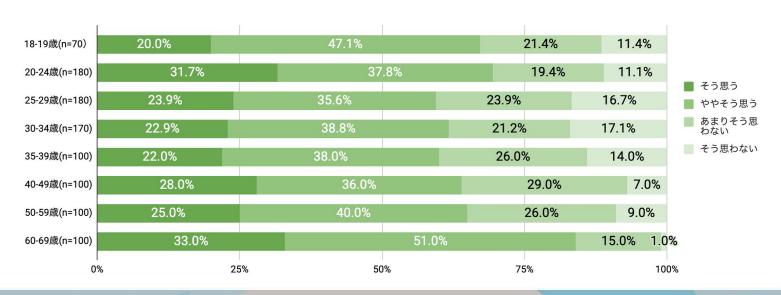


あしたレホート

性格・意識

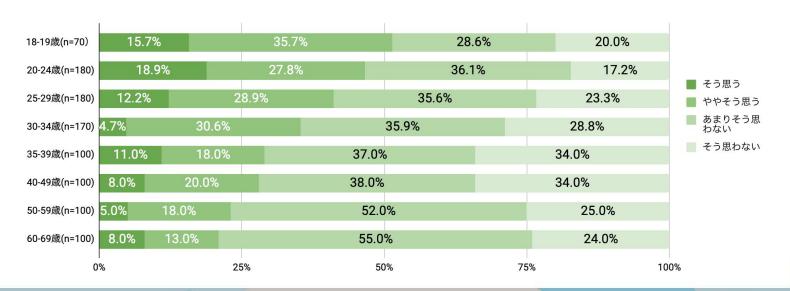
18-24歳の7割近くは、ありのままの自分が好きだと感じている。

💿 ありのままの自分が好きだ



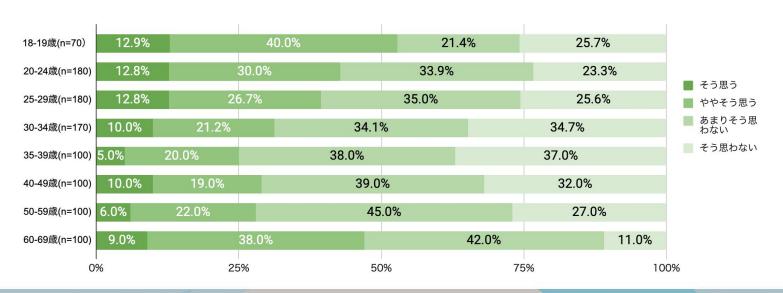
他人に影響を与える生き方への志向は、歳を重ねるごとに低下する。

○ 他人に影響を与えるような生き方をしたい



18-19歳は、人と長時間一緒にいることは苦ではないと感じる人の割合が 全年代で最も高い。

◎ 人と長時間一緒にいることは苦ではない

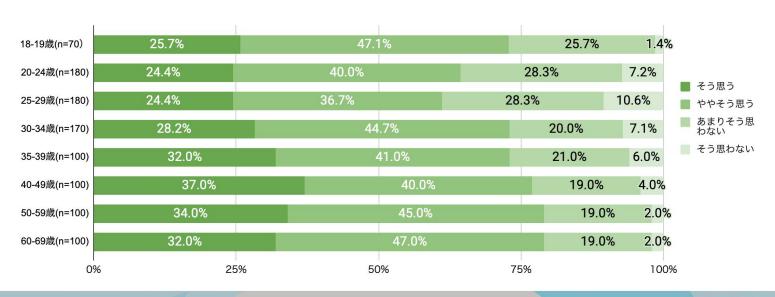


1000本音



20-29歳は、自分と価値観が違う人とはなるべく関わりたくないと思う人が 他年代よりも比較的少ない。

自分と価値観が違う人とは、なるべく関わりたくない

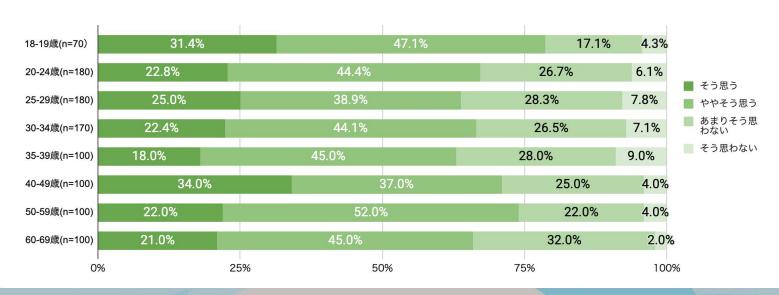


1000本音



解決に至らない批判は意味がないと思う人は全年代で6割を超える。

🖎 解決に至らない批判は意味がないと思う



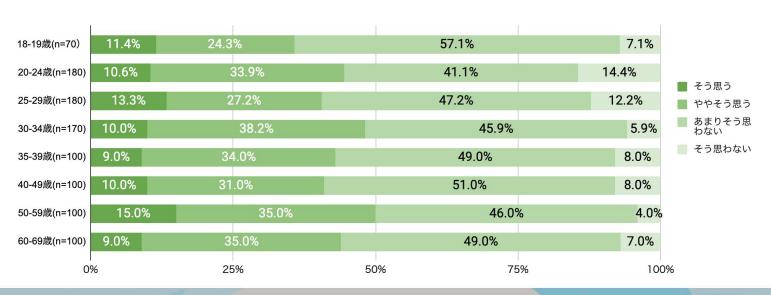
1000本音

あしたレポート2025 🎎

性格・意識

全ての年代において、建設的な意見以外も受け入れるという人は5割を超える。

建設的な意見以外は聞きたくない

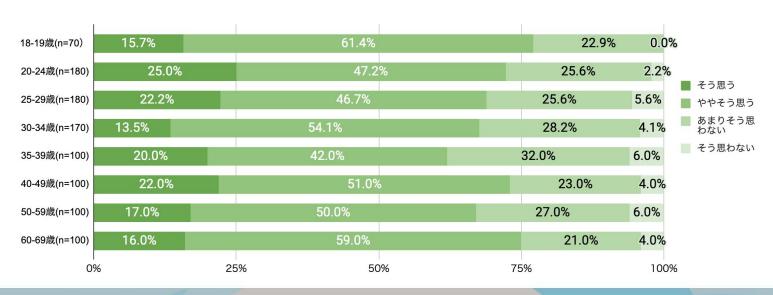


あしたレポート2025 🗳

性格・意識

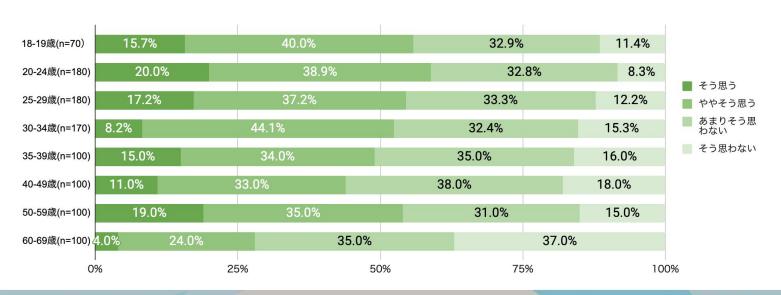
気になることがあればすぐに答えが欲しくなるという人は、18-24歳で7割近く。

💿 気になることがあれば、すぐに答えが欲しくなる



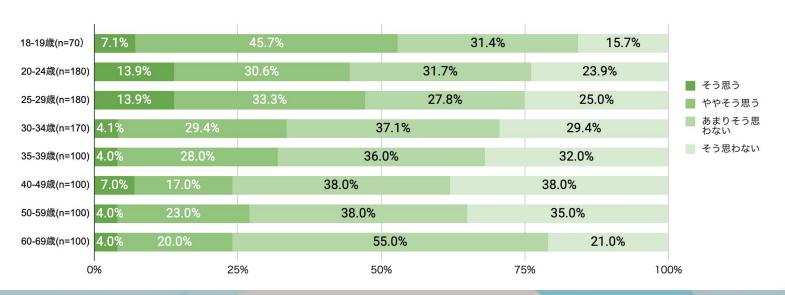
18-34歳の5割が、常に時間に追われている感覚を持っている。

常に時間に追われている感覚がある



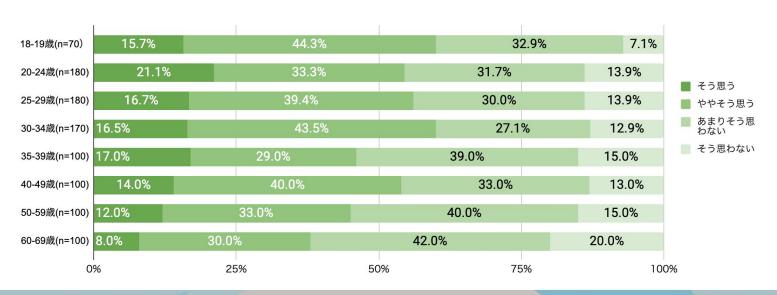
18-29歳の5割近くが、未来は希望であふれていると思っている。

🖎 未来は希望であふれていると思う



18-34歳の5割近くが、意味のない時間にストレスを感じている。

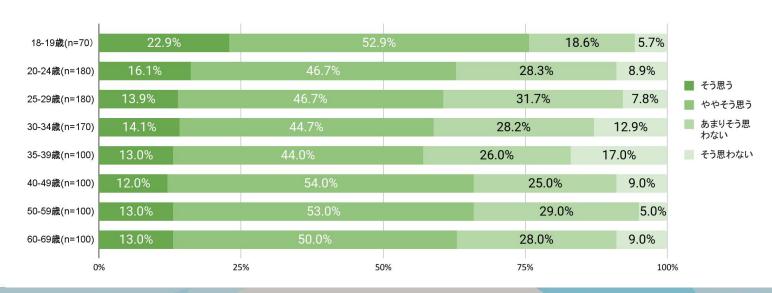
◯ 意味のない時間があることにストレスを感じる





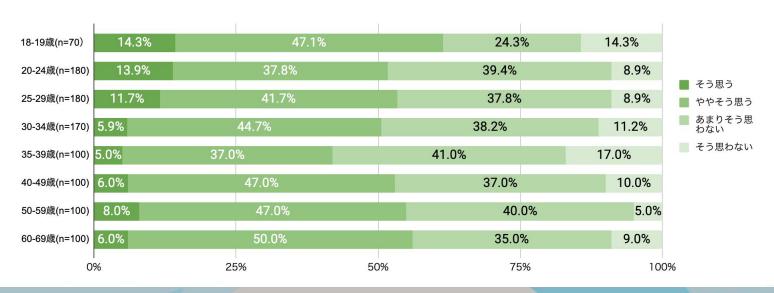
18-19歳は特に、マイノリティに優しい社会は素晴らしいと感じている人の割合が高い。

◯ マイノリティに優しい社会は素晴らしいと思う



18-29歳は、手段を問わずに結果を求める傾向の強い人が、他年代の倍近く。

💿 結果が良ければ、多少手段に問題があっても仕方ない

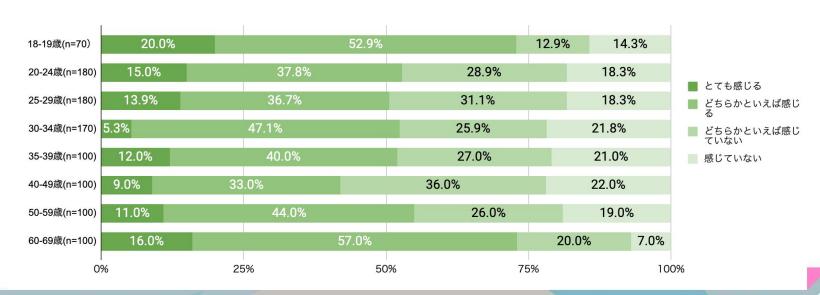




幸せ

現在、幸せだととても感じる人の割合は、18-19歳が最も高く、30-34歳が最も低い。

💿 あなたは現在、幸せだと感じていますか

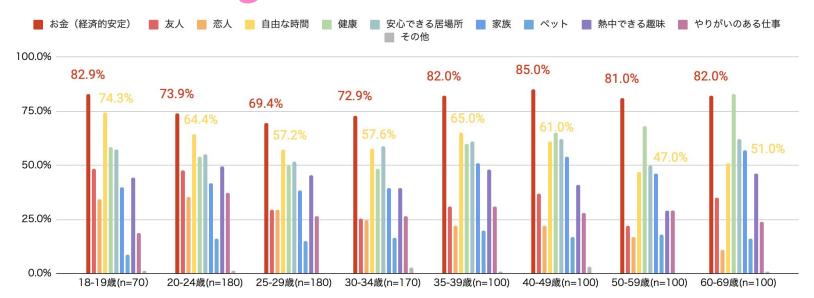


19

幸せに必要なもの

幸せには、お金が必要だと答えた人の割合がどの年代でも最も高い。 18-29歳は、次いで自由な時間があれば幸せだと答える人の割合が高い。

. 何があれば幸せだと思いますか(複数回答)

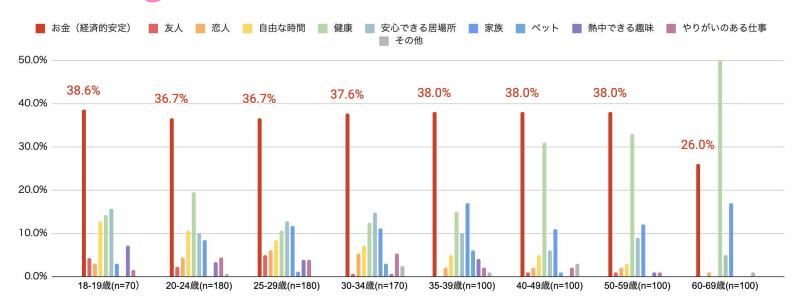




幸せに一番必要なもの

幸せに最も必要なものはお金という回答がほぼ全年代で最多。

幸せを感じるために1番大切だと思うものを1つ教えてください

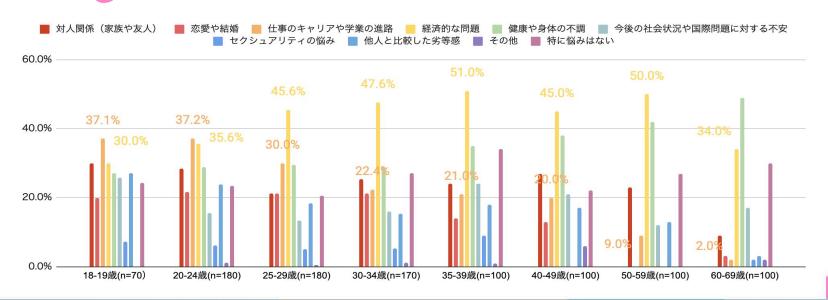




メンタルヘルス

全年代において、経済的な問題に悩む人の割合が高い。 18-24歳は、仕事・学業のことや、他人と比較した劣等感に悩む人の割合も高い。

💿 あなたが現在抱えている不安や悩みについて、あてはまるものをすべて教えてください

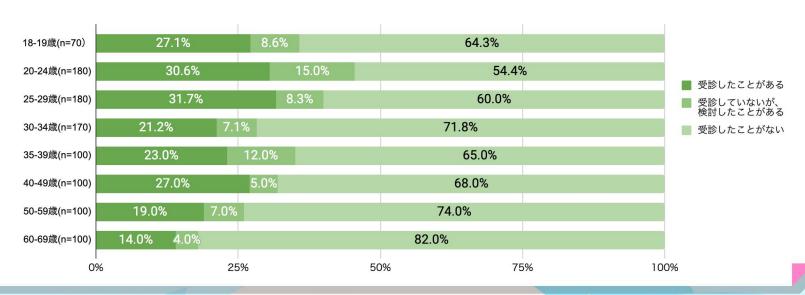




メンタルヘルスの受診

精神的な悩みで病院の受診経験がある人は、20代で3割超。

💿 精神的な悩みにより、病院を受診したことがありますか



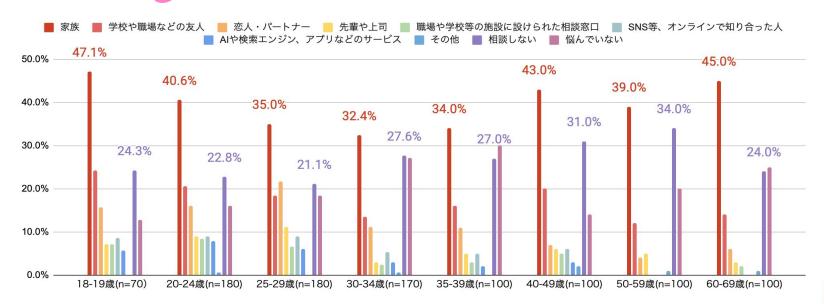




メンタルヘルスの相談

悩みを相談する相手に1番多いのは家族だが、相談しないと答える人の割合も高い。

💿 精神的な悩みについて、病院への受診以外で、相談できる相手はいますか

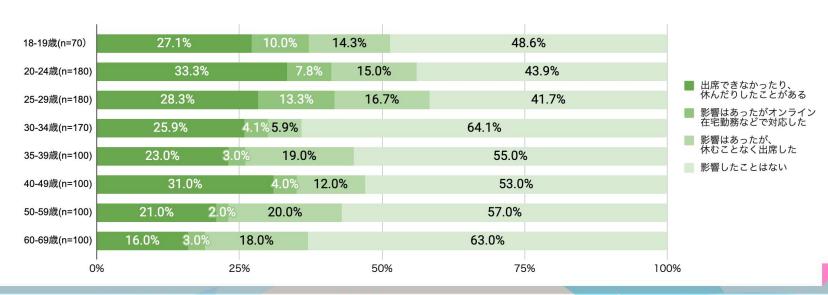




メンタルヘルスの影響

18-29歳の5割を超える人が、精神的な悩みが仕事や学校生活に影響したと答えた。

○ 精神的な悩みが原因で仕事や学校を休んだことがありますか



Chapter

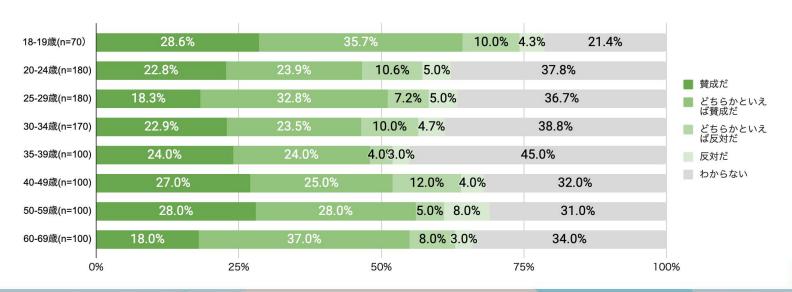


尊厳死

全世代で5割近くの人が、尊厳死(※)という選択に賛意を示した。

※尊厳死…延命措置などを行わずに、自然な死を迎えること

◯ 尊厳死という選択について、あてはまるものを1つ教えてください





可処分所得

1ヶ月に使えるお金の額が3万円未満という人は、全世代で5割を超える。

💿 生活費・投資・預貯金以外で、自由に使えるお金は月にどれくらいありますか



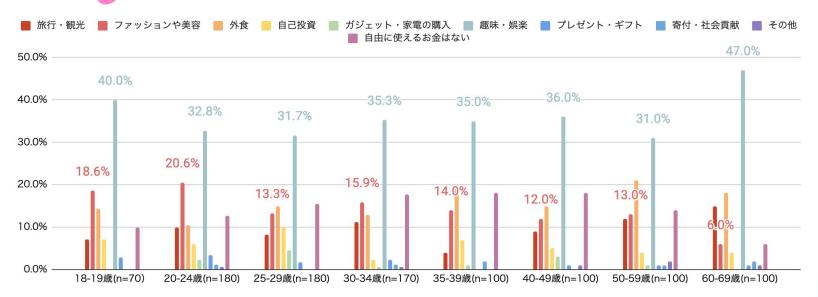




可処分所得の使い道

全年代で、趣味・娯楽に使っているという人が最も多い。 18-24歳では、次いでファッションや美容にお金を使っている。

生活生活費・投資・預貯金以外で、自由に使えるお金を、どこに使うことが多いですか



現在の預貯金額

18-34歳では、預貯金額100万円未満の人が5割を超える。 そのうち、最も割合が高い金額帯は、10万円未満。

💿 現在、預貯金はどれくらいありますか(投資を除く)

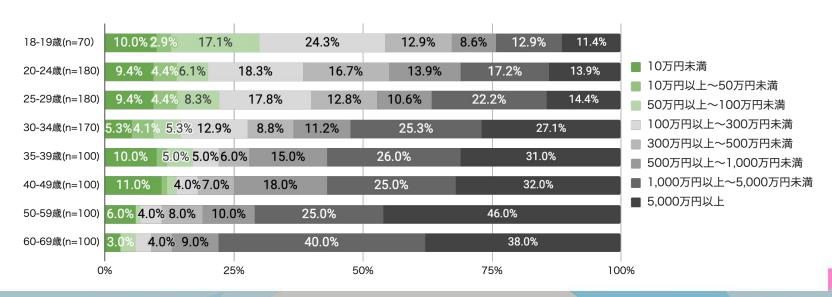




希望の預貯金額

歳を重ねるほどに、安心だと感じる預貯金の額は上がっている。

💿 いくら預貯金があれば安心だと感じますか(投資を除く)



@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

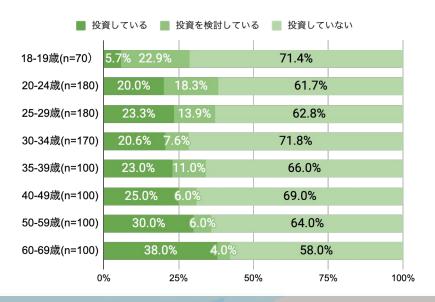


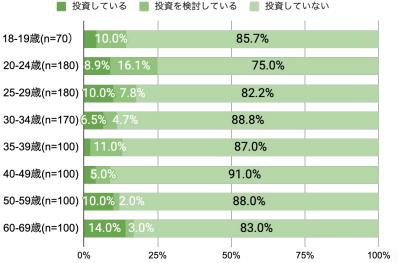
投資状況

株式投資は18-29歳の関心が特に高く、債券投資は20-29歳の関心が高い。

■ 株式投資をしていますか

◯ 債券投資をしていますか







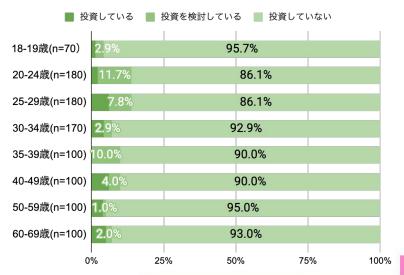
投資状況

不動産投資・コモディティ投資をしている人はどの年代でもごく僅か。

不動産投資をしていますか

コモディティ投資(金等)をしていますか





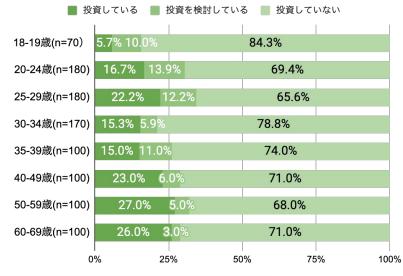


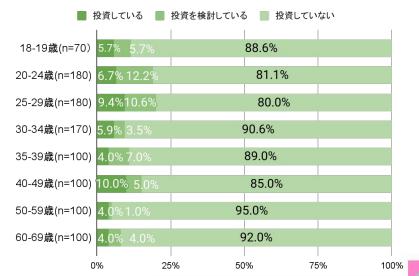
投資状況

20-29歳は投資信託を検討している割合が高い。 暗号資産に投資している人は、1割以下。

投資信託をしていますか

暗号資産に投資をしていますか





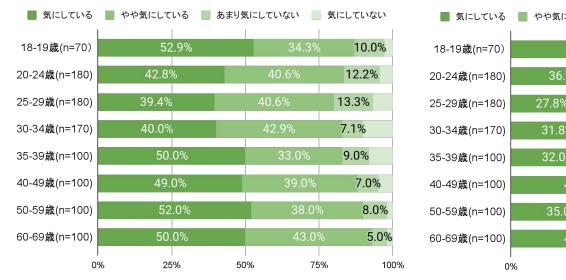


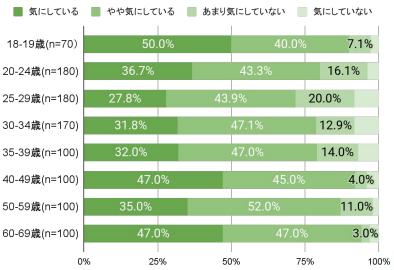
買い物で気にすること

値段の安さが気になるという人が全世代で8割以上。 品質が良いかについては、18-19歳の9割が気にしている。

◎ 値段が安いか

🖎 品質が良いか



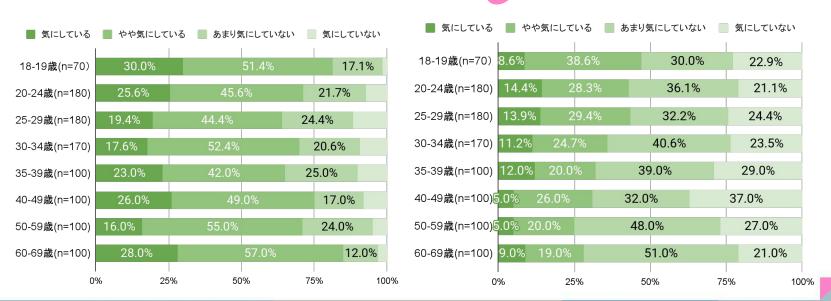


買い物で気にすること

信頼できる企業かどうかは、全年代で気にしている人が6割超え。不当労働によって作られているかは、18-29歳が特に気にしている。

◎ 信頼できる企業か

■ 不当な労働によって作られていないか

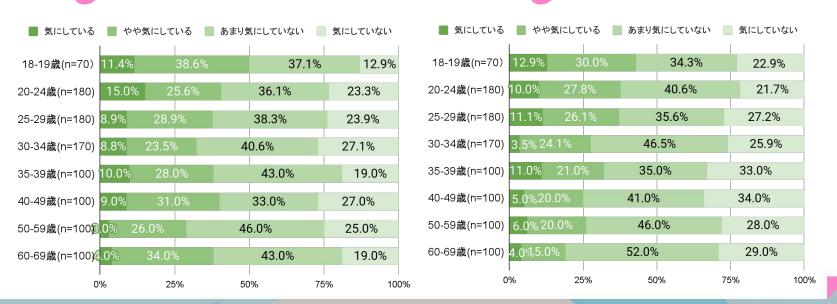


100

環境に優しいかどうかを気にしている人は、18-19歳で5割。 リセール価値について気にしている人は、18-29歳の4割近く。

💿 環境に優しい素材や製法をとっているか

💿 リセールできる価値があるか



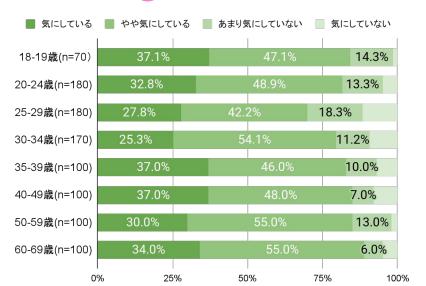
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



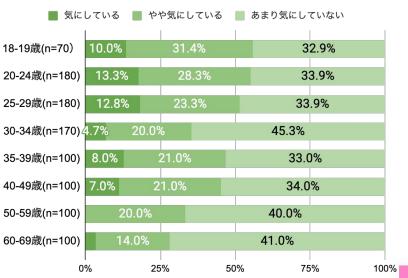
買い物で気にすること

長く使えるかどうかは、全年代の7割を超える人が気にしている。 人に褒めてもらえるかどうかを気にしている人は、18-29歳が特に多い。

💿 長く使えるかどうか



○ 人に褒めてもらえるかどうか

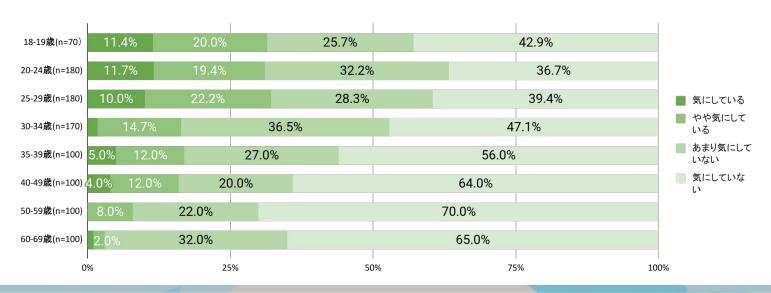




買い物で気にすること

ソーシャルメディア映えを気にしている人は、18-29歳が特に多い。

💿 ソーシャルメディア等で映えるか





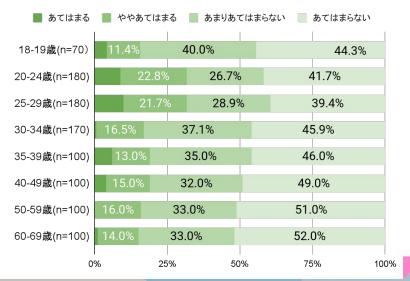


キャッシュレス決済を使っている人は全年代で6割を超える。 広告で流れてきた商品を買ってしまう人は、20-29歳が特に多い。

💿 キャッシュレス決済を積極的に使っている

🖎 広告で流れてきた商品をつい買ってしまう







1,2020

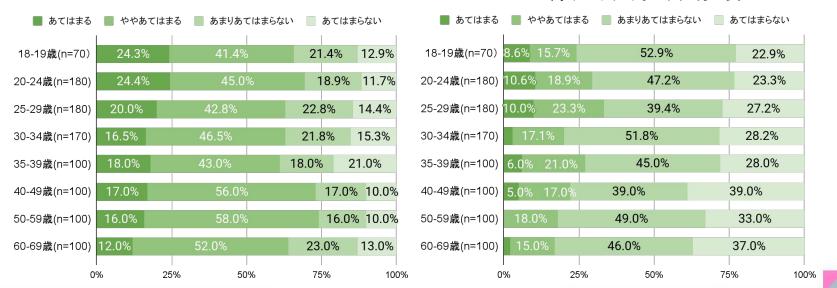
消費行動

買う前に一定期間、時間をおくという人は全年代で6割を超える一方で、20-29歳は高くてもすぐ手に入るものを買いたいという人が比較的多い。

💿 買う前に一定期間、時間をおいて検討する

0

時間をかけて安いものを買うよりは、 高くてもすぐ手に入る方が良い

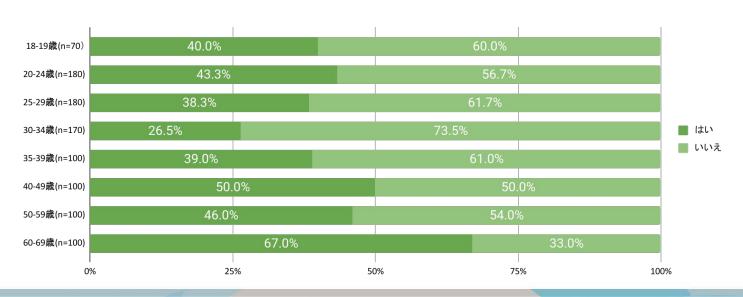




寄付

寄付したことがあると答えた人は、60-69歳を除き半数以下。 30-34歳が最も低い。

○ これまでに、寄付をしたことがありますか

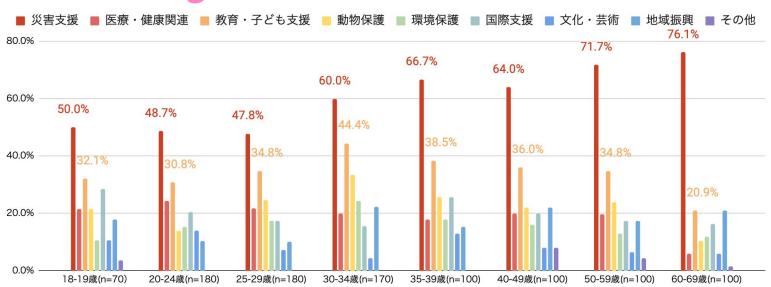




寄付先

全年代において、寄付先で一番多いのは災害支援。 次いで教育・子ども支援に寄付している人が多い。

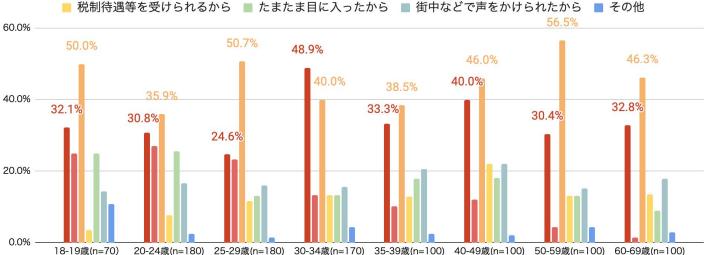
寄付先について、あてはまるものを教えてください



寄付をするきっかけ

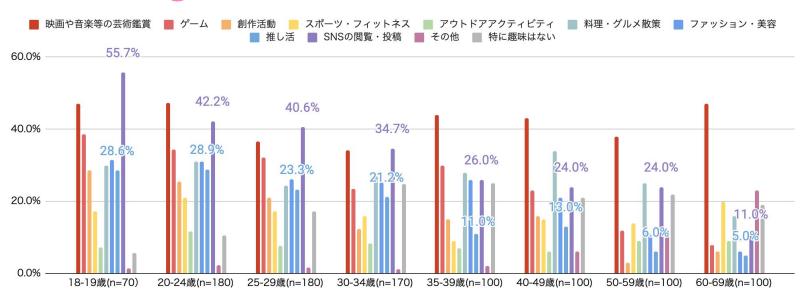
寄付をするきっかけは、社会貢献がしたいからだという人が多い一方、 30-34歳は、関わりや関心のある分野に寄付する人が他よりも多い。

- 寄付をしようと思ったきっかけについて、あてはまるものをすべて教えてください
- その分野に関わりや関心があるから 周囲の人に勧められたから 社会貢献がしたいと感じていたから





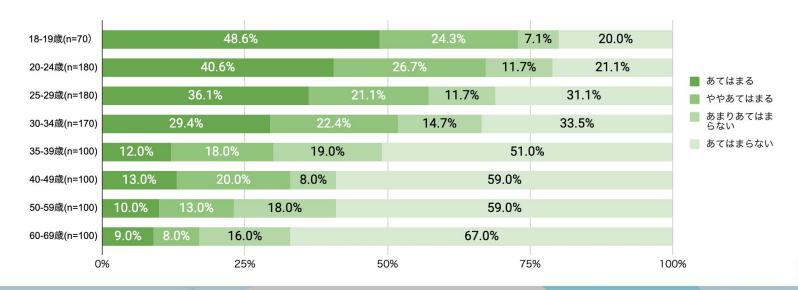
🖎 現在の趣味はなんですか。あてはまるものをすべて教えてください



推し活の経験

18-24歳は、推し活を経験したことがある人が約7割。 25-34歳も、5割に近い人が推し活をしたことがある。

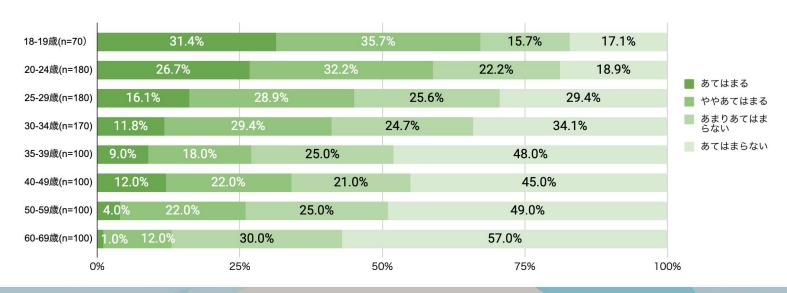
◯ 推し活をしたことがある



世代に聞く100の本音

18-24歳の5割以上は、推し活が自分のアイデンティティ形成に影響している。

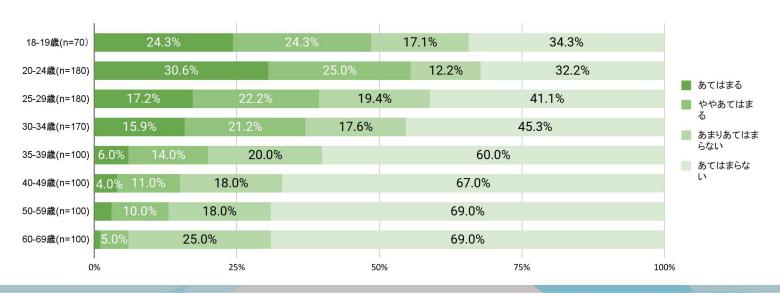
◯ 推し活は自分のアイデンティティ形成に大きく影響する





18-24歳の5割近くは、二次元の存在を推したことがある。

二次元の存在を推したことがある



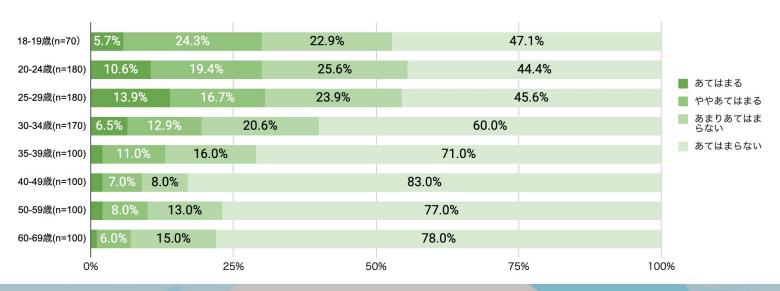
世代に聞く100の本音





18-29歳の約3割が、推し活でお金に困ったことがある。

○ 推し活が原因で、金銭的に困ったことがある



@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

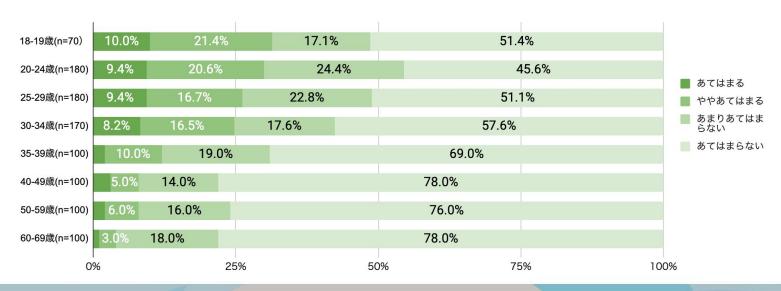
1000本音





18-24歳の約3割は、推し活が原因で仕事や学校を休みたい。

推しの活動が原因で、仕事や学業などを休みたくなる



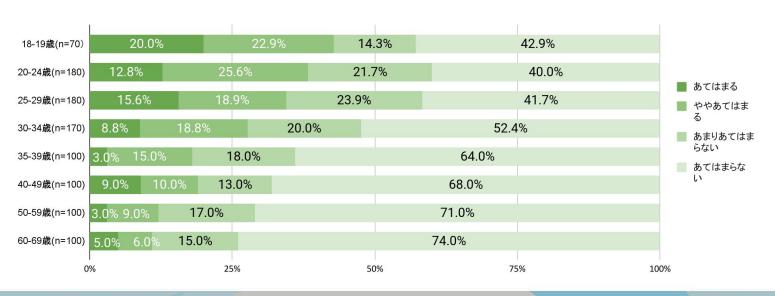
1000本音





18-24歳の4割近くが、推し活がきっかけで友人ができたことがある。

💿 推し活がきっかけで友人ができたことがある



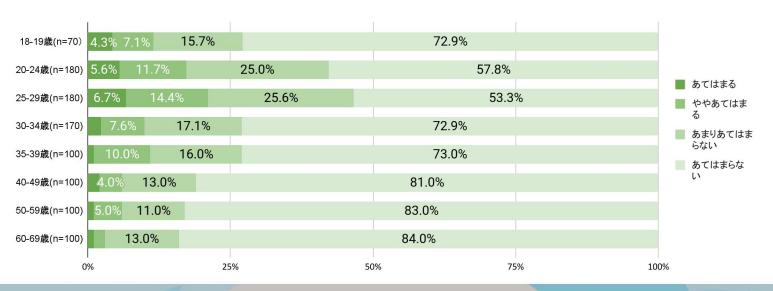
世代に聞く100の本音

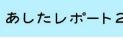




20-29歳の約2割は推し活がきっかけで恋人ができたことがある。

推し活がきっかけで恋人やパートナーができたことがある

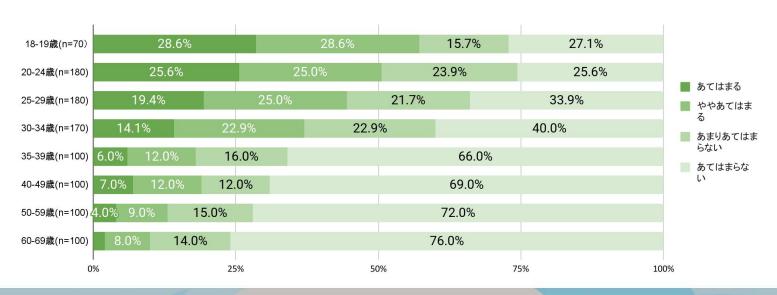




推し活事情

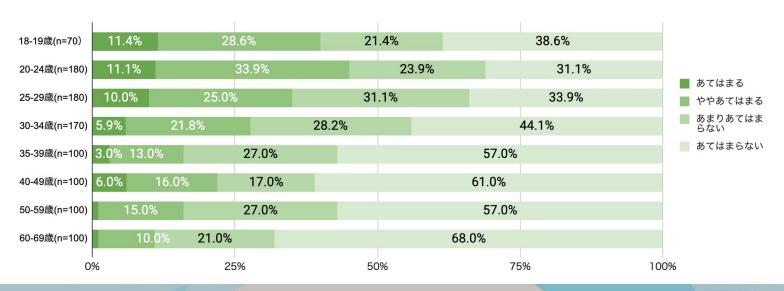
18-24歳の5割近くに、複数の推しがいる。

複数の推しがいる



世代に聞く100の本音

自身の推しについて批判する人がいたら、反論したくなる



1000本音

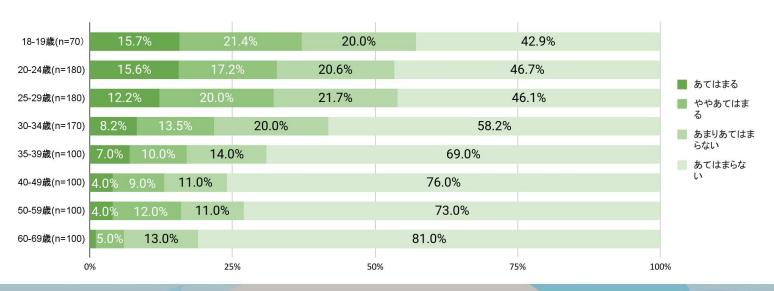




推し活事情

18-29歳は、推しに恋をしたことがある人が3割を超える。

推しに恋したことがある



世代に聞く100の本音



文化施設に通う頻度

映画館に行くのは1ヶ月に1回未満という人が、全年代で7割を超える。 演劇に行ったことがないという人は、18-34歳の5割近く。



74.0%

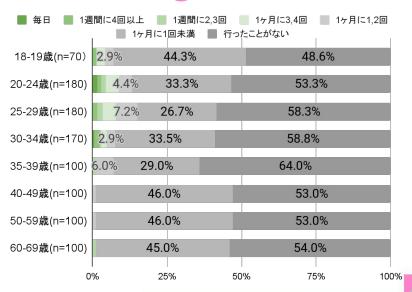
77.0%

50%

75.0%

25%





100%

17.0%

17.0%

21.0%

75%

40-49歳(n=100) 6.0%

50-59歳(n=100) 4.0%

60-69歳(n=100) 1.0%

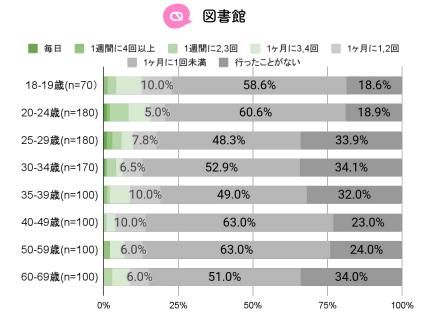
0%

55

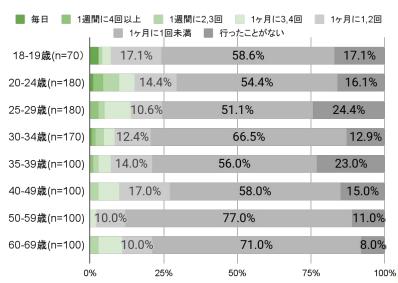


文化施設に通う頻度

図書館・書店に通う頻度は1ヶ月に1回未満という人は、全年代で7割以上。







1000本音

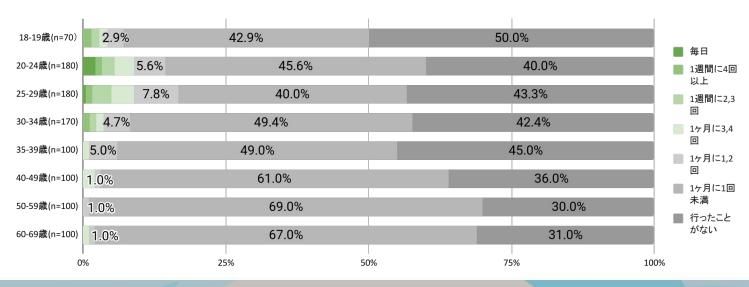




文化施設に通う頻度

8割以上の人が音楽ライブ・コンサートに通うのは1ヶ月に1回未満だが、20-29歳は1ヶ月に3,4回以上と答える人の割合が他年代より高い。

💿 音楽ライブ・コンサート



©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

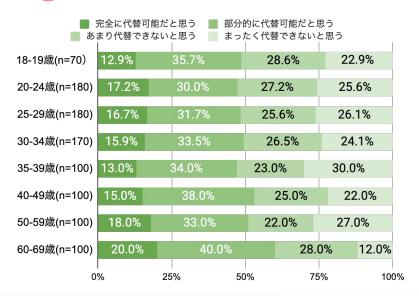
100

100

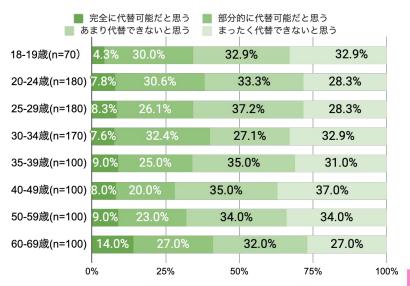
文化施設とオンライン

映画館がオンラインに代替可能だと思うのは、18-39歳の5割弱。 演劇がオンラインに代替可能だ思うのは、18-59歳の4割以下。

映画館はオンラインに代替可能だと思うか



演劇はオンラインに代替可能だと思うか

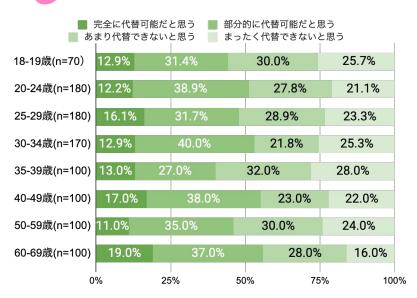


2025

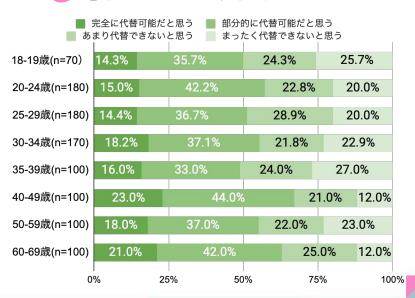
文化施設とオンライン

図書館がオンラインに代替可能だと思う人は18-34歳で約4割、書店がオンラインに代替可能だと思う人は、18-34歳で約5割。

💿 図書館はオンラインに代替可能だと思うか



■ 書店はオンラインに代替可能だと思うか



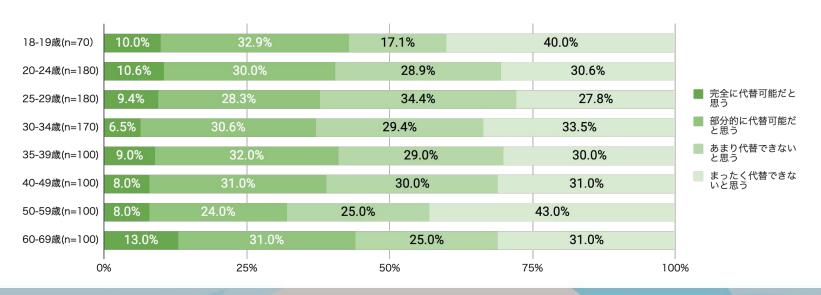
100

59

文化施設とオンライン

音楽ライブ・コンサートがオンラインに代替可能だと思う人は 18-34歳の4割近く。

💿 音楽ライブ・コンサートはオンラインに代替可能だと思うか



世代に聞く100の本音

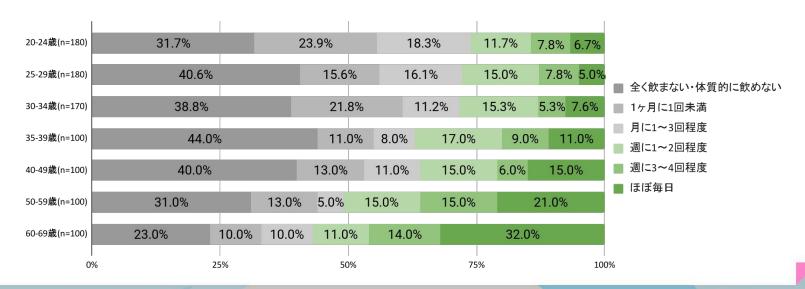




飲酒頻度

20-29歳の5割強は、お酒を飲むのが月に1~3回以下。

あなたはお酒をどれくらいの頻度で飲みますか (18-19歳を除く)



世代に聞く100の本音

-

美容への意識

化粧をしていない姿で外に出たくないという人は18-24歳が特に多い。マスクを外して人前に出ることに抵抗がある人は、18-24歳と30-34歳が特に多い。

💿 化粧をしていない姿で外に出たくない

💿 マスクを外して人前に出ることに抵抗がある



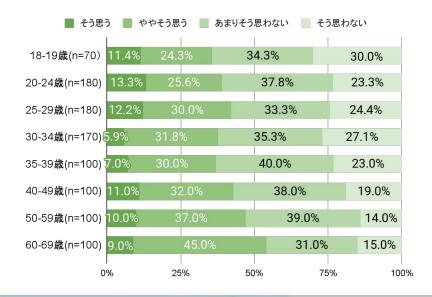


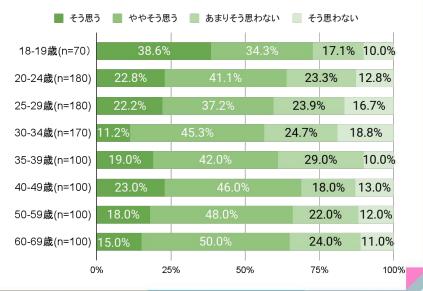
美容への意識

18-34歳の約4割がコンプレックスも含めて自分の魅力だと考えている。 外見の美しさが自他の評価に影響すると答えた人は、18-19歳が一番多い。

💿 コンプレックスも含めて自分の魅力だ

🖎 外見の美しさは、自他の評価に影響がある





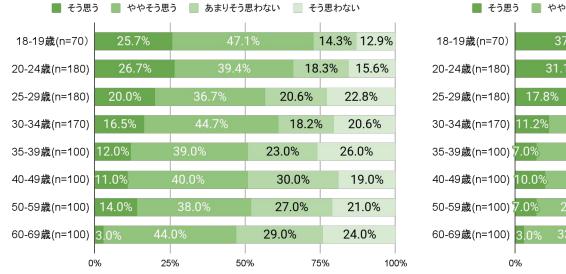
-

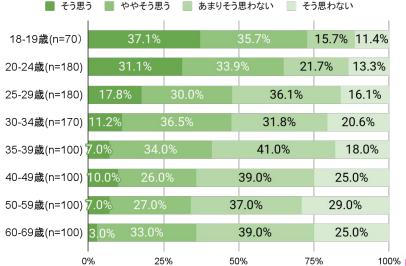
美容への意識

18-24歳の7割近くが、コンプレックス克服のための美容整形を良いと考えている。 また男性が化粧することに違和感がないという人は、18-24歳で7割近い。

💿 コンプレックスを克服するための美容整形は良いことだ

🔘 男性が化粧することに違和感がない





美容への投資

美容整形を経験した割合は、20-24歳が特に高い。 歯列矯正を経験した割合は、18-24歳が特に高い。

美容整形をしたことがありますか

■ 経験したことがある

14.0%

25%

■ 興味がない・検討していない 8.6% 64.3% 18-19歳(n=70) 20-24歳(n=180) 15.0% 22.8% 62.2% 25-29歳(n=180) 9.4% 16.7% 73.9% 79.4% 30-34歳(n=170) 35-39歳(n=100) 21.0% 73.0%

82.0%

75%

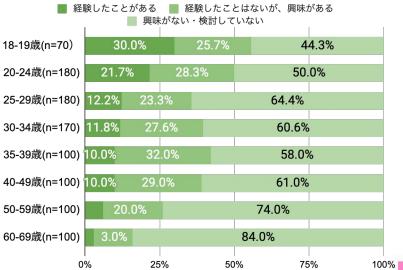
89.0%

96.0%

50%

■ 経験したことはないが、興味がある

歯列矯正をしたことがありますか



100%

100

40-49歳(n=100)

50-59歳(n=100) 10.0%

60-69歳(n=100) 1.0%

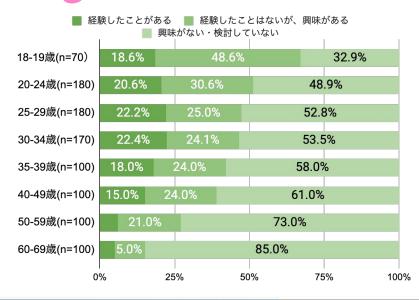
0%

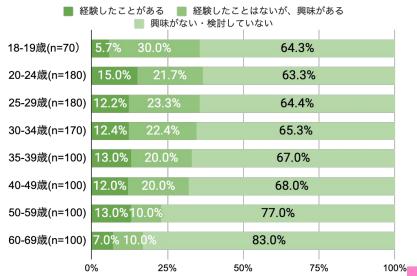
美容への投資

脱毛は、18-39歳が特に経験した割合が高く、興味を持つ人も多い。 エステは、18-49歳まで各年代で、興味を持つ割合が近い。

₹脱毛(医療・サロン)をしたことがありますか

エステをしたことがありますか





100



美容への投資

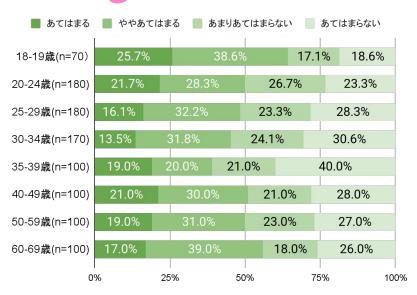
35-69歳よりも、18-34歳の方が薄毛治療の経験者の割合が高い。

◯ 薄毛治療をしたことがありますか

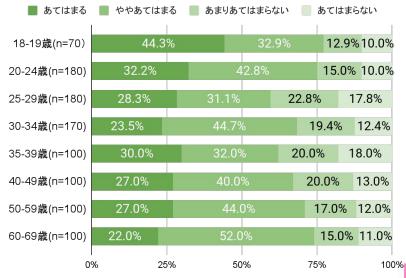


18-24歳は、本音を話せる友人がいるという人が他年代よりも多く、 他の年代よりも深い友人関係を重視するという人の割合が高い。

本音を話せる友人がいる



広く浅くよりも、少なくても深く 付き合える友人関係を重視する

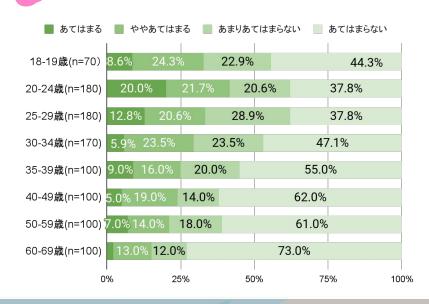


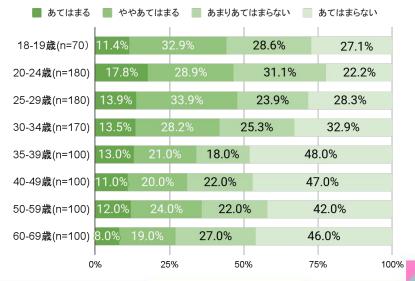
1000本音

SNSやアプリで友人ができたという人は、18-29歳に多く見られた。 一方で、18-34歳の4割近くが、SNSで友人の動向を見ることに疲れを感じている。

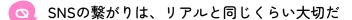
SNSやアプリで知り合った人と友人になったことがある

SNSで友人の動向を見ることに疲れを感じる

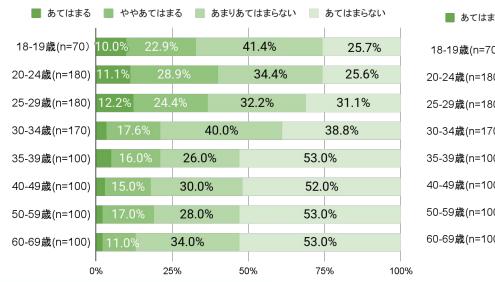


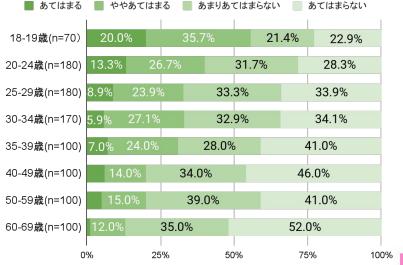


20-29歳は、SNSの繋がりをリアルと同じくらい大切にするという人が4割近い。 18-19歳は、友人がいればパートナーは必要ないという人が5割を超える。



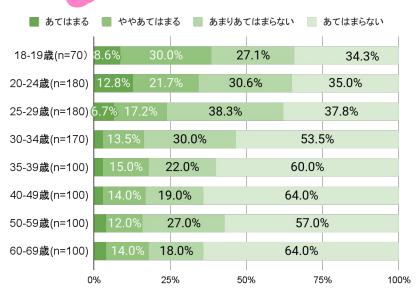
💿 友人さえいれば、パートナーは必要ないと思うことがある





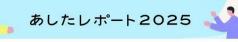
18-24歳は、複数のコミュニティに所属している人の割合が他年代より高い一方で ひとりでいることは苦ではないと答えた人の割合も7割を超える。

複数のコミュニティに属している



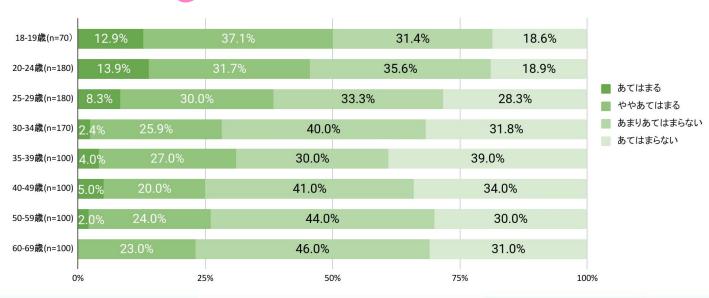
ひとりでいることは苦ではない





18-24歳では、友人の意見に左右されるという人が5割近く。 歳を取るにつれて、下がっていく傾向にある。

💿 友人の意見に意思決定が左右されることがある



1000本音

Interview



湯上響花(ゆがみ・きょうか)

2001年生。2024年9月に中央大学を卒業した知性派ギャル。Z世代に人気を誇る雑誌『Popteen』の元専属モデル。 現在は日本テレビ系「所さんの日がテン!」に実験プレゼンターとして出演しているほか、2025年千葉県警広報 イメージキャラクターに就任するなど幅広く活動中。

ライフスタイルとSNSの関係

――「現在の趣味はなんですか」という質問に対して、「SNSの閲覧・投 稿」と答えた割合が18-29歳に多く見られました(P.44参照)。湯上さん は普段SNSを使っていますか。

私はSNSを息をするのと同じくらい使っていますね(笑)。もはや趣味と いえないくらい、日常化しています。本当にデジタルネイティブ世代っ て感じがします。

――また「SNSの繋がりは、リアルと同じくらい大切だ」と感じる人が20 歳-29歳では他の年代と比較して高い結果となりました(P.70参照)。 SNSを通じた人間関係にはどのような印象がありますか。

私の周りには複数のSNSを使い分けている人が多いですね。メインのアカ ウントは名刺代わりで、職場や学校で知り合った人と交換する用。サブ アカウントの方では本当に親しい友達だけで繋がって、どうでもいいよ うなストーリーとか、表立って言うほどでもないことをアップしていま す。私はサブアカウントには個人に直接言うのは気が引けるけど誰かが 聞いてくれるといいなと思ったことなどをアップしています。そこで悩 みなどもシェアしていますね。

メンタルヘルスの問題

――18-29歳の方は特に他の年代と比べて、精神的な悩みにより、「病院 を受診したことがある」「学校や職場を休んだことがある」と答える人 が多くいました(P.25参照)。この結果はどう捉えられますか。





Interview - 湯上響花

私も高校生のときに精神科を受診したことがあります。当時は朝起きる ことができなかったのですが、学校の先生に「怠慢でしょ」と言われて 辛かったです。現在は社会人ですが、周りでも職場で適応障害になって しまったり、パワハラでうつ病になったという知人の話も耳にすること があります。

よく「自殺防止ダイヤル」など相談窓口の電話番号が紹介されているの を見かけますが、「電話ってハードル高くない!?」と個人的には思っ てしまいます。私は辛そうな友達を見たら自分の経験のことを話した り、声をかけたりしています。それこそ、クローズドなSNSで気持ちを シェアして励まし合うことも。

商品を買うときに重視すること

- 普段買い物をするときに気をつけていることについての質問では、 「人に褒めてもらえるか」や「ソーシャルメディア等で映えるか」を気 にしている・やや気にしていると答えた人の割合が特に18-29歳の間で高 く見られました(P.37-38参照)。そう実感することはありますか。

私もモデル業をしているのでSNS映えは意識しますね。今のSNS映えの基 準としては、流行のものを持っているかどうかよりも、それが自分らし いかどうかが重要になっている気がします。

たとえば私の周りはハイブランドにあまり興味を持たない人が増えてい る印象があります。自分の収入に見合っていないものは持たないという 意識の方が強いのかもしれません。

自分たちの世代は、何かを買う時に納得感があるかどうかを重視する ように思います。製品力も大事ですが、それ以上に企業倫理を気にしま す。企業姿勢が共感できないと買わないという人も多い印象です。

――また「不当な労働によって作られていないか」ということに対して も、18-29歳の方が特に気にしている人が多かったです(P.35参照)。

それは今の時代、SDGsといわれているからというよりは、リアルに自分 たちに直接繋がることが起こっているからかもしれません。そもそも若 い世代は金銭的に安価な製品の方が手を出しやすいと思います。でも安 価な製品が不当な労働によって作られていたり、品質として良くないも のだったりすることがあると耳にします。SNSなどでそんなニュースが流 れてきて気にし始める人も多いのではないでしょうか。



▲ あしたレポート2025 📣

Interview - 湯上響花

推し活について

――今回「推し活をしたことがある」という質問に対し、あてはまる・ ややあてはまると答えた方が18-34歳未満の方は5割以上という結果になり ました。35歳以上は3割弱という結果であったことから、とくにデジタル ネイティブ世代の間では「推し活」が普及していると読み取れます。湯 上さんは推し活をしていますか?(P.45参照)

推し活にもグラデーションがあるのかなと感じます。私は平成のキティ ちゃんが好きで少しずつ集めています。一方で友人は推しのCDを段ボー ル5箱分くらい買っていて、その友人と比べたら自分は推し活をしている とは言えないかもしれません。

また、私が高校時代にモデルを務めていた『Popteen』は、推し活の最前 線だったと思います。モデルごとにファンネームを決めたり、ファンに よる人気投票が行われたりしていました。私はよく「ファンは左心房で 私は右心房、ふたつを合わせて心臓!」と話していて、それくらい欠か せない存在でしたね。

よく私のファンは私に似ているね、と言われていました。「推し活は自 分のアイデンティティ形成に大きく影響する」という問いもありました が、逆に自分に似ている存在を推すこともあるかもしれません。

若者の未来は明るい?

――湯上さんはポジティブなギャルマインドを発信されていますよね。 調査では「未来は希望であふれていると思う」という質問に対して18-29 歳の5割近くが、そう思うと答える人が多い結果となりましたが、そのよ うな体感はありますか? (P.15参照)

現在、Y2K(※)といわれる平成のリバイバルが流行っていますよね。平 成のアイテムが可愛いというのはもちろん、その背景として平成のギャ ルマインドや「なんとかなるでしょ!」という明るい空気感に憧れを持 つ人が多いのではないかと思います。

私たちの世代はコロナ禍をきっかけに暗くなる時期がありましたが、Y2K のマインドに力を借りて明るくなっていったのかもしれません。一方で 政治や世界情勢を見ると、この先の未来に対しての不安はあります。良 い未来を作るためにできることをもっと発信していきたいなと感じてい ます。

※2000年代(Year 2000)に流行したファッションや文化を取り入れたスタイルの こと。Z世代を中心に人気を集める





Chapter Z

Work

仕事について









🌉 あしたレポート2025 🌄

Chapter 2:Work

「Work」では、仕事にフォーカスした調査を中心に紹介していく。戦後(1945年以降)の日本の労働環境は、経済の高度成長や産業構造の変化に伴い、大きく様変わりしてきた。終戦直後の復興期から高度経済成長期、バブル景気とその崩壊、21世紀のグローバル化・IT化・経済危機など、各時代の出来事が雇用や働き方に大きな影響を及ぼしている。働き方が多様化するなか、デジタルネイティブ世代は、「働くこと」をどう捉えているのだろうか。特に注目したいトピックスは以下の3つだ。

仕事の選び方

デジタルネイティブ世代は、どのように仕事を選択しているのだろうか。 現在の雇用状況・経験がある働き方に加え、職場でのコミュニケーションスタイルについても調査を行った。

キャリアアップへの志向

ワーク・ライフ・バランスという言葉が聞かれるようになったが、デジタルネイティブ世代はキャリアアップについて どのように捉えているのだろうか。理想とする個人年収、最終的に到達したい役職等の調査を通じて、キャリアアップへの志向を読み解く。

キャリアの多様化

昨今、フリーランスや副業など、さまざまな働き方が認められるようになってきた。終身雇用一辺倒でない時代において、 デジタルネイティブ世代はどのような働き方を選択しているのだろうか。副業、育休・産休の状況に関して調査した。

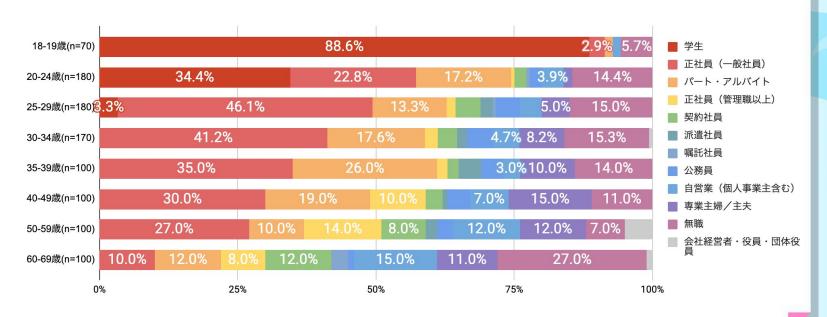
本章の最後では、章末では『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』(集英社新書、2024年)がベストセラーとなった 三宅香帆さんにインタビューを実施。ご自身の経験も踏まえつつ、「現代の若者と労働」について伺った。



Chapter 2

雇用形態 (基本質問)

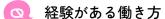
現在の雇用形態

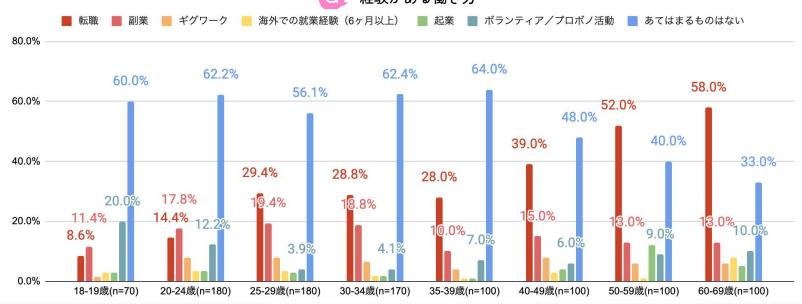




経験がある働き方

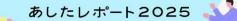
25-34歳の3人に1人は転職経験、5人に1人は副業経験がある。 18-19歳は全年代を通してボランティア/プロボノ活動経験率が最も高い。





@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

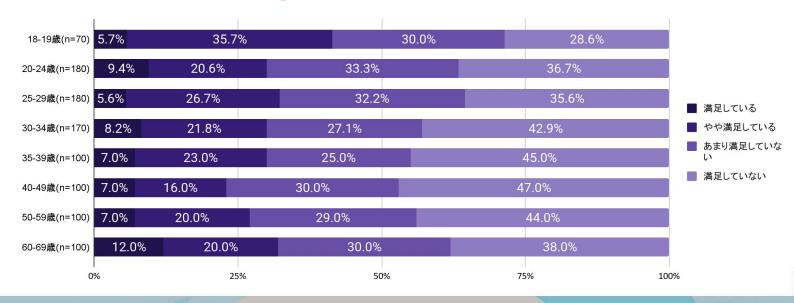




個人年収 (満足度)

20-34歳の約7割が現在の個人年収に満足していない。

◎ 今の個人年収に満足しているか



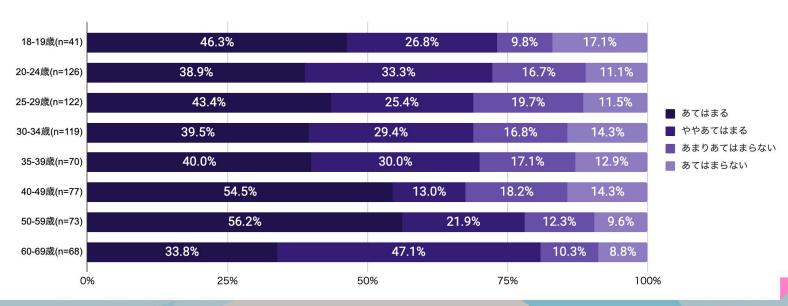


あしたレポート2025 🎎

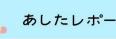
個人年収(不満がある理由)

個人年収に満足していない理由は、全年代の7割近くが生活費を賄えないからと回答。

今の個人年収に満足していない理由:生活費を十分に賄えないため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)

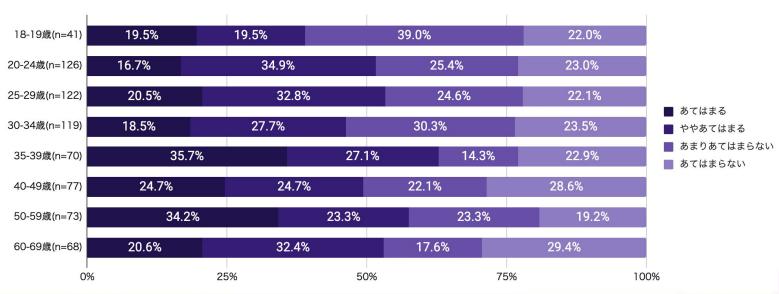


©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



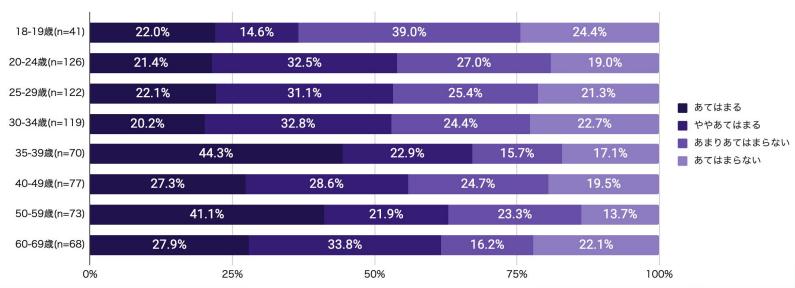
個人年収に満足していない理由は、20代の5割近くが同僚と比較して低いと感じると回答。

今の個人年収に満足していない理由:同僚と比較して低いと感じるため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)



個人年収に満足していない理由は、20-34歳の5割超が業界水準と比較して低いと回答。

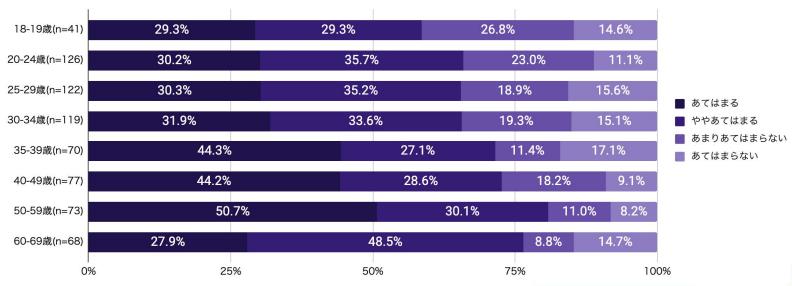
今の個人年収に満足していない理由:業界水準と比較して低いと感じるため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)





個人年収に満足していない理由は、20-34歳の7割弱が ライフイベントに対応できないと回答。

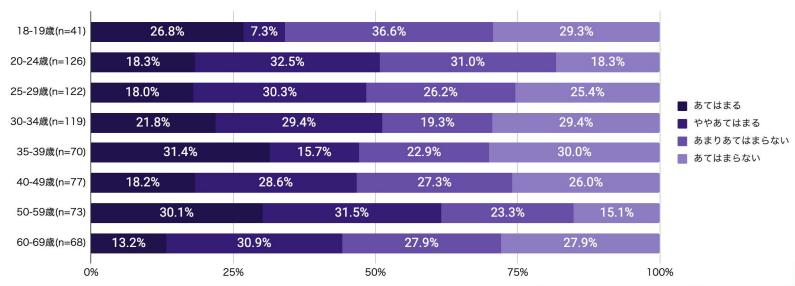
● 今の個人年収に満足していない理由:年収が将来の家族計画やライフイベントに対応できないと感じるため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)





個人年収に満足していない理由は、20-34歳のおよそ5割近くが 労働時間・労働負担が大きすぎると回答。

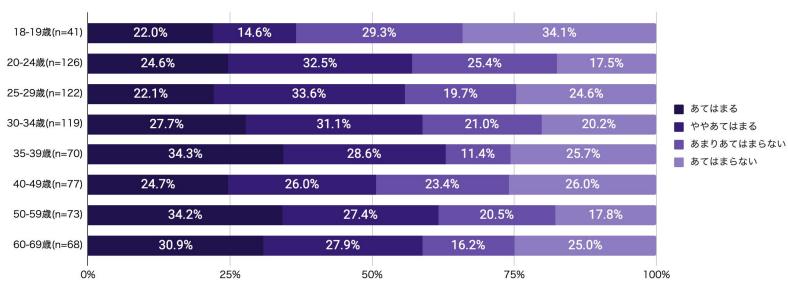
○ 今の個人年収に満足していない理由:年収に比べて労働時間や業務負担が大きすぎると感じるため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)





個人年収に満足していない理由は、20-34歳の5割超が成果報酬が不十分と回答。

今の個人年収に満足していない理由:ボーナスや成果報酬の制度が不十分だと感じるため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)



100

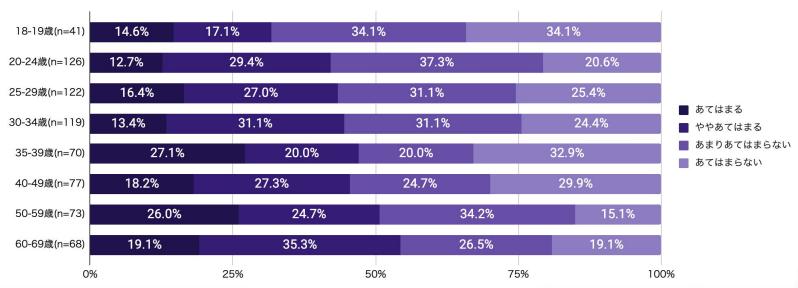
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

87

個人年収(不満がある理由)

個人年収に満足していない理由は、20-34歳の4割強がスキルが適切に評価されていないと回答。

今の個人年収に満足していない理由:自分のスキルや経験が適切に評価されていないと感じるため (「今の個人年収に満足しているか」の質問に「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた方のみ回答)





理想の個人年収

25-34歳における理想の個人年収は、300万円~499万円が最多。

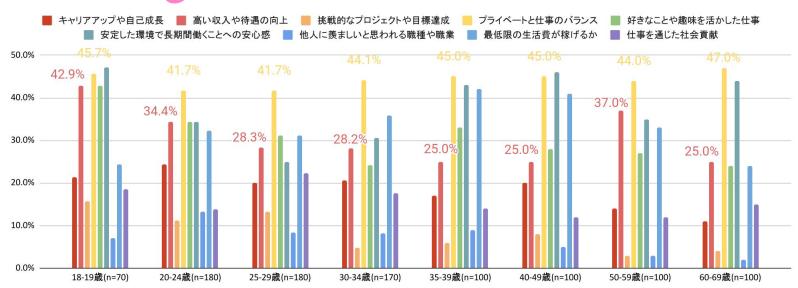
💿 理想とする個人年収





20歳以降はプライベートと仕事のバランスがほぼ首位。 若年層は高い収入や待遇の向上、好きなことや趣味を活かした仕事も重視。

ご自身が職業を選択する際に重視する要素をすべて教えてください

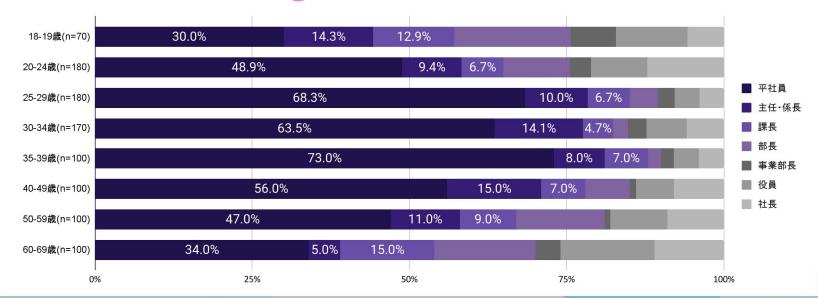




出世に関する意向

25-34歳の約7割が最終的に到達したい役職は平社員。

🔾 最終的に到達したい役職

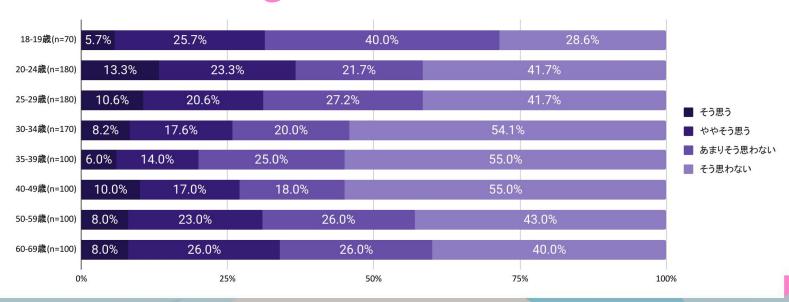




職場でのコミュニケーション

25-34歳のおよそ7割は、職場の飲み会への参加に消極的。

🖎 職場での飲み会に参加したい



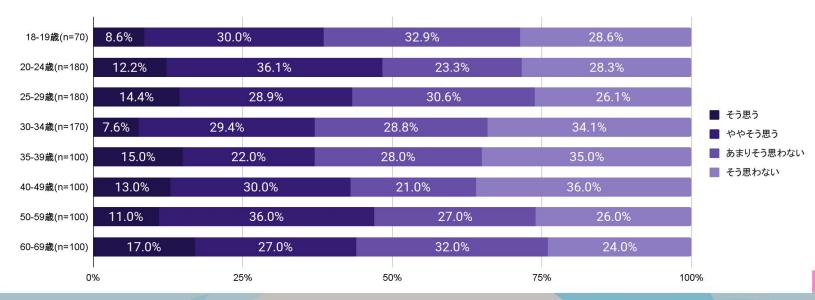
1000本音



職場でのコミュニケーション

25-34歳の6割近くが、上司とプライベートな話をすることに抵抗がある。

💿 普段、上司とプライベートな話をすることに抵抗がない

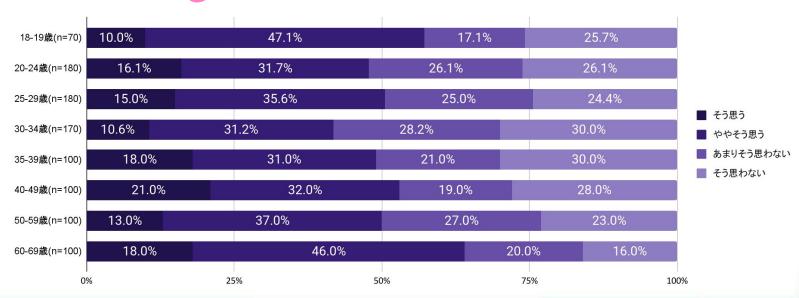




職場でのコミュニケーション

20代の約5割は、同期や後輩とプライベートな話をすることに抵抗がある。

💿 普段、同期後輩とプライベートな話をすることに抵抗がない

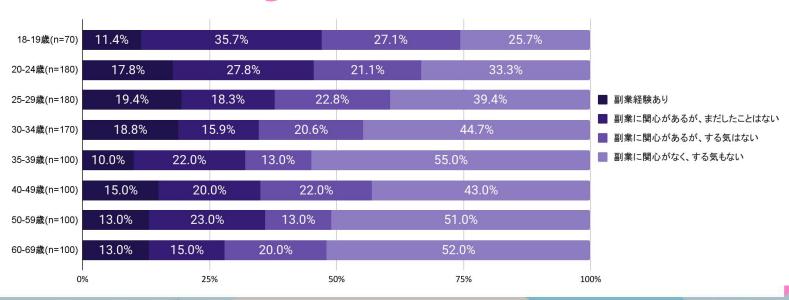




副業

20-34歳において、約2割が副業を経験済み。

副業の実施状況・関心



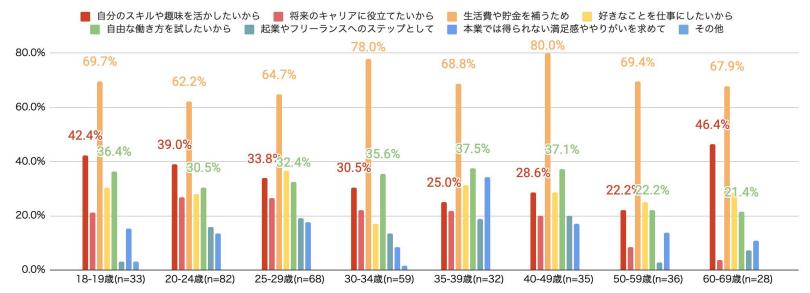
1000本音



副業に関する意向(する理由)

18-34歳において、副業をする理由の首位は生活費や貯金を補うため。 その他、スキルや趣味の活用・自由な働き方への試行が上位を占める。

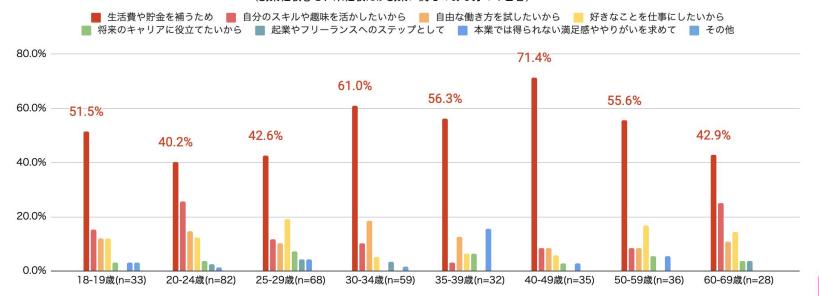
> 副業をする理由のうち、当てはまるもの全て (副業経験者と、未経験だが副業に関心のある方のみ回答)



副業に関する意向(する理由)

18-34歳において、副業をする最も大きな理由は生活費や貯金を補うため。

副業をする理由のうち、最も当てはまるもの (副業経験者と、未経験だが副業に関心のある方のみ回答)





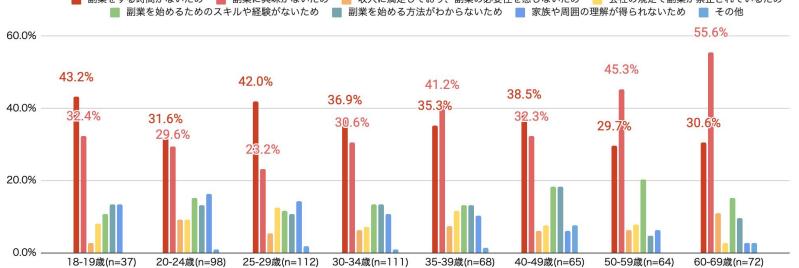
副業に関する意向(しない理由)

18-34歳において、副業に割く時間がない、または 副業に興味がないという答えが副業をしない理由の上位として挙げられる。

> 副業をしない理由のうち、当てはまるもの全て (副業経験者と、未経験だが副業に関心のある方のみ回答)

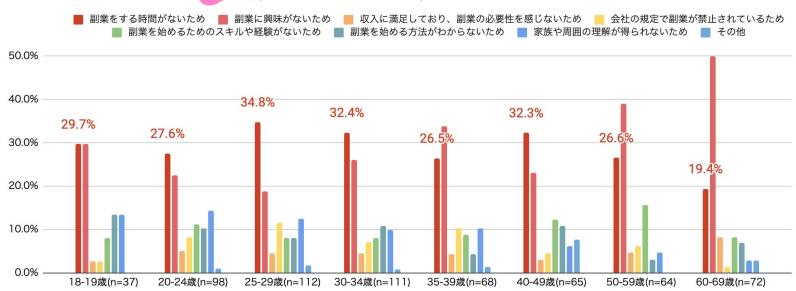
副業をする時間がないため 📕 副業に興味がないため 収入に満足しており、副業の必要性を感じないため

会社の規定で副業が禁止されているため



副業をしない理由は、18-34歳で時間がない人が最多。

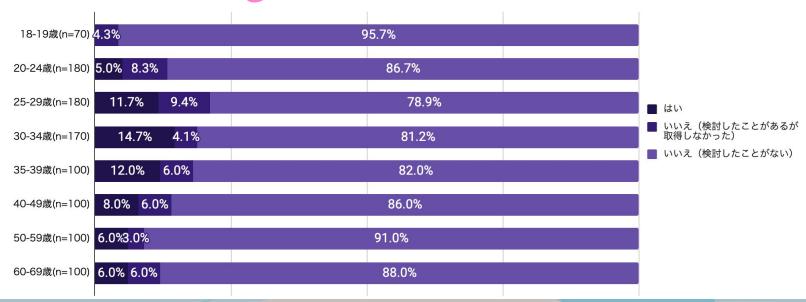
副業をしない理由のうち、最も当てはまるもの





育休・産休

25-39歳の1割強が育休・産休を取得したことがある。

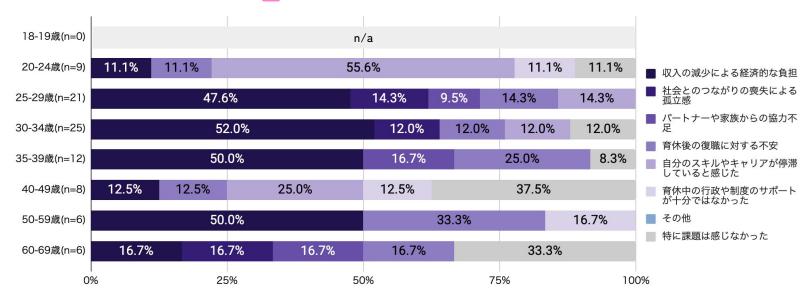




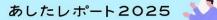
育休・産休(課題)

育休・産休を取得した人のうち、 25-34歳の5割以上が感じていた課題は、経済的負担。

🖎 育休・産休取得時に感じた課題

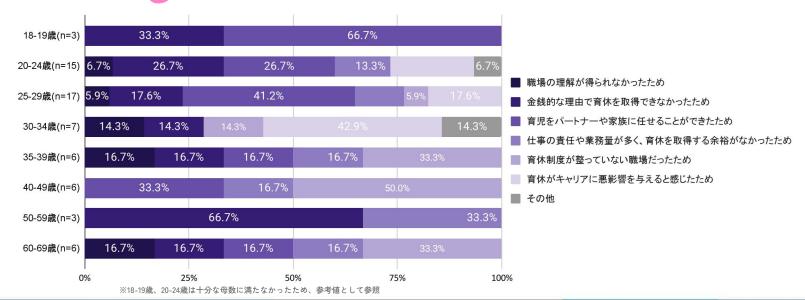






育休・産休(しない理由)

育休・産休取得を検討したが、取得しなかった理由として、25-29歳の4割が 「育児をパートナーや家族に任せることができたため」と回答。





Interview



三宅香帆(みやけ・かほ)

文芸評論家。京都市立芸術大学非常勤講師。1994年高知県生まれ。京都大学人間・環境学研究科博士後期課程中退。 リクルート社を経て独立。主に文芸評論、社会批評などの分野で幅広く活動。著書『なぜ働いていると本が読めな くなるのか』(集英社新書)『「好き」を言語化する技術』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)等多数。

若年層のキャリア観について

一職業選択の際に重視する要素について、若年層には「キャリアアップを望む若者」も一定数いるものの、多数派は「ワーク・ライフ・バランスを重視する」「安定した環境で働きたい」という回答が多いようです(P.89参照)。さらに、最終的に会社員として到達する役職が平社員でも満足する人が非常に多いことがわかりました。(P.90参照)

結果を拝見して思うのは、若い世代ほど仕事単体でキャリアを考えるというよりも、「自分の人生全体における一部」と捉えているのではないかということです。昔であれば、キャリアはキャリアとして独立に考えたうえで、結婚や出産といったライフイベントを別に考えていたかもしれません。しかし今の若者は、「キャリアがうまくいくこと」と「人生設計がうまくいくこと」が必ずしもイコールではないと考えているように感じます。

たとえば、「管理職にならなくてもいい」と考える背景には、「仕事にコミットしすぎると、子育てを含む将来設計が難しくなるのではないか」といった不安もあるかもしれません。仕事以外の自己実現やライフイベントとの配分を考え、多様なバランスの取り方を模索している結果だと思います。



あしたレポート2025 🌄

Interview - 三宅香帆

若年層と収入について

――「現在の個人年収に満足しているか」という質問には、どの世代も7割近くが「満足していない」と回答しています。特に20-34歳では「現在の年収では生活費を十分に賄えないと感じるため」が最上位の理由でした。(P.80-81参照)他者との比較よりも、最低限の生活水準を維持することが難しいという現状がうかがえますが、この結果はどのように考えればよいでしょうか。

若年層は上の世代に比べて、税金や社会保険料といった負担が増えている一方、賃金がインフレに追いついていない現状があると思います。いくら頑張っても手取り額が伸びず、実質的に生活費が苦しくなる。そのため「もっと上を目指したい」というよりは「まずは今の収入で生活を維持できるかが不安」という感覚が強いのではないでしょうか。

副業について

<u>全年代を通じて「生活費や貯金を補うため」が副業をする理由の最上位に位置する一方で、「自己実現」を求めて副業を行う傾向がありま</u>す。(P.95参照)

やはり「手取りが厳しい」という状況から、副業で生活費を補うのは自然な流れだと思います。実際、好きなことを副業化する例も増えていますが、それだけでは十分な収入を得られないという課題意識もあり、そのギャップに悩む若年層も少なくないと思います。もちろん「やりたいことを仕事にしたい」というモチベーションもあると思いますが、給与制度としては年功序列の考えもまだ根強いなかで、「会社にいても年収アップが見込めない」という現実も大きいのではないでしょうか。

フリーランスなら自分のスキルや営業次第で報酬を増やせる可能性があるので、「会社にいても給料が上がらないのであれば、自分で稼ぐ道を 選びたい」という選択肢が一定は広がっている面もあると思います。



あしたレポート2025 🎶

Interview - 三宅香帆

今後の働き方について

<u>三宅さんも『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』(集英社、2024年)で長時間労働や自己犠牲的な働き方に警鐘を鳴らしていますよ</u>ね。

「ワーク・ライフ・バランス」というと、趣味などに時間を使いたい、というイメージが強いかもしれませんが、実際には「共働きで家庭や子育てを両立する」ことも非常にハードルが高いのが現状です。仕事と趣味や家族との時間をうまく両立しようとする人も増えてはいますが、どうしても日本では「全身全霊で仕事しないと評価されない」という考え方が根強いのも事実ですね。

私にとって過去に対談した針貝有佳さんの著書『デンマーク人はなぜ4時に帰っても成果を出せるのか』(PHP研究所、2023年)は興味深い本でした。本書を読んで、欧米と比較し日本では「礼儀に時間を費やすこと」が働き方に大きく影響しているのではないか、という仮説を持ちました。たとえば本書では、会議を1時間ではなく50分に設定するだけで時間効率が上がる」というテクニックが紹介されているのですが、これを日本でやろうとすると「そんな提案をすること自体、相手に失礼にならないか」などの配慮が優先されて導入しづらいと感じてしまいます。結果、生産性を上げるのが難しくなっている面もあるのではないでしょうか。

<u>一一今後サステナブルな形で若年層が働いていくために、注目している</u> 社会の動き等があればご教示ください。

コロナ禍を経てオンライン会議が普及したこともあり、地方に拠点を置く若者が増えているのは希望を感じます。東京一極集中だと、先述した礼儀やマナーの観点において同質性が高くなりがちですが、多様な場所に住む人がオンラインを通じてコラボレーションすることで、働き方や礼儀作法の基準にも多様性が生まれやすい。

すでに二拠点居住やリモートワークが進んでいますが、これがさらに進めば「全身全霊で仕事をする以外の選択肢」もより認められていくと思います。時間や働く場所の制約を超えて、個人がいろいろなかたちで成長しながら仕事と生活を両立できる。そんなサステナブルな働き方が、今後さらに広がってほしいですね。





_ove

恋愛・結婚・子どもについて



Chapter 3:Love

かつて主流だったお見合い結婚から、恋愛結婚が一般的となった現代。未婚者の増加やLGBTQ+の認知拡大など、固定化された恋愛・結婚観は大きく変容している。こうした変化のなかで、恋愛や結婚、子育てを含むライフプランについて、デジタルネイティブ世代はどのように考えているのか。本チャプターでは、恋愛、結婚、子どもという3つに分けて、デジタルネイティブ世代はそれぞれの捉え方を探る。

デジタルネイティブ世代の恋愛観

現代社会では、異性愛・同性愛の枠を超え、恋愛をする・しないという選択肢も含め、多様な恋愛観が受け入れられつつある。 かつての異性愛中心の恋愛至上主義から脱却しつつあるなかで、デジタルネイティブ世代は「恋愛」をどのように捉えているのだろうか。

多様化する結婚観

法律婚には、法的にパートナーとの関係を証明できるだけでなく、税制優遇などの経済的メリットもある。一方で、婚姻届を提出せずに 共同生活を営む「事実婚」を選択するケースも増えている。また、選択的夫婦別姓や同性婚の法制化といった法改正の議論も活発化しているなど、 結婚の形が多様化するなかで、デジタルネイティブ世代は「結婚」にどのような価値を見出しているのか。

子どもを持つことについてどう考えている?

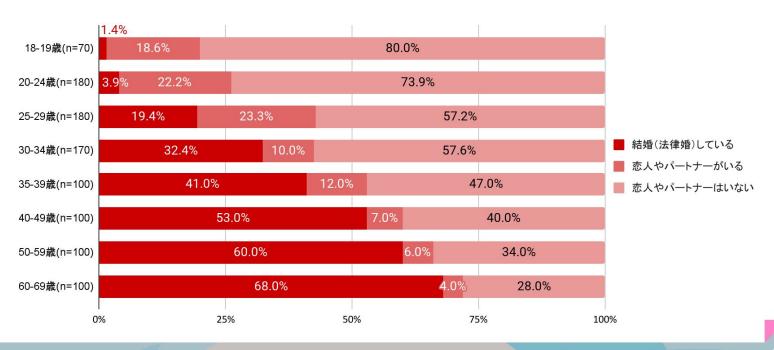
各自治体では、子育てしやすい環境づくりのために制度の整備や支援の拡充が進められている。また、不妊治療や卵子・精子の凍結といった 高度生殖医療の発展により、ライフステージに応じた選択肢が広がりつつある。しかしながら、出生数は減少し続け、少子化の流れは止まらない。 こうした状況のなかで、デジタルネイティブ世代は「子どもを持つこと」にどのような考えを抱いているのだろうか。

そして、本チャプターの最後には結婚・妊娠・出産と家族形成について調査研究されている家族社会学者の永田夏来氏へのインタビューを通じ、 デジタルネイティブ世代の恋愛・結婚・子ども観の背景にある社会的要因を深掘りする。



恋愛・結婚状況(基本質問)

恋愛または結婚についてご自身の状況にあてはまるものを1つ教えてください

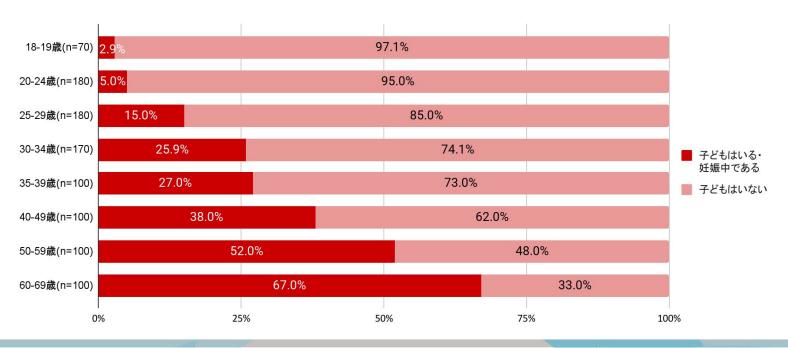


世代に聞く100の本音



子どもの有無(基本質問)

現在、子どもはいますか



100の本音

©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

109

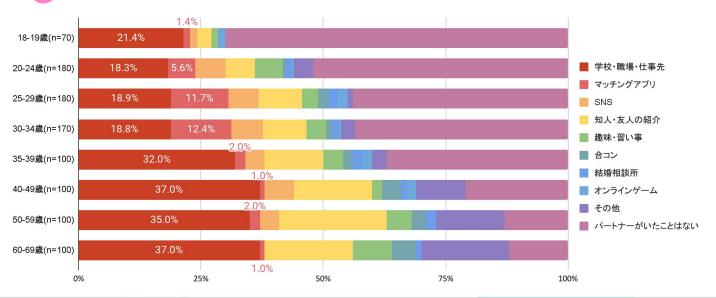


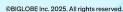
🖊 あしたレポート2025 🍑

パートナーと出会ったきっかけ

どの年代も、学校・職場・仕事先での出会いが最も多いが、 25-34歳は、マッチングアプリでの出会いが1割強で、他年代より高い。

💿 直近のパートナーと出会ったきっかけにあてはまるものを1つ教えてください







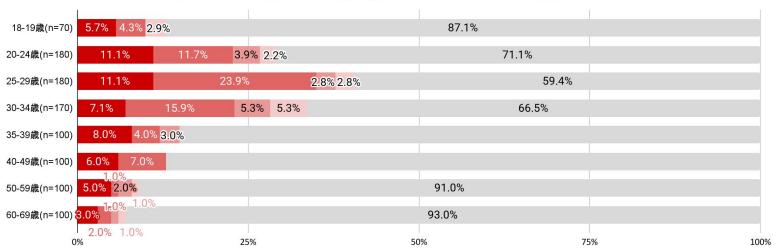
あしたレポート2025 🎎

マッチングアプリの利用状況

20-34歳はマッチングアプリ利用経験者の割合が他年代より高い。 アプリで出会い、結婚したことがある人は、20-29歳で約6%、30-34歳では約10%。

💿 マッチングアプリの利用状況について教えてください

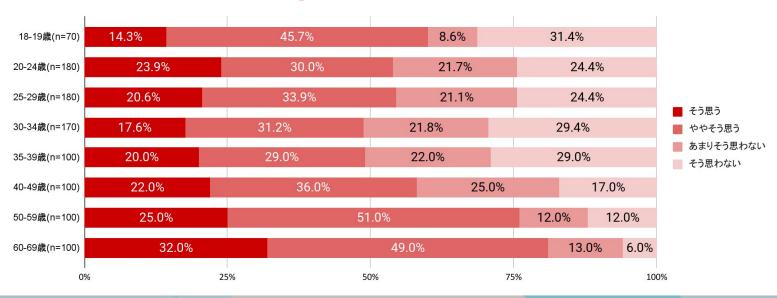
■ マッチングアプリを経由して出会ったが、付き合ったことはない ■ マッチングアプリを経由して出会い、付き合ったことがある □ マッチングアプリを経由して出会い、結婚したことがある マッチングアプリを経由して出会い、結婚したことがある マッチングアプリを使ったことがない





恋愛を楽しいと思う人は20-39歳で約5割と、他年代より低い。

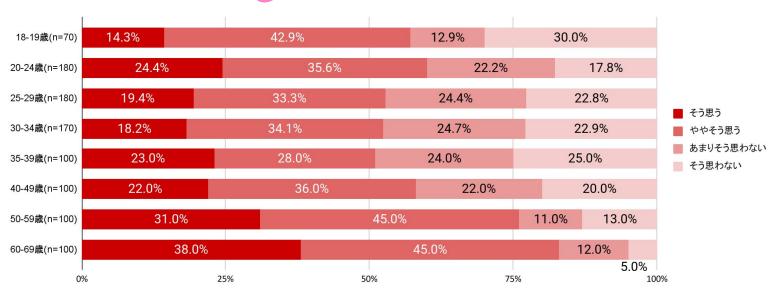
恋愛は楽しい





恋愛は人生に必要だと思う人は25-39歳で約5割と、他年代より低い。

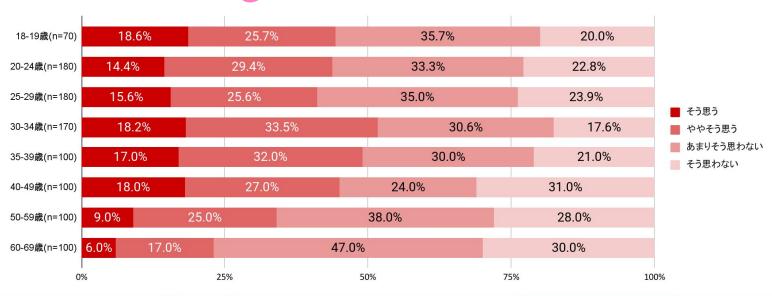
💿 恋愛は人生に必要である



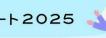


18-29歳の約4割、30-39歳の約5割は、恋愛はコスパが悪いと思っている。

恋愛はコスパが悪いと思う

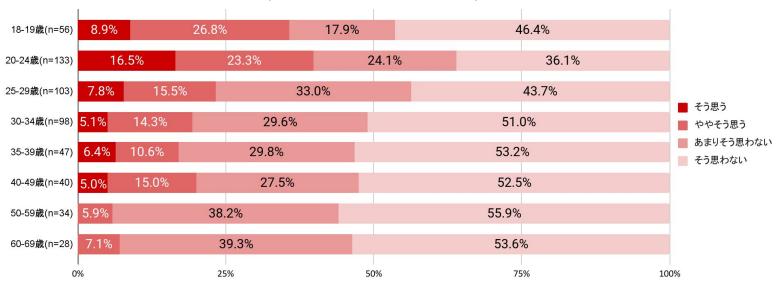


100の本音



現在恋人やパートナーがおらず、恋愛していないことに焦りを感じる人は、 どの年代も4割以下。

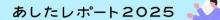
> 恋愛をしていないと、焦ることがある (恋人やパートナーがいない方のみ回答)



@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

115

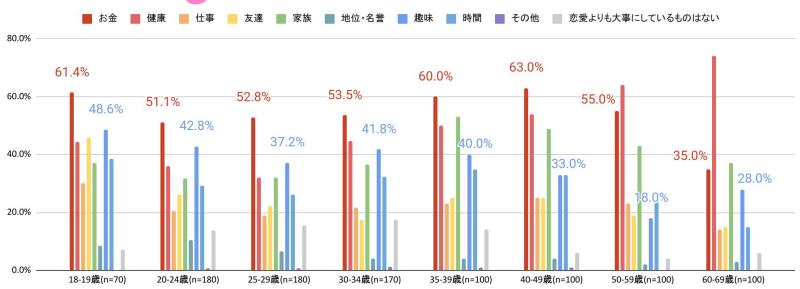




恋愛よりも大事にしたいこと

18-49歳は、恋愛よりもお金を最も大事にしている。また、18-29歳は他項目と比較して、趣味を大事にしている人が多い。

◎ 恋愛よりも大事にしたいことをすべて教えてください

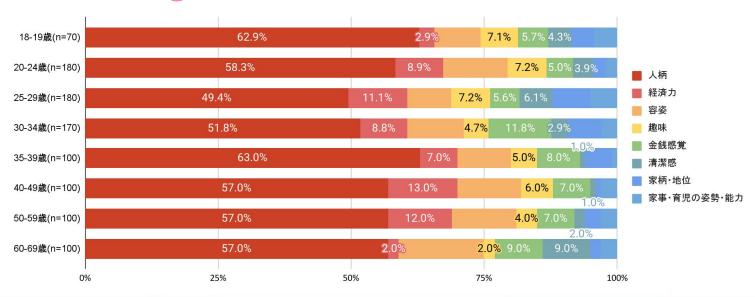




恋愛で最も重要視すること

恋愛において、どの年代も人柄を最も重視している。 18-29歳は他の年代と比較して、趣味と清潔感を重視する傾向。

恋愛で最も重要視する項目を教えてください

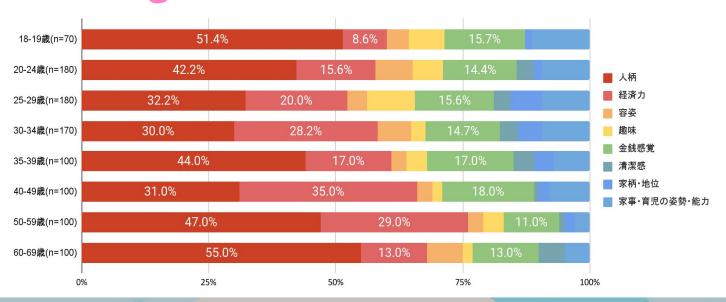


100

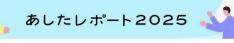


結婚において、40-49歳を除く年代では、人柄を最も重視している。 結婚は恋愛よりも、経済力や金銭感覚といった金銭面を重視する傾向が強まる。

結婚で最も重要視する項目を教えてください



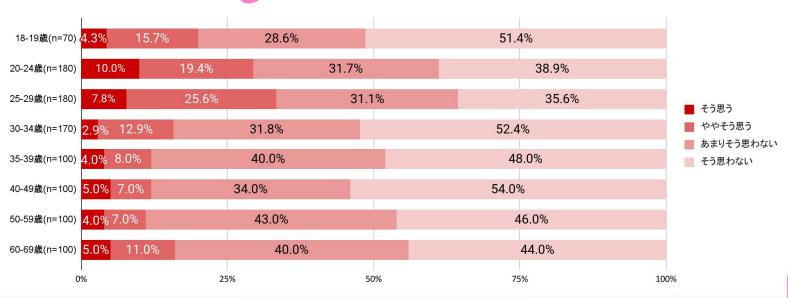
100



結婚観

20-29歳の3割近くが、結婚は人生のゴールだと考えるが、35-59歳は1割程度。

○ 結婚は人生のゴールだと思う



1000本音

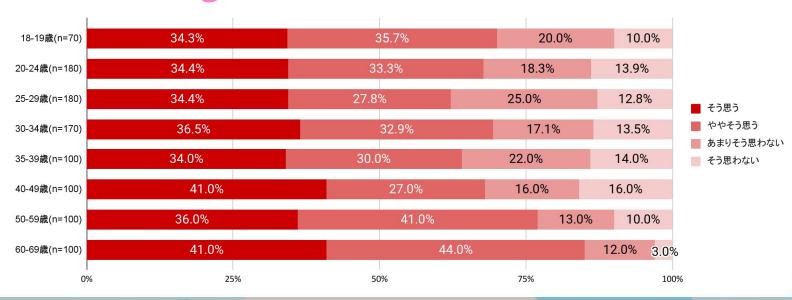




結婚観

全年代で6割以上が、周囲から結婚状況を干渉されることを嫌がる。

周囲から結婚状況を干渉されることは嫌だ



1000本音

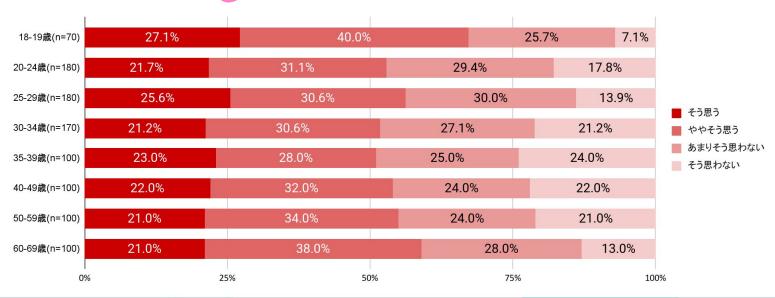
Chapter 3



結婚観

どの年代も5割以上の人が離婚にマイナスのイメージを持っている。

離婚にマイナスのイメージがある

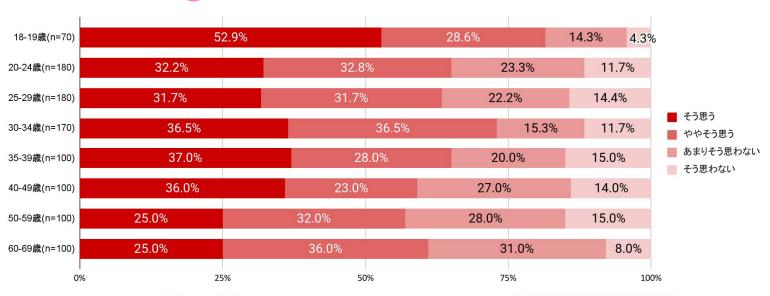




結婚観

どんな状況でも不倫を絶対に許すべきではないと思う人は、18-39歳では6割以上。

どんな状況でも不倫は絶対に許すべきではない



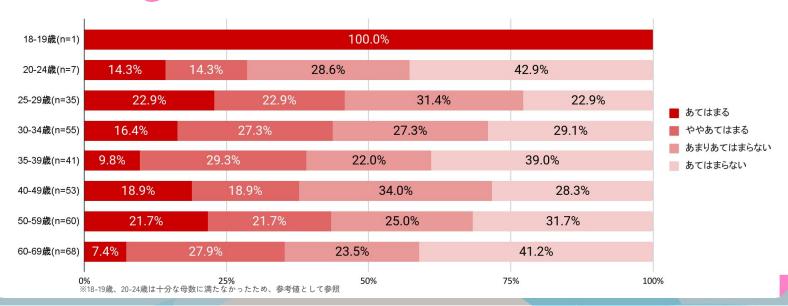
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



既婚者の結婚観

結婚を後悔したことがある人は、25-34歳と50-59歳で4割以上。

🖎 結婚生活を振り返って、結婚を後悔したことがある







既婚者の結婚観

25-34歳、40-49歳の既婚者は、他の世代と比較して、離婚してもよいと思っている。

◎ 離婚してもよい



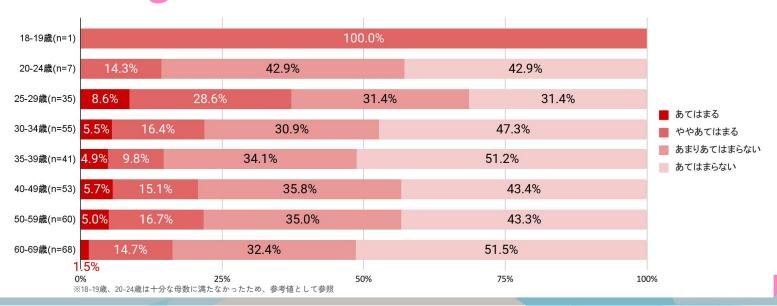
124



既婚者の結婚観

25-29歳の既婚者は他の年代と比較して、特に未婚者に対して優越感を抱いている。

🖎 結婚していることで未婚者に対して優越感を感じる



apter 3 Love

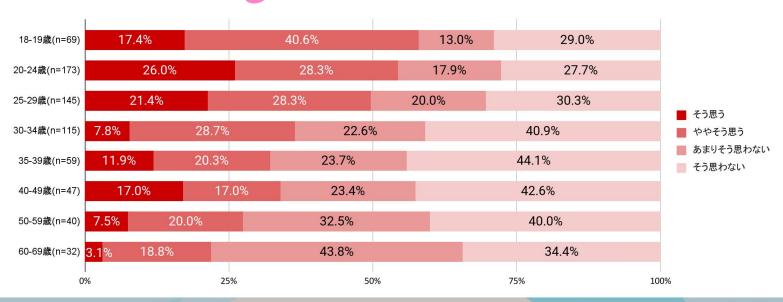
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



未婚者の結婚意欲

20歳-29歳で約5割、30-34歳で約6割が、結婚したいと思っていない。

🖎 結婚(法律婚)したいですか



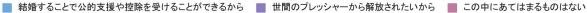


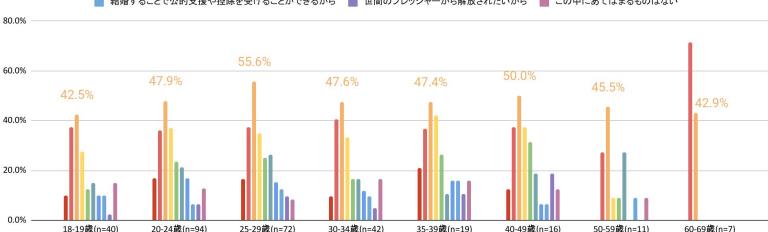
未婚者の結婚したい理由

いま未婚で結婚したい人は、精神的な安定を求めている。

結婚したい理由としてあてはまるものをすべて教えてください (「結婚したいですか」の質問に対して「そう思う」または「ややそう思う」と答えた方のみ回答)

■ 親や周囲の期待に応えることができるから ■ (法的に)人生のパートナーとして共に生きていきたいから ■ 精神的な安定を得ることができるから ■ 経済的な安定を得ることができるから ■ 社会的な信用を得ることができるから ■ 子どもを持つために結婚することが自然だと思っているから ■ 親から独立できるから





※60-69歳は十分な母数に満たなかったため、参考値として参照





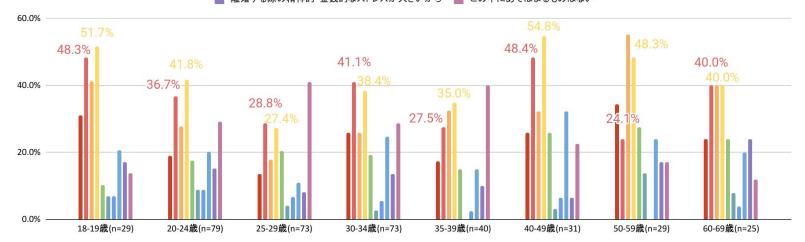
未婚者の結婚したくない理由

いま未婚で結婚したくない人は、結婚の必要性を感じていない。そして、時間と金銭の自由が奪われると感じている。

結婚したくない理由としてあてはまるものをすべて教えてください (「結婚したいですか」の質問に対して「そう思う」または「ややそう思う」と答えた方のみ回答)

■ 家族などへの責任が生まれるから ■ 自分の時間・金銭的な自由が奪われるから ■ 適当な相手がいないから ■ 結婚の必要性を感じていないから

■ 金銭的に結婚が難しいから ■ 恋愛が自由にできなくなるから ■ 仕事がしづらくなる・やめないといけなくなるから ■ 両親や義父母、親戚などと関係性を持たないといけないから ■ この中にあてはまるものはない



4

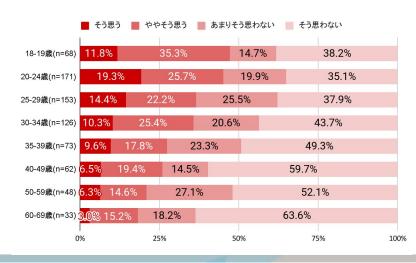
子どもはほしいか

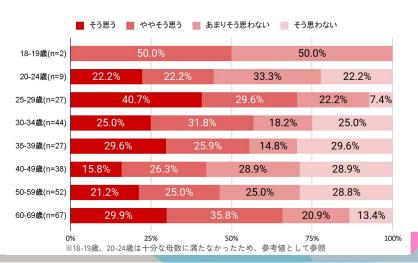
子どもがいない20-34歳の約6割が、子どもをほしいと思っていない。 年齢が上がるごとに、子どもをほしいと思わない人が増える。

💿 子どもはほしい、もっとほしい

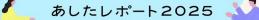
子どもはいない

子どもはいる・妊娠中である









子どもがほしい理由

子どもがほしい理由は、子どもが好きだからと パートナー・結婚相手との子どもがほしいからが、どの年代も多い。

子どもはほしい・もっとほしい理由としてあてはまるものをすべて教えてください (「子どもはほしい・もっとほしい」の質問に対して「そう思う」または「ややそう思う」と答えた方のみ回答)

■ 子どもが好きだから ■ パートナー・結婚相手との子どもがほしいから ■ 親になりたいから 結婚したら子どもを持つことは自然だと考えているから ■ 老後の生活に安心感を得たいから ■ 親族や友人に子どもができたから ■ 自分の家系を絶やしたくないから その他 58.8% 60.0% 54.0% 48.6% 45.7% 44.0% 47.1% 43.8% 45.5% 40.7% 41.3% 43.8% 38.3% 39.4% 40.0% 32.9% 28.0% 20.0% 0.0% 18-19歳(n=33) 20-24歳(n=81) 25-29歳(n=75) 30-34歳(n=70) 35-39歳(n=35) 40-49歳(n=32) 50-59歳(n=34) 60-69歳(n=50)

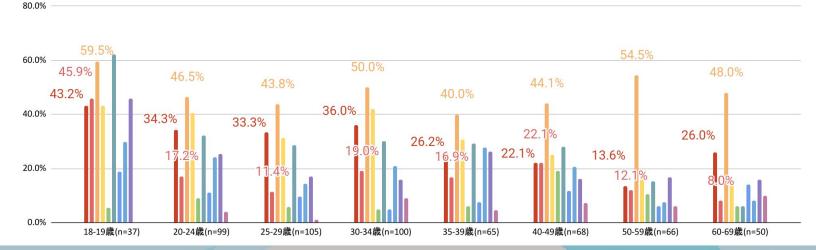


子どもがほしくない理由

20-34歳は、経済的負担や自由時間を失うことに並び、 子どもが苦手という回答も多い。

子どもはほしくない理由としてあてはまるものをすべて教えてください (「子どもはほしい・もっとほしい」の質問に対して「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた方のみ回答)

■ 子どもが苦手・嫌いだから ■ 仕事と育児の両立が大変だから ■ 経済的な負担が大きいから ■ 自由な時間がなくなるから ■ 健康上の理由で出産や妊娠が難しいから 出産や育児に自信がないから ■ 子育て支援が不十分だから ■ 社会が子育てに優しくないから ■ 社会の将来に期待できず、子どもがかわいそうだから ■ その他



057

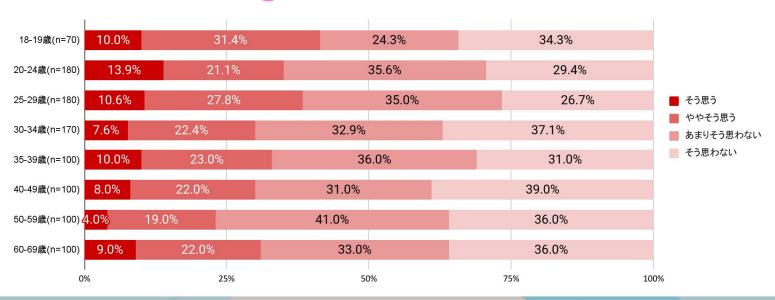
100



養子緣組

18-29歳は約4割は養子縁組に抵抗がなく、他の世代よりも割合が高い。

養子縁組に抵抗がない



100の本音



全年代を通じて、卵子凍結を知っている人は約7割以上。 20-34歳の2割以上は関心があり、他の年代と比較して高い。

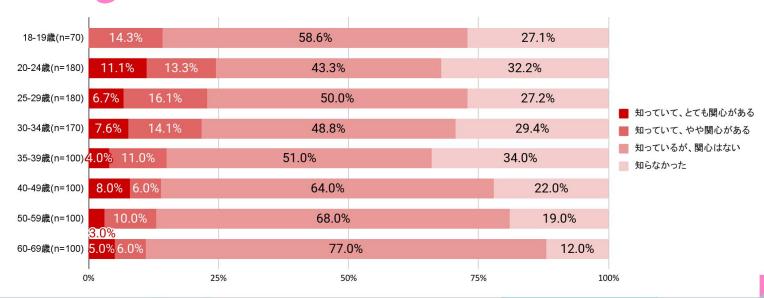
卵子凍結について知っていますか、どのくらい関心がありますか



100の本音

精子凍結を知っている人は、18-39歳で約7割。 卵子凍結と同じく、20-34歳の2割以上は関心があり、他の年代と比較して高い。

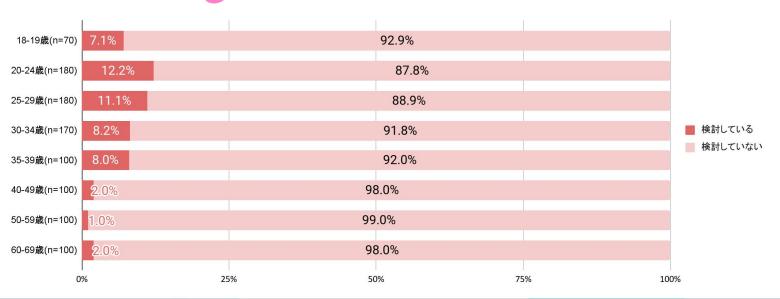
精子凍結について知っていますか、どのくらい関心がありますか





卵子凍結・精子凍結を検討している人は、18-39歳では約1割で、 他の年代と比較して高い。

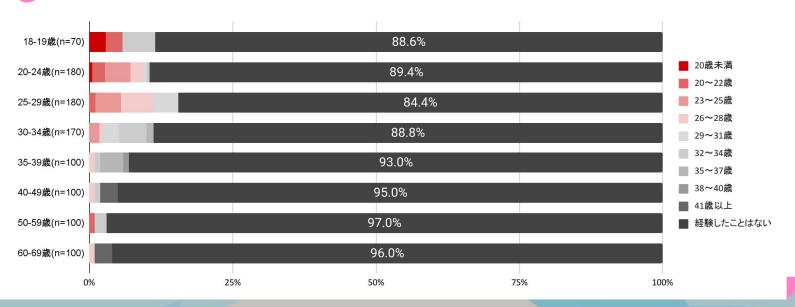
卵子凍結・精子凍結は検討していますか





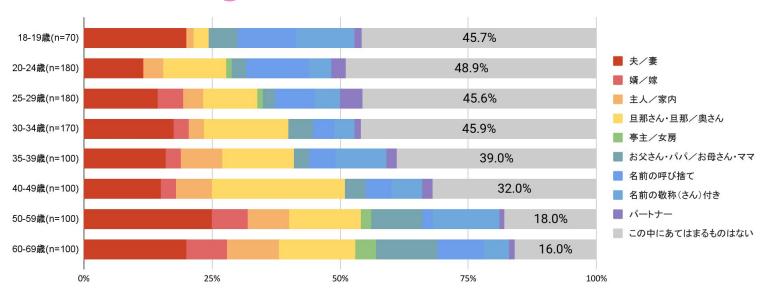
卵子凍結または精子凍結を経験したことがある人は、18-34歳では約1割。

卵子凍結・精子凍結は経験したことはありますか、経験者は初めて受けた年齢を教えてください



18-49歳では、この中にあてはまるものはないが最も多く、 人前で配偶者を独自の呼称で呼ぶ人が多い。

人前で配偶者を何と呼びますか



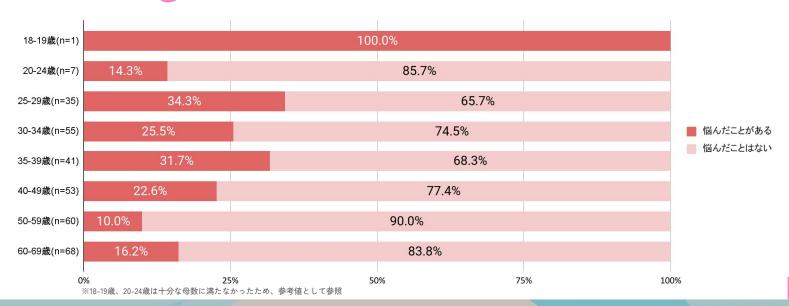
100

4

既婚者が配偶者の呼び名に悩んだ経験

既婚者のうち、25-29歳、35-39歳の3割強が、人前で配偶者の呼び名に悩んだことがある。

○ 人前での配偶者の呼び名に悩んだことはありますか

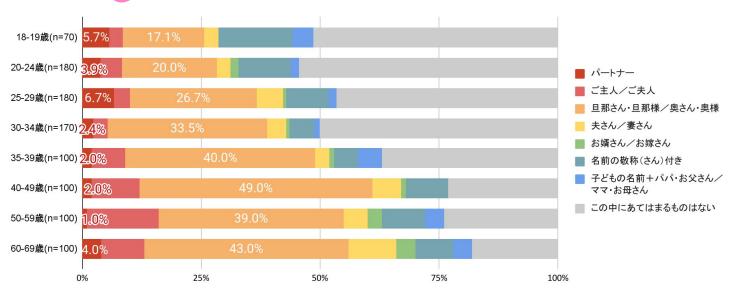




身の回りの配偶者の呼び名

18-29歳は他年代よりも、パートナーと呼ぶ人が多く、 旦那さん・旦那様/奥さん・奥様と呼ぶ人が少ない。

◯ 友人や同僚などの身の回りの人の配偶者をどのように呼んでいますか





選択的夫婦別姓制度

一部年代の男性を除き、5割以上の人が選択的夫婦別姓制度に賛成。 また、18-34歳では賛否の男女差が他年代よりも大きい。

選択的夫婦別姓は法律で認められるべきである

15.4%

20-24歳(n=121)

25-29歳(n=93)

男性

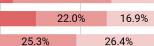




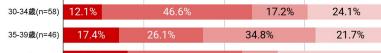
30.8%







75%



42.3%

33.3%

25%

20.0% 35.6% 11.1% 33.3% 40-49歳(n=45) 26.6% 23.4% 20.3% 29.7% 50-59歳(n=64) 60-69歳(n=81) 21.0% 33.3% 19.8% 25.9%

50%





29.8% 39.7% 18.2% 12.4% 16.1% 21.5% 30.1% 32 3%

17.9% 30-34歳(n=112) 26.8% 17.9% 18.5% 35-39歳(n=54) 40.7% 24.1% 16.7%

30.9% 38.2% 16.4% 14.5% 40-49歳(n=55) 50-59歳(n=36) 27.8% 36.1% 27.8% 8.3%

60-69歳(n=19) 5.3% 31.6% 10.5% 25% 50% 75%

100%

100%

18-19歳(n=26)

20-24歳(n=59)

25-29歳(n=87)

11.5%

14.9%

22.0%



🌉 あしたレポート2025 🎎

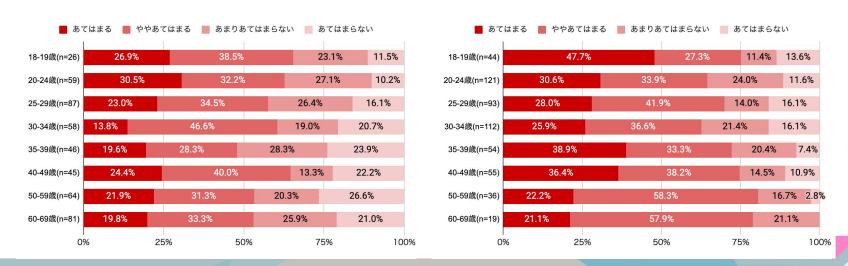
結婚相手の姓に変更することの抵抗感

18-34歳男性の約6割が、結婚相手の姓に変更してもよい。

○ 結婚相手の姓に変更することは抵抗がない・変更してもよい

男性

女性



未婚者の選択的夫婦別姓実現による変化

選択的夫婦別姓が実現したら、結婚に対するハードルが下がり、より前向きに考えるようになる未婚者の割合は、18-29歳が他の年代よりも高い。

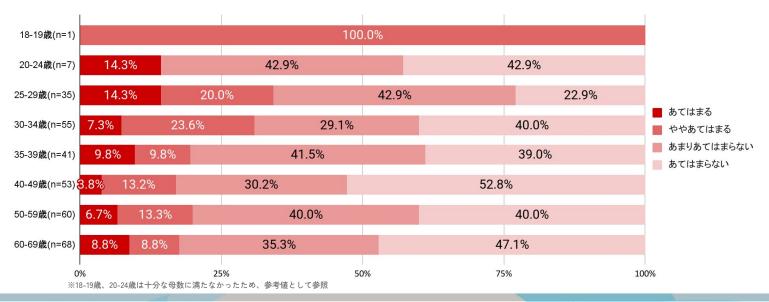
💿 選択的夫婦別姓が実現したら、結婚に対する気持ちの変化はありますか



既婚者の選択的夫婦別姓実現による変化

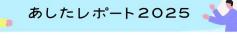
25-34歳の既婚者の約3割は、選択的夫婦別姓が実現したら別姓に変更したい。

💿 選択的夫婦別姓が実現したら、別姓に変更したいか



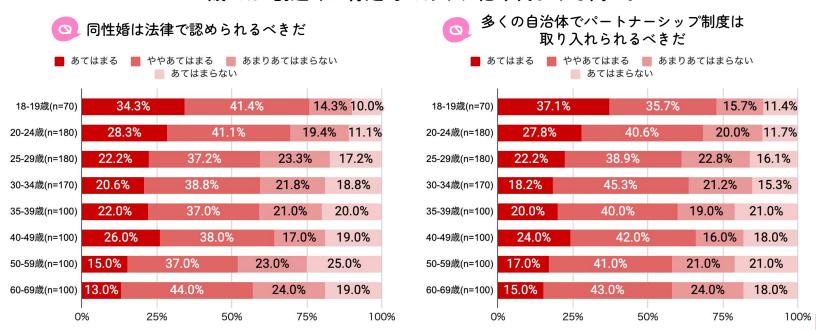
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.





同性婚・パートナーシップ制度

同性婚の法制化とパートナーシップ制度の導入については、どの年代も5割以上の人が肯定的。 18-24歳では7割近くが肯定的であり、他年代よりも高い。





Interview



永田夏来(ながた・なつき)

1973年長崎県生まれ。家族社会学者。2004年に早稲田大学大学院にて博士(人間科学)取得後、現職は兵庫教育大学 大学院学校教育研究科准教授。家族社会学の観点から、結婚・妊娠・出産と家族形成について調査研究を行ってい る。単著『生涯未婚時代』(イースト新書)、高橋幸との共編書『恋愛社会学:多様化する親密な関係に接近する』 (ナカニシヤ出版)、松木洋人との共編著『入門家族社会学』(新泉社)他、共著多数。

パートナーとの出会い方について

――「直近のパートナーとの出会い方」に関して、全世代で「学校・職 場・什事先」が最も多い一方で、若年層は「マッチングアプリ」が次点 に迫る結果となっています。(P.109参照)若年層で「マッチングアプ リ」の利用が増えている社会的な背景にはどのようなことが考えられま すか。

主に2つ考えられると思います。まず、若年層は日常的にSNSに慣れ親し んでいるので、その延長線上で抵抗感なくマッチングアプリを利用して いる可能性があります。

次に、社内恋愛をしづらくなっていることも理由かもしれません。ま ず、雇用形態が多様化しており、同じ職場でも正社員や契約社員、派遣

社員など立場が違う人が混在しているため、「あまり踏み込んだ話をし ない」ムードが強まっています。また、ハラスメント意識の高まりに よって、職場で個人的な話題を避ける傾向が強くなりました。かつて は、パートナーと出会う場所は職場が多く、好きな人ができたら上司や 同僚に相談するといった場合もありましたが、近年は職場でプライベー トな話をしづらくなっています。その結果、職場で恋愛関係に発展する ことも難しくなっているのではないかと考えています。

このような背景を踏まえると、今後は出会いのきっかけとして、職場で はなく、SNSやマッチングアプリといったインターネット上での出会いが 増えていくと考えられますね。実際にアメリカでは、出会うきっかけと して、インターネットが最も多いという調査結果が最近報告されていま す。





Interview - 永田夏来

恋愛の重要度について

――次に「恋愛の重要度」について伺います。調査では、全世代通して 恋愛よりも「お金」「健康」「家族」を大事にしたいという人が多い一 方、とくに若年層では恋愛よりも「趣味」を重視する傾向がみられまし た。(P.115参照)若者が恋愛よりも趣味を重視する傾向が強い背景とし て考えられることを教えてください。

大きな要因のひとつとして消費の変化が挙げられます。1980年代頃までは、恋愛そのものが消費行動と結びついている面がありました。たとえば、恋人へのプレゼントやデートなどが一種のステータスとみなされてメディアでも大きく取り上げられ、経済的にも大きな影響力があったのです。一方、最近ではSNSの普及やコミュニティの拡大により、「推し活」などの趣味にお金や時間を投じるコト消費の動きが目立っています。その結果、恋愛よりも趣味を大事にするという価値観が浸透したと考えられます。

結婚の価値観について

――未婚者に対して「結婚(法律婚)をしたいですか」という質問をしたところ、「あまりそう思わない・そう思わない」と回答した方が20-29歳は約5割、30-34歳は約6割という結果でした。(P.125参照)近年、

<u>晩婚化が進み、生涯未婚率も上がっていますが、結婚観はどう変化しているのでしょうか。</u>

現代は女性の社会進出や高学歴化などを踏まえて、多様な生き方が受け入れられつつあります。まず、「若いうちに結婚しないといけない」という年齢的なプレッシャーが緩和されていますよね。1980年代頃までは、女性は20代前半までに、男性は20代半ばまでに結婚することが社会的な前提とされていましたが、現代はそうでもない。デジタルネイティブ世代は「いつ結婚するか」から「結婚をするかしないかを含め、どのように暮らしたいか」という形へと、結婚をめぐる考え方がシフトしていると言えます。また、結婚に対する価値観が多様化し、「一生独身でいる」「事実婚やパートナーシップの形を選ぶ」など、選択肢が増えています。

子どもがほしいかについて

――「子どもはほしい・もっとほしい」と答えた人の割合を年代別に見ると、20-34歳の子どもがいない方は、「そう思わない・あまりそう思わない」が約6割となりました。理由としては「経済的な負担が大きいから」が全世代共通で多く、とくに若年層では「子どもが苦手・嫌い」「自由な時間がなくなる」という回答も目立ちます。(P.128、130参照)この結果を受けて、デジタルネイティブ世代は子育てをどう捉えている





4

Interview - 永田夏来

<u>と考えられますか。</u>

共働きが一般的になっているデジタルネイティブ世代でも子どもをほしいと思わない理由として「経済的な負担の大きさ」が最も多いということは、子育てにまつわる支援が十分とは言い難い現在の社会状況を反映していると考えられます。

また、「子どもが苦手・嫌いだから」という回答が多いというのは印象的な結果ですね。背景として、いまの日本では、他国と比較しても社会全体で子どもを大事にする雰囲気が薄い点があるのではないでしょうか。たとえば満員電車や公共の場などで子どもが泣いたり騒いだりすると冷たい目で見られる、という話はよく聞かれます。こうした環境が「子どもは迷惑がかかる存在なので、苦手・嫌いだ」と感じさせてしまうのかもしれません。

卵子凍結・精子凍結について

――卵子凍結・精子凍結について、若年層の関心度や検討度合いは他の 年代と比較しても高いという結果でした。(P.132-134参照)一部自治体 で卵子凍結の支援制度が実施されたり、著名人が卵子凍結や精子凍結の 実施を発信したりなど、さらに関心が高まると考えられますが、その背 景にはどういったことがあるのでしょうか。 さしあたり2点あるかと思います。1つ目は、ライフプランを柔軟に設計したいという思いが強まっていることです。晩婚化と医療技術の進歩を背景に、将来の選択肢を残すために卵子や精子の凍結へ関心を寄せる若者が現れているのでしょう。

2つ目は、高度生殖医療に対する心理的ハードルの低下です。費用負担の 軽減に加えて、実際に高度生殖医療で出生した世代が大人になれば、こ うした技術への抵抗感はますます薄れていくかもしれません。その結 果、従来の年齢的プレッシャーが小さくなり、自分のペースに合わせて 出産のタイミングを選べる社会へと変わっていく可能性があります。





Society 政治・社会について



148

🌉 あしたレポート2025 🌄



少子高齢化や気候変動、物価の上昇など、社会への不安が増す現代。先行きが不透明なこの社会を、これから数十年間支えていくのは、1990年代後半以降に生まれた「デジタルネイティブ世代」であろう。 このチャプターでは、主に以下の3つの視点からデジタルネイティブ世代の社会や政治に対する価値観を紹介する。

山積する社会課題

世界規模でSDGs実現に向けた対策が取られている。一方で戦争が勃発したり、世界的企業のDEI廃止がされたり、社会は日々変化している。 そして、日本は少子高齢化が進み、今後さらに若者にかかる負担が大きくなっていくだろう。 そんな社会に山積する課題を、若者はどう捉えているのだろうか。

若者はいまの政治をどう見ている?

この時代は、日本の政治における変革期と言えるかもしれない。2024年の衆議院選挙では、与党が過半数割れとなり、ねじれ国会となった。 私たちの社会を変える方法の1つである政治を、若者はどう見ているのだろうか。 政治への関心度や政治に求めること等から若者の目に映る政治のいまを紐解く。

政治や社会にどう参加していくか

若年層の投票率の低さに見られるように、長らく若者の政治的無関心の問題は言及されてきた。一方で、選挙権年齢が18歳に引き下げとなったり、全国各地で20代の政治家が数多く誕生したりと、若者の政治に関わる機会も増えている。インターネットの影響力が大きい現代で、 若者はどう政治や社会と関わろうとしているのだろうか。

本チャプターの最後には、デジタルネイティブ世代であり、社会課題解決を軸にクリエイティブを手がける辻愛沙子氏へ、いま社会がどう見えているのかについて伺った。



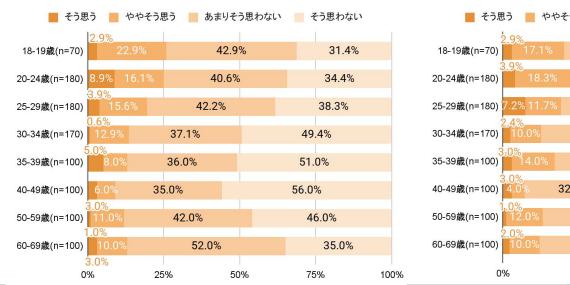
あしたレポート2025 🎎

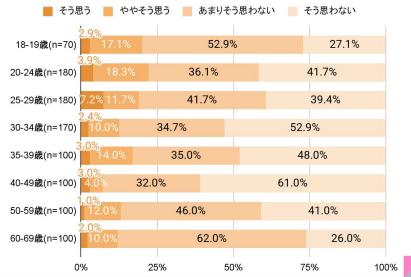
日本の社会に感じていること

全年代を通じて、7割以上が、日本の社会は良くなっていないと感じている。 ただし、18-24歳の3割弱は、日本は良くなっていると感じている。

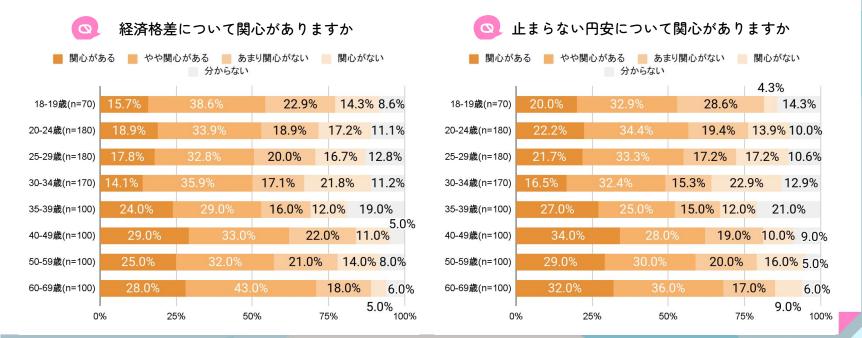
現在、日本の社会は良くなっていると感じる

日本の社会に希望を感じる





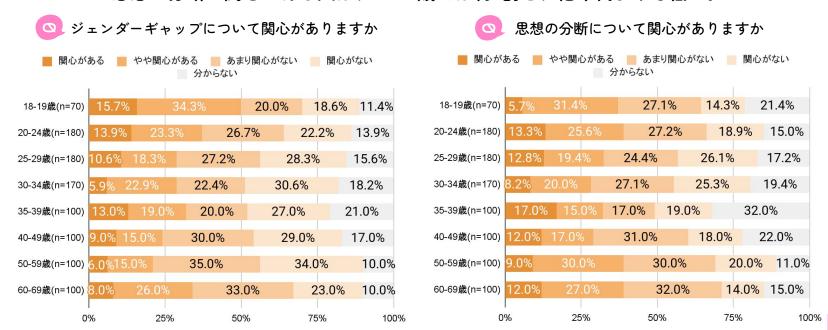
18-34歳の約5割は、経済格差と止まらない円安に関心がある。



4

社会問題・国際情勢の関心度

18-24歳は他年代よりも、ジェンダーギャップへの関心が高い。 思想の分断に関心のある人は、25-49歳では約3割と、他年代よりも低い。

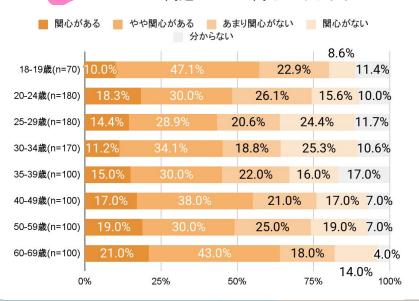


©BIGLOBE Inc. 2025, All rights reserved.

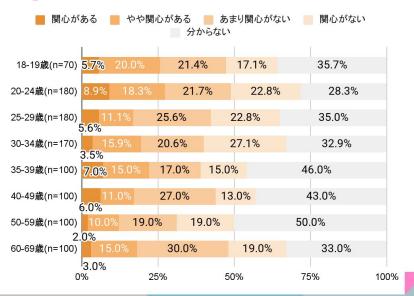
100

ハラスメント問題に関心のある人は20-39歳で5割以下で、他の年代よりも低い。 18-24歳の3割弱はキャンセルカルチャーに関心があり、他の年代よりも高い。

◯ ハラスメント問題について関心がありますか



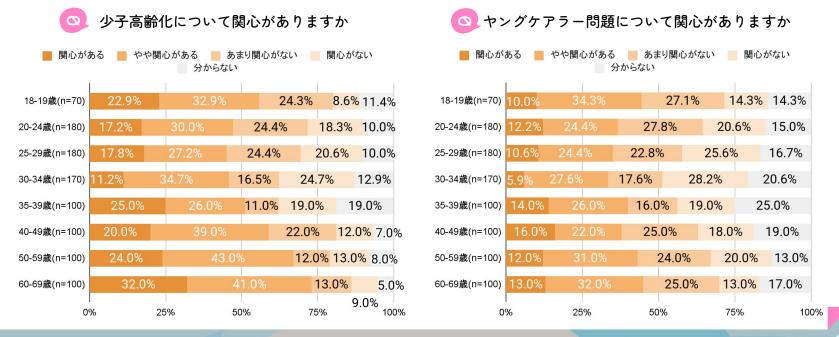
◯ キャンセルカルチャーについて関心がありますか



100

社会問題・国際情勢の関心度

20-34歳は他年代よりも、少子高齢化とヤングケアラー問題への関心が低い。





関心がない

75%



25-34歳は他年代よりも、地球温暖化や国際紛争への関心が低い。

地球温暖化について関心がありますか

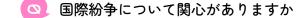
あまり関心がない

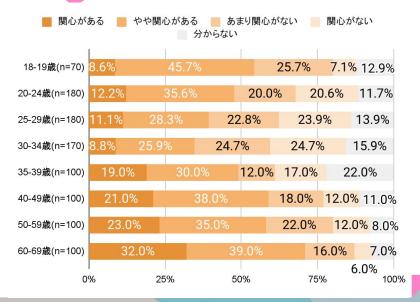
■ やや関心がある

25%

分からない 18-19歳(n=70) 18.6% 25.7% 10.0% 10.0% 19.4% 18.3% 8.9% 20-24歳(n=180) 22.2% 11.7% 25-29歳(n=180) 19.4% 30-34歳(n=170) 14.1% 22.4% 30.0% 10.6% 35-39歳(n=100) 18.0% 16.0% 14.0% 10.0% 17.0% 6.0% 40-49歳(n=100) 15.0% 21.0% 50-59歳(n=100) 6.0% 11.0% 60-69歳(n=100) 3.0% 9.0%

50%







100%

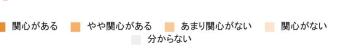
100

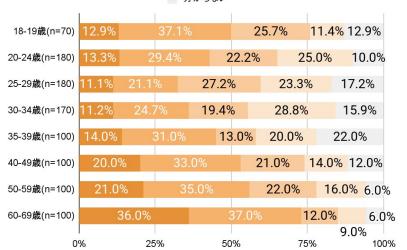
0%



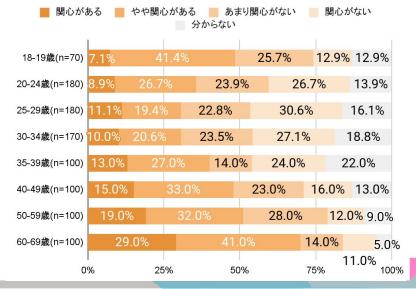
25-34歳は他の年代と比較して、ウクライナ侵攻と中東情勢への関心が低い。

💿 ウクライナ侵攻について関心がありますか





中東情勢について関心がありますか (イスラエル・ガザの戦争、シリア情勢など)

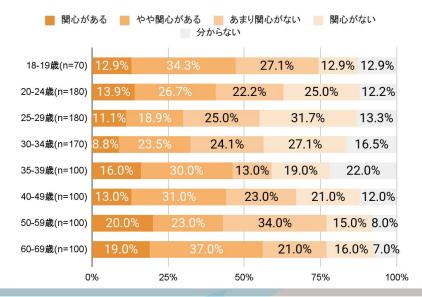


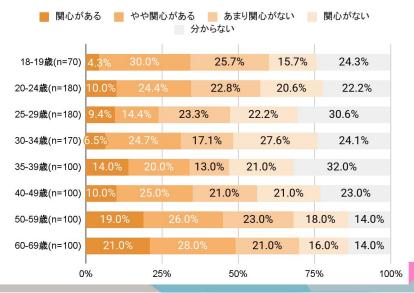


難民・移民に関心のある人は、25-34歳では約3割で、他年代よりも低い。 オーバーツーリズムに関心のある人は、25-29歳では約2割と最も低く、50-69歳では約5割と高い。

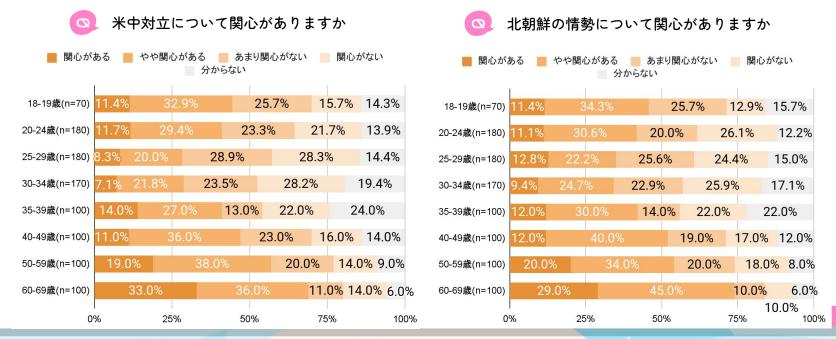
難民・移民について関心がありますか

◯ オーバーツーリズムについて関心がありますか





25-34歳は他の年代と比較して、米中対立と北朝鮮の情勢への関心が低い。



100

18-19歳の6割弱は、トランプ政権による影響に関心を持っている。

トランプ政権による影響について関心がありますか



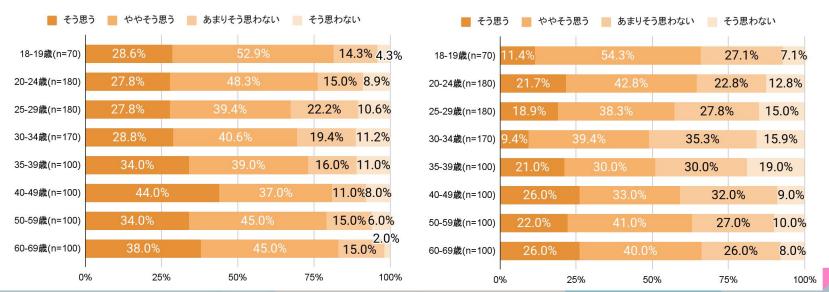




18-24歳と40-69歳の約8割が、今後経済格差は拡大すると思っている。また、格差是正のために 富裕層は貧困層を支援すべきだと思う人は、30-39歳は約5割と他年代よりも低い。

◎ 今後、経済格差は拡大すると思う

格差を是正するために富裕層は貧困層を 支援すべきだと思う

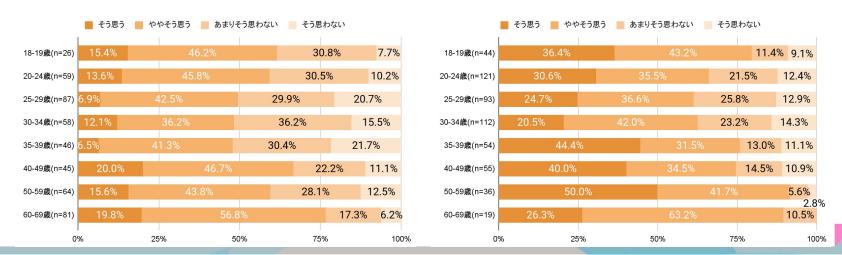


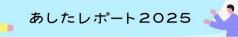
女性の生きづらさ

社会のなかで女性が生きづらい状況が多々あると思う人は、女性は全年代で6割以上。 それに比べて、男性は、女性が生きづらい状況だと考える割合が低い。

社会のなかで女性が生きづらい状況は多々あると思う

女性 男性





マイノリティが生きやすい社会

マイノリティが生きやすい社会を望んでいる人は、25-29歳男性を除く全年代で5割以上。

💿 マイノリティが生きやすい社会になるべきだと思う

男性

■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない 18-19歳(n=26) 15.4% 23.1% 7.7% 30.5% 11.9% 20-24歳(n=59) 37.9% 13.8% 25-29歳(n=87) 31.0% 19.0% 30-34歳(n=58) 17.4% 26.1% 35-39歳(n=46) 26.7% 6.7% 40-49歳(n=45)

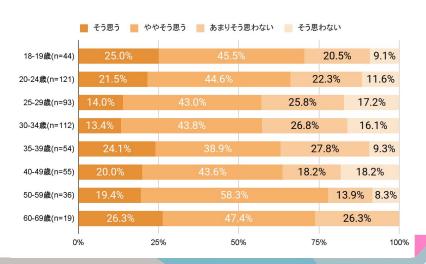
50%

25%

25.0%

75%

女性



17.2%

9.9%

100%

16.0%

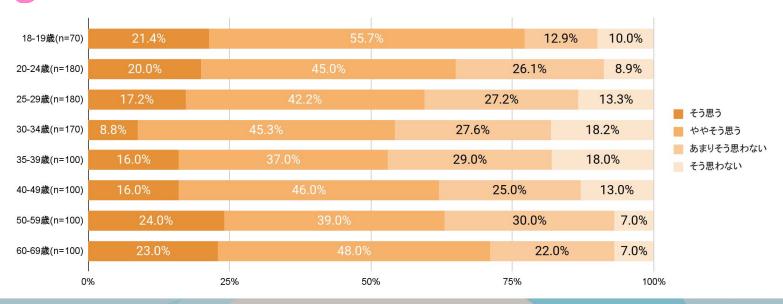
50-59歳(n=64)

60-69歳(n=81)

0%

18-39歳では若年層ほど、不適切な発言や行動をした人や企業に対する 批判や拒否等の行動は必要だと思っている。

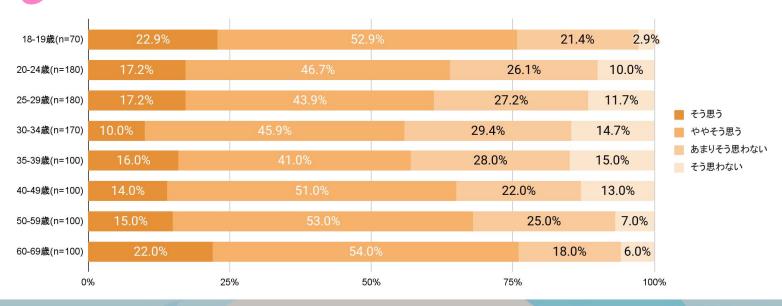
💿 不適切な発言や行動をした人や企業に対して、批判し、活動を拒否したり、応援をやめる動きは必要である



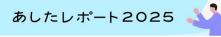
100

18-34歳では若年層ほど、当事者が問題行動の事実を認めている場合は活動を制限・禁止されるべきだと思っている。

💿 問題行動の事実を当事者が認めている場合は、当事者の活動は制限または禁止されるべきである

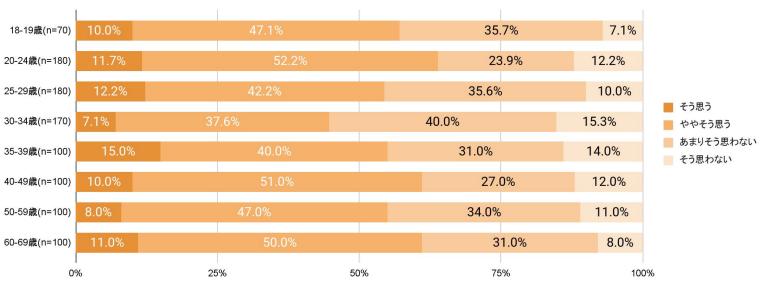


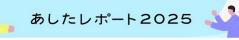
163



30-34歳を除く全年代の5割以上が、問題行動の疑惑に対して当事者が 否定している場合は活動を制限・禁止されるべきではないと思っている。

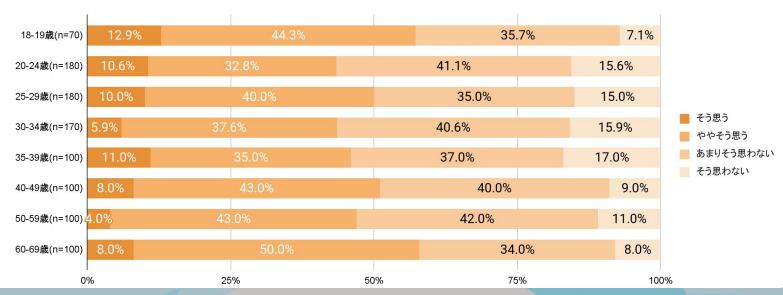
問題行動の証言など疑惑があるが、当事者が問題を否定している場合は、 当事者の活動は制限または禁止されるべきではない





20-39歳の5割以上が、具体的な被害者のいない場合でも、 問題行動を行った場合には、活動を制限・禁止されるべきだと思っている。

具体的な被害者がいない問題行動を行った場合、当事者の活動は制限または禁止されるべきではない



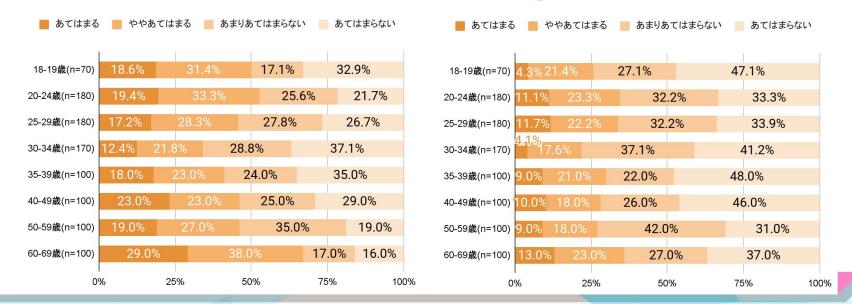


政治意識

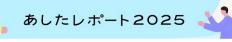
18-24歳の約5割が、現在の政治に興味がある。 周囲と政治の話をしたいと思う人は、20-29歳では3割強と、他年代よりも高い。

現在の政治に興味がある

周囲と政治の話をしたい



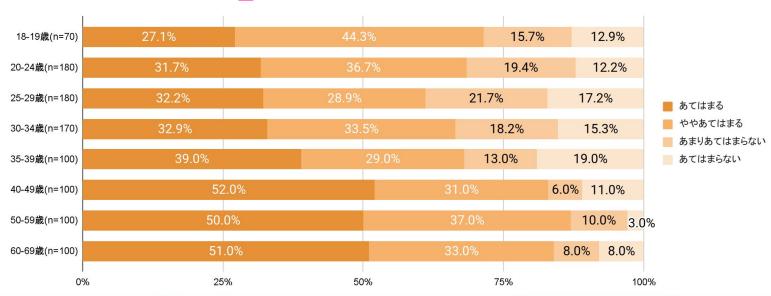
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



政治意識

18-39歳の6割以上が政治に対する不信感があり、 40代以上の政治不信は8割を超える。

政治に対する不信感がある



©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

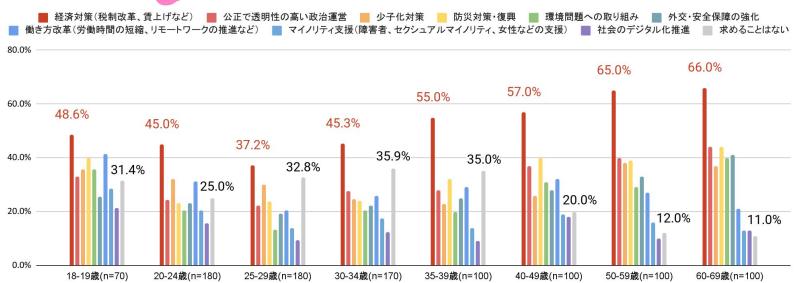
100



政治意識

どの年代も、経済対策を最も求めているが、18-39歳は政治に何も求めていない傾向あり。

💿 政治に求めることとして、あてはまるものをすべて教えてください

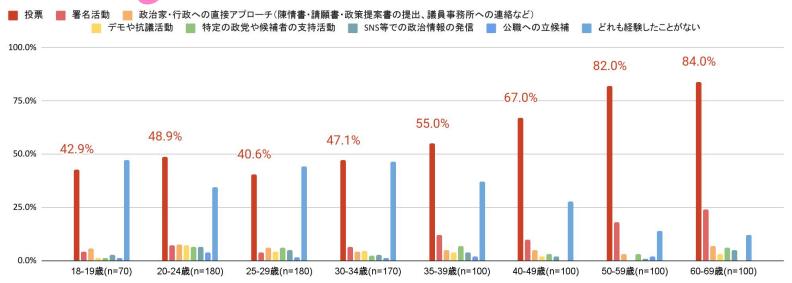




政治参加の経験

18-34歳の過半数は、投票したことがない。

政治参加の方法について、経験があるものをすべて教えてください



@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

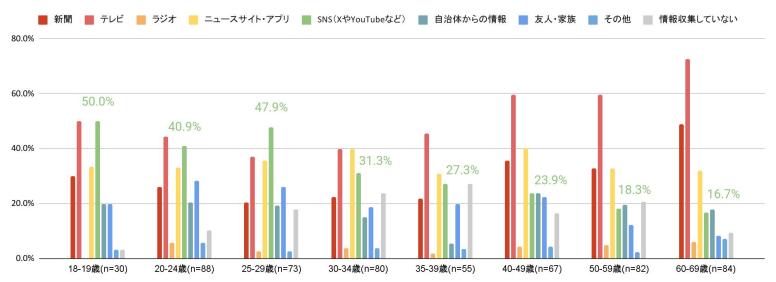
1000本音



投票時の情報収集

18-29歳の投票経験者の4割以上は、選挙で情報収集にSNSを利用した。 特に25-29歳では、選挙時の情報収集ツールとしてSNSが最も利用されている。

直近の選挙で候補者を選ぶ際に情報収集として利用したものをすべて教えてください (「政治参加の方法について、経験があるものをすべて教えてください」の質問に対して「投票」と答えた方のみ回答)



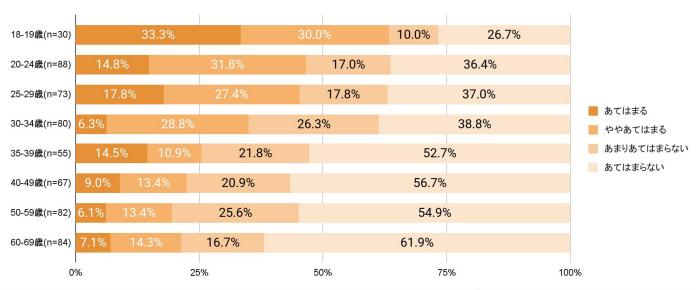
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

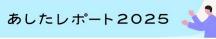


投票時の情報収集

若年層ほど、SNSの情報を信用して投票先を決めたことがあり、 18-19歳では6割強、20-29歳は5割弱。

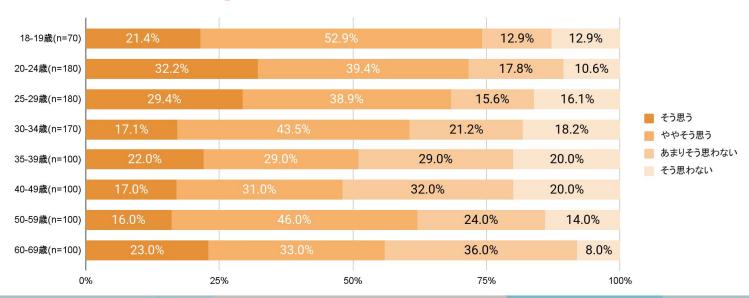
SNS(XやYouTube)の情報を信用して投票先を決めたことがありますか (「政治参加の方法について、経験があるものをすべて教えてください」の質問に対して「投票」と答えた方のみ回答)





18-34歳の6割以上は、20代の政治家が増えてほしい。 また、若年層ほどそれを望んでいる。

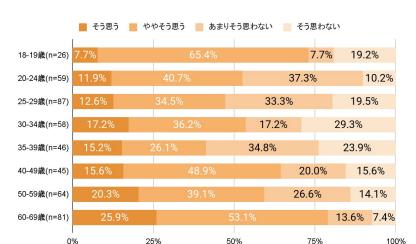
20代の政治家は増えてほしい



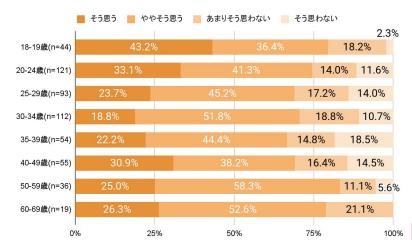
女性の6割以上は、女性の政治家が増えてほしいと考えている。一方、男性は 女性政治家の増加を望む人が女性よりも少なく、特に20-39歳男性は他年代よりも低い。

女性の政治家は増えてほしい

男性



女性



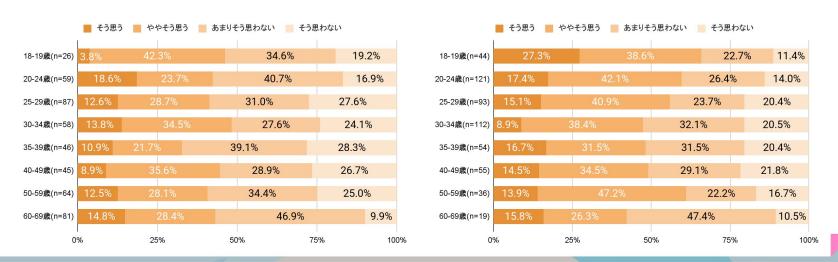


18-29歳と50-69歳の女性は他年代よりも、マイノリティ属性を持つ政治家の増加を望んでいる。 また、男性よりも女性の方が望む傾向あり。

💿 マイノリティ属性(人種的性的など)を持つ政治家が増えてほしい

男性

女性

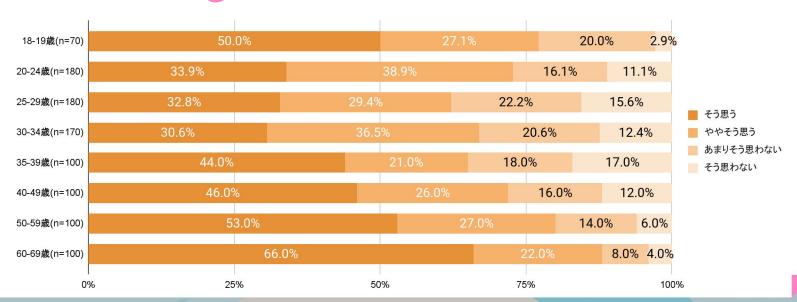






政治家の定年退職制度への賛同は、全年代で6割以上。特に60-69歳の当事者世代は9割近くにのぼる。

🔾 政治家に定年退職制度を設けるべきである

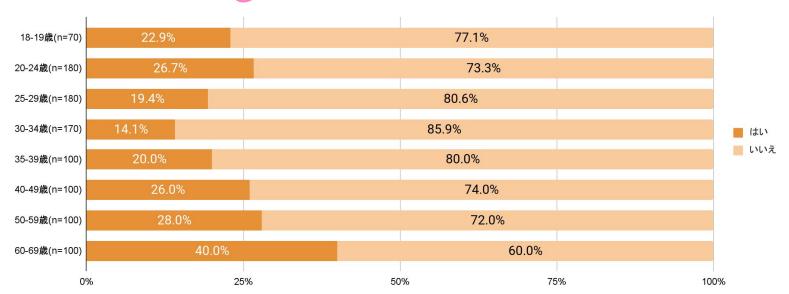




支持する政党の有無

支持している政党がある人は、25-34歳では2割未満で、他の年代と比較して低い。

○ 普段から支持している政党はありますか

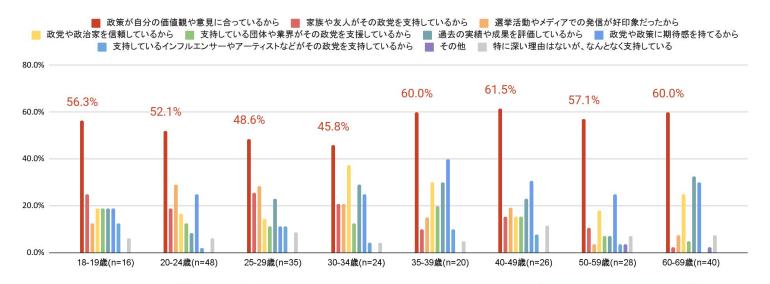




政党を支持する理由

どの年代も、最多の支持理由は、政策が自分の価値観や意見に合っているから。 また、20-29歳の約3割は、選挙活動やメディアでの発信が好印象だったため支持している。

> 政党を支持している理由としてあてはまるものをすべて教えてください (「普段から支持している政党はありますか」の質問に対して「はい」と答えた方のみ回答)

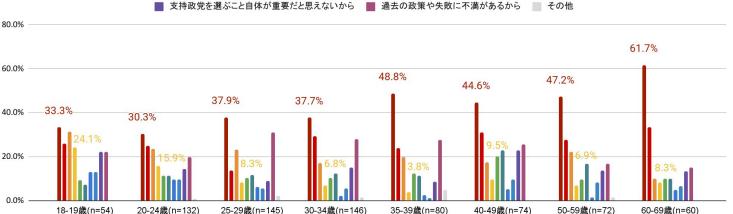


支持政党がない理由

全年代で最多の理由は、信頼できる政党や政治家がいないから。 18-24歳は支持政党を決められるほど十分な情報を持っていないことも影響している。

支持している政党がない理由としてあてはまるものをすべて教えてください (「普段から支持している政党はありますか」の質問に対して「いいえ」と答えた方のみ回答)

■ 信頼できる政党や政治家がいないから■ 自分の価値観や意見と一致する政策を掲げる政党がないから■ 改治に関する関心が薄く、どの政党にも興味がないから■ との政党の政策や価値観を把握できておらず、支持政党を決められるほどの十分な情報を持っていないから■ 選挙活動や政治家のイメージが良くないから■ どの政党の政策も現実的でないと感じるから■ 家族や周囲の影響で支持政党を決める必要性を感じないから■ 特定の政党を支持することに抵抗を感じるから



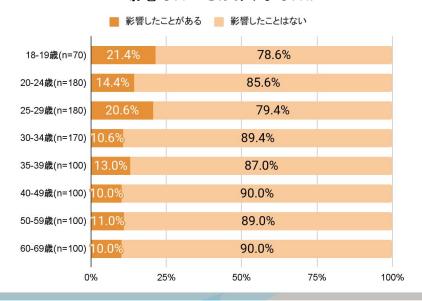


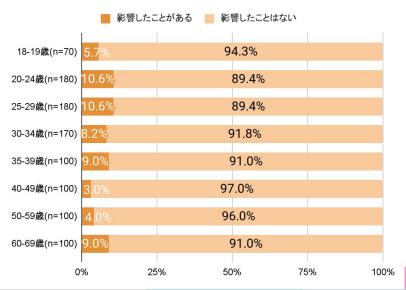
政治的価値観の違いが関係性に影響した経験

18-29歳の2割近くが、政治的な価値観の違いで友人関係に影響が出たことがある。 一方、恋人との関係性に影響した経験は、1割程度にとどまる。

○ 過去に政治的な価値観の違いが友人との関係性に 影響したことはありましたか

○ 過去に政治的な価値観の違いが恋人との関係性に 影響したことはありましたか

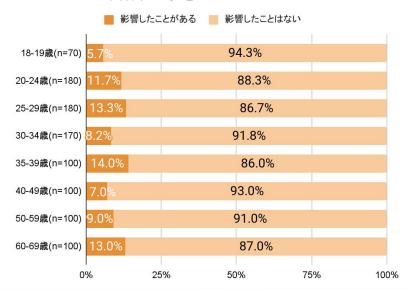


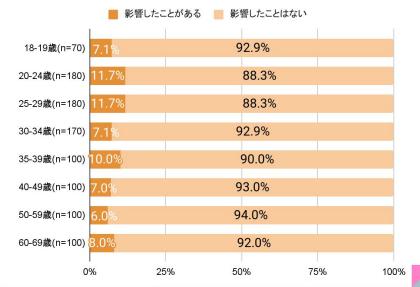




20-29歳と35-39歳は他年代よりも、政治的な価値観の違いがパートナー・結婚相手や同僚・上司・部下との関係性に影響した経験あり。

○ 過去に政治的な価値観の違いがパートナー・結婚相手 との関係性に影響したことはありましたか 過去に政治的な価値観の違いが同僚・上司・部下との 関係性に影響したことはありましたか





政治的な価値観の違いが親や親戚との関係性に影響したことがある人は、 18-24歳では2割以上で、若年層ほど高い傾向あり。

過去に政治的な価値観の違いが親や親戚との関係性に影響したことはありましたか



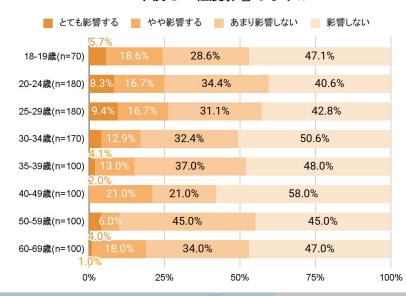


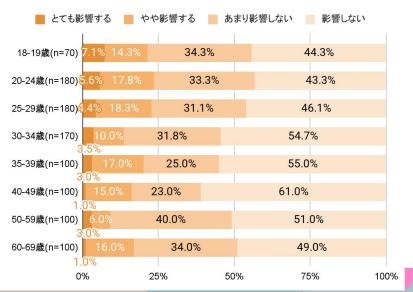
政治的価値観の違いにおける関係性の影響度

18-29歳は他年代よりも、今後の友人や恋人との関係性において、政治的価値観の違いが及ぼす影響度は高いと考えている。

政治的な価値観の違いは友人との関係性に 今後どの程度影響しますか

政治的な価値観の違いは恋人との関係性に 今後どの程度影響しますか

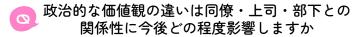


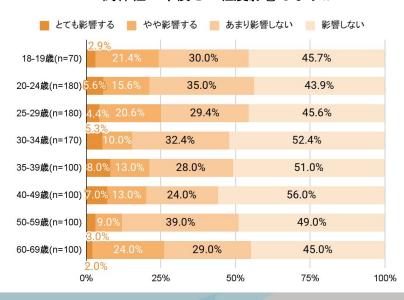


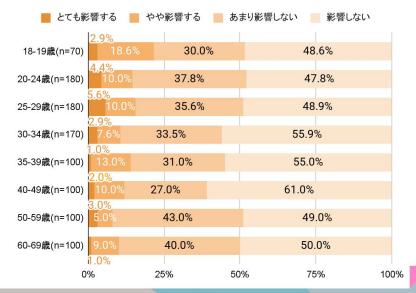
43

政治的価値観の違いが、今後パートナー・結婚相手との関係性に影響すると考える人は 18-29歳で2割強。また、同僚・上司・部下では、18-19歳が他年代よりも多い。

政治的な価値観の違いはパートナー・結婚相手との 関係性に今後どの程度影響しますか







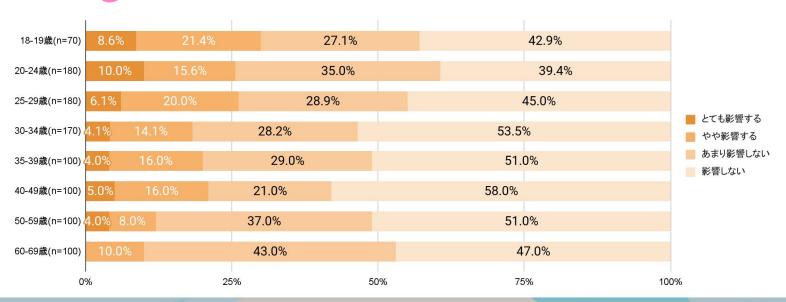
あしたメディア by BIGL®BE





18-29歳は他年代よりも、今後の親や親戚との関係性において、政治的価値観の違いが及ぼす影響度は高いと考えている。

💿 政治的な価値観の違いは親や親戚との関係性に今後どの程度影響しますか



100

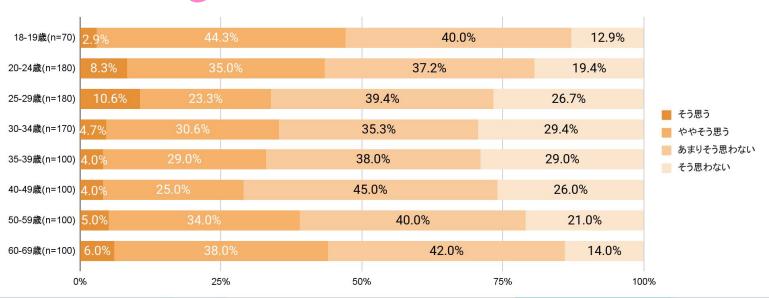
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

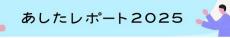


社会を判断する価値観

18-24歳と50-69歳の約4割は、多数派の民意は常に優先されるべきだと思っている。

多数派の民意は常に優先されるべきである

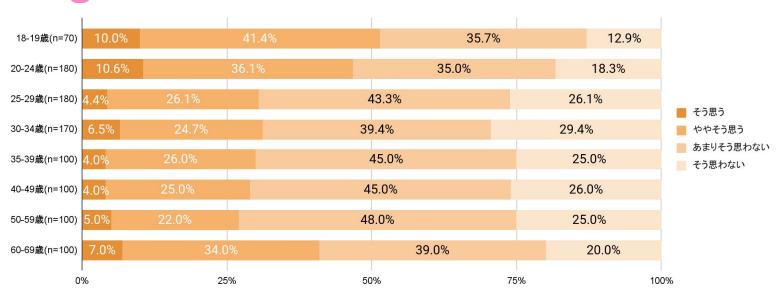




社会を判断する価値観

18-24歳の約5割が、物事を判断する際に事実よりも自分の願望に近いかを重視。

物事を判断する際に、事実であるかどうかより、自分の願望に近いかどうか重要だ



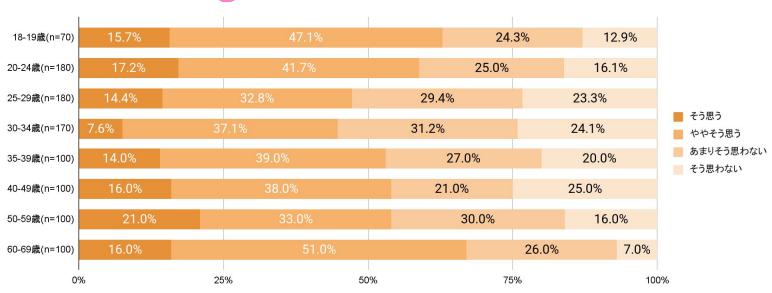
©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



社会貢献意識

社会の役に立ちたい人は、18-24歳で約6割。 一方で、25-34歳は5割以下で、他年代よりも低い。

社会の役に立ちたいと思いますか



187

社会貢献意識

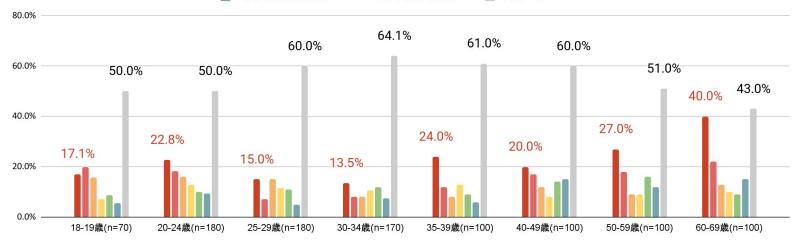
18-59歳の5割以上は社会活動を経験したことがない。 また、20-69歳が経験したことのある社会活動として最も多かったのは環境保全活動。

社会活動のなかで経験したことのあるものをすべて教えてください

環境保全活動(ゴミ拾い、植林など) 国際協力活動(途上国への支援、フェアトレードの商品の購入など) ■ 地域貢献活動(地域イベントの企画、地域の見守り活動など)

人権・社会福祉活動(人権団体への支援、社会福祉施設での活動、動物愛護活動など) 教育・文化・スポーツ振興(子どもの教育支援、伝統芸能の保存活動など)

> ■ 災害支援活動(被災地へのボランティア、物資の支援など) 経験したものはない



1000本音







辻愛沙子(つじ・あさこ)

株式会社arca CEO / クリエイティブディレクター。1995年生まれ。社会派クリエイティブを掲げ、「思想と社会性 のある事業作り」と「世界観に拘る作品作り」の二つを軸として広告から商品プロデュースまで領域を問わず手が ける。2019年春、女性のエンパワメントやヘルスケアをテーマとした「Ladvknows」プロジェクトを発足。2019年秋 より2024年3月まで、報道番組「news zero」にて水曜パートナーをレギュラーで務める。

若年層の政治意識について

──政治に求めることがあるかの質問で、「求めることはない」と回答 した方が18-19歳では31.4%、20-24歳では25.0%、25-29歳では32.8%、30-39 歳では35%以上でした。(P.168参照)この結果についてどう感じました か。

政治によって社会や市民の生活が変わっていくという側面は歴史的にみ ても明らかですが、日本は同じ政党が長く政権を獲得していることや、 選挙でも"組織票"という言葉があるように、自身の1票で政治が大きく変 わると感じられる瞬間が少ない印象です。自分自身の生活と政治が地続 きだという実感が得づらく、政治に期待ができないのではと考えていま す。一方で、過去の選挙では当選者と次点の候補者の票数が0~10票差

だったという事例も少なくありません。そのため、自分の1票によって結 果が変わる可能性があるんです。

政治で起こる私たちの生活への変化といえば、法律かお金か…というのが 主たるところですが、いざ国会で法改正や税制の改正などが決まって も、手続きや運用の整備などを経て私たちの生活に影響するまでは、早 くて数ヶ月、多くの場合数年のタイムラグがあります。そうなると、い ま声をあげたものが政治を通じて変わっていったと実感できるまでどう しても時間がかかり、余計に関心を失ってしまうというのが現状なので はないかと思います。

ただ、歴史を振り返るとたった70年前までは当たり前のごとく女性は選挙 に行くことが許されず、さらにその手前では男性たちのなかでも高額

189





あしたレポート2025 🎶

Interview - 辻愛沙子

納税者しか選挙権がなかったわけです。また、仕事や職場において男女が平等である男女雇用機会均等法(※)が制定されたのも、いまからたった40年前。これも政治の変化が作った社会の変化です。いま考えると当たり前だと思えるそんな日常のあれこれも、かつての人たちが上げた声によって政治が変わり、その積み重ねが今の私たちの"あたりまえ"を形作っている。そう考えると、自分たちが今現在「どうせ変わらないだろう」と半ば諦めているあれこれも、声を上げていけば未来では当たり前に変わっている事かもしれません。

自分たちの給料とか、スーパーの食材の値段とか、病院にかかった時に支払う料金とか、買い物したときの消費税とか、そんな日常のあれこれに実は政治が大きく関わっている。そう認識して自分たちの世代が感じていることを積極的に可視化していった方が、巡り巡って自分たちの生活を望む方向に進めていけるんだと若い世代の人たちに伝えたいです。業界団体や企業たちや上の世代の大人たちはそれを知っているから、積極的に自分たちの声を政治に届け、選挙でも日常のロビイング活動などでも働きかけをしてきました。社会や国のためとか、そんな大きなことではなく、若い世代の人たちが自分の明日や未来のために、困っていることや不安を政治に届けていく流れがもっと増えていってほしいなと思います。

20代と女性の政治家について

――18-34歳では半数以上の方が「20代の政治家は増えてほしい」と望んでいる結果でした。一方で、「女性の政治家は増えてほしい」という結果については、女性の方が多く望んでいる結果となりました。 (P.172-173参照) 今後、20代や女性の政治家は増えていくと思いますか。

20代の政治家については、2023年の統一地方選挙や近年の地方の首長選挙で若手の方の当選が増えてきている傾向があります。現状では、まだまだ若手世代の政治家とロールモデルが少ない分、若い世代が議会に立っている様子をイメージしづらい人も多いかもしれません。ですが、実際にいま確実に起きている地方政治での顔ぶれの変化が、少しづつ新しい"当たり前"となって全国に広がり、国政にもその風が届き、政治の景色を変えていくのだろうと希望を感じています。

海外では、自然発生的にゆっくりと変わっていくのを見守るだけではなく、制度設計から抜本的に変えていく流れが増えています。たとえばフランスの県議会では2015年に、選挙に立候補する条件として男性と女性がペアで出馬するという制度を導入しました。それにより、制度導入前の選挙で女性議員が一人もいなかった県に変化が起こったり、資本家の一族が長年権力の座についていた県議会に新陳代謝が起こったりと、ポジティブな変化が見られたそうです。日本で女性が選挙に出られるように







なってからまもなく80年が経過しますが、1946年当時8.4%だった日本の衆議院議員の女性比率は、2025年は未だ15.7%にとどまっています。各国が能動的に変わっていくなか、私たちは受身のまま変化を待ち続けていていいのだろうか…と思ってしまいます。

物事の価値判断について

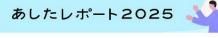
――「多数派の民意は常に優先されるべきである」という設問に対して、「そう思う・ややそう思う」と回答をした方は、18-24歳と50-69歳では約4割と、他の年代と比較しても高い結果となりましたが、この結果を受けてどう思われましたか。(P.185参照)

民主主義や多数決への正しい理解が、社会一般的に広がっていないように感じることがあります。選挙とひとことに言っても、衆院選、参院選、地方首長選、都道府県や市区町村の議会議員選、各選挙の補選、党内のトップを決める選挙など、それぞれ選挙制度も違えば、当選者数も違います。しかしメディア等では、同じように当落が扱われることが多いです。ただ、多数決というのはたとえ1票差でもどちらかに軍配が上がる仕組みなので、100:0ではなく51:49のようなケースでも、同じように当落が決まります。そんなときに、49の意見は無視して良いのか、という問いが発生しますよね。民主主義社会では死票に投じられた民意も、あるいは選挙に行かなかった人たちの生活も、等しく当選した者が義務

を負います。選挙さえ勝てば何をしてもいい、当選者の声こそが民意だ!ということにはなりません。選挙の結果というものはもちろんとても重いひとつの民意の表れですが、それと同時に少数者の声をなかったことにしないこともまた、民主主義における重要な側面であると言えます。そういったことも含め、義務教育でもっと主権者教育を積極的に行ってほしいと思います。

――「物事を判断する際に、事実であるかどうかより、自分の願望に近いかどうか重要だ」という設問に対して、「そう思う・ややそう思う」と回答した方は18-24歳では半数以上と他の年代と比較して高い結果となりました。(P.186参照)この結果を受けてどう思われましたか。

この価値観の傾向を見て伝えたいのは、「自分の願望だと思っていることは、本当に自分が選び取った願望なのか」という視点が必要だということです。たとえば、アイラインで目を大きく見せようとするのはなぜなのかを考えると、その方が綺麗に見えるという刷り込みが無意識的にあったのではないかと感じることがあります。自分が主体性を持って選んだことも、電車内で脱毛の広告を見たり、アパレルショップで細いマネキンばかりが並んでいる姿を見たりすることで、実は社会に刷り込まれていたことかもしれないという目線も持っておくべきなのではないかなと。



Interview - 辻愛沙子

また、現代はインターネットで自分の好みや価値観に似た情報しか流れ てこないフィルターバブルの状態であり、その結果自分の意見がより強 固になっていく傾向があります。私自身も含め、そこから逃れるのは現 代で生きる限りなかなか難しい。だからこそ、同じ出来事でも、視点が 変わると見え方が大きく変わることがあると知っておくことが大事なの かなと思います。歴史のように、事実は1つであるけれど、どの国の視点 から見るかによって解釈が異なるような出来事は沢山存在する訳です。 かつてソクラテスが言ったように、自分が何を知らないのかを知ってお くことこそ、情報過多な現代に必要な知性なのではないかと思います。

――どうすればフィルターバブルから抜けていけるのでしょうか。

同じニュースに対して、スタンスの違う複数の新聞の報じ方を読み比べ たり、自分とは政治思想の異なる政治家のYouTubeを視聴してみたりと、 1つの物事に対してさまざまな視点を取り入れるように意識しています。 ただいろいろな目線を取り入れて中立!ということではなく、1つのト ピックに対してさまざまな角度からの意見を目にした上で自分の意志や 考え、スタンスを決めていくんです。自分を相対化して考えることがで きるなと。

当たり前のことを言うんですが、本を読むこともおすすめしたいです。

ショート動画やXの短文投稿と比較すると、本は読むのに時間がかかるの で、タイパやコスパが悪いと感じる人も現代では少なからずいるかもし れません。ですが、凄まじいスピードで情報が流れる現代だからこそ、 時間をかけて情報を咀嚼することに価値があると思うんです。本の内容 を理解する過程で、じっくりと自分の考えも整理できます。「エポ ケー」という哲学の概念があるのですが、何でもかんでもすぐに答えや 判断を急がず、一旦保留しながら考えていくこともまた知的な態度のあ り方だと思います。強い言葉や早い情報訴求が取り沙汰される時代だか らこそ、意識的に時間をかけることの価値を重んじていきたいですよ ね。

※正式名称は「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する 法律」。企業の雇用における男女の均等な機会と待遇の確保を目的として1985年 に制定された





Chapter 5

Media/ Tech

テクノロジーについて



Myself

Work

Love

Society

Media/Tech



🌉 あしたレポート2025 🌄

Chapter 5: Media/Tech

本書の最後を飾る「Media/Tech」章では、デジタルネイティブ世代にとって日常生活の基盤となっているメディア・テクノロジーに光を当てる。 現代の若者は、SNSやオンライン動画などのメディアを通じて世界とつながり、常に最新のテクノロジーを活用しながらコミュニケーションを行っている。また、メディアは情報収集だけでなく自己表現やコミュニティ形成の場として不可欠であり、テクノロジーは学習・就労・生活などあらゆるシーンを支えるインフラとなっている。インターネット・ウェルビーイング・AIという3つのトピックスに焦点を当てることで、メディア・テクノロジーがもたらすメリットと課題、そしてそれらを受容するデジタルネイティブ世代の多様な価値観を読み解いていく。

インターネットとの向き合い方

インターネットは、情報の即時性や教育・ビジネスへの応用など、多くの利点をもたらしてきた。一方で、フェイクニュースや過剰な情報などの課題も深刻化している。オンラインでの情報収集・発信が当たり前の時代に育っているからこそ、 デジタルネイティブ世代は、どのようにインターネットと向き合っているのだろうか。

デジタル時代のウェルビーイングとは?

SNSは、人々の交流を活発化し、個人の発信力を高める一方で、承認欲求の過剰な高まりや「SNS疲れ」やといった問題を引き起こしてきた。 常時接続された環境の中で生きるデジタルネイティブ世代は、どのような要因で「SNS疲れ」を感じているのだろうか。

AIとの向き合い方

AIの進展は、業務効率化や個人に最適化されたサービスの向上など多くのメリットをもたらす反面、仕事の自動化による雇用の変化や、 個人情報の扱いをめぐる倫理的問題を浮上させている。デジタルネイティブ世代は、AIをどのような存在として受け入れているのだろうか。

本章の最後では、WIRED日本版編集長の松島倫明さんに、若年層(デジタルネイティブ)とメディア・テクノロジーの歴史的変遷を踏まえながら、これからの若年層がどのようにインターネットやAIと向き合っていけば良いのかを伺った。



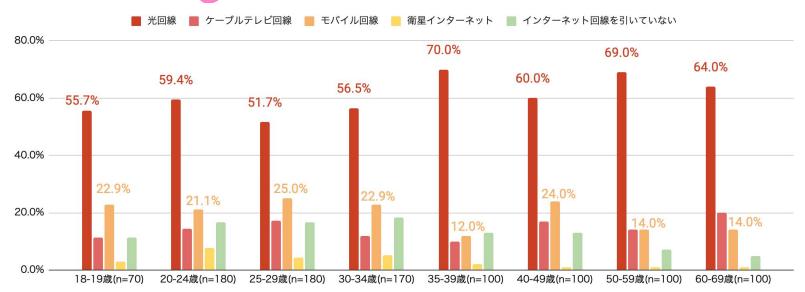


🖊 あしたレポート2025 🌄

インターネット接続

全年代の5割以上が光回線を利用している。 18-34歳においては次いでモバイル回線の利用率が高く、2割超を占める。

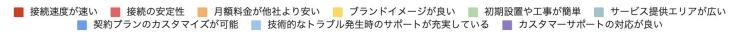
💿 現在、利用しているインターネット回線(複数回答可)

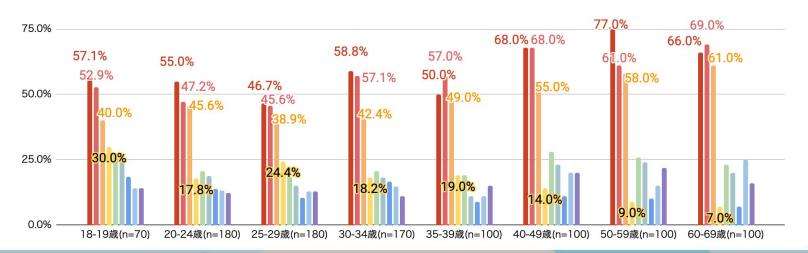


インターネット接続

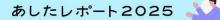
18-34歳においては接続速度や安定性、月額費用等の実利性に加えて、 ブランドイメージの良さを重視する傾向にある。

💿 インターネット回線契約の際に、重要だと思う項目(複数回答可)



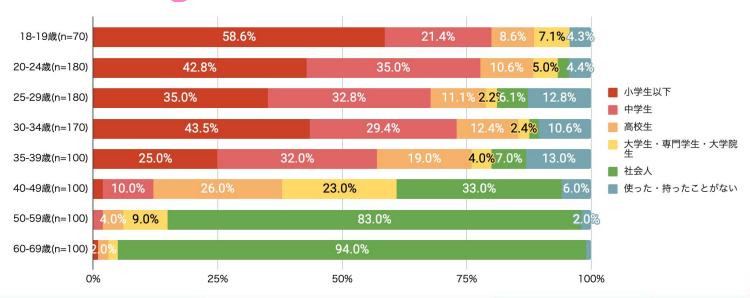






初めてインターネットを使った時期

18-34歳の7割以上は、高校生までにインターネットを使用。 うち、18-19歳の約6割は中学生までに使用を開始している。



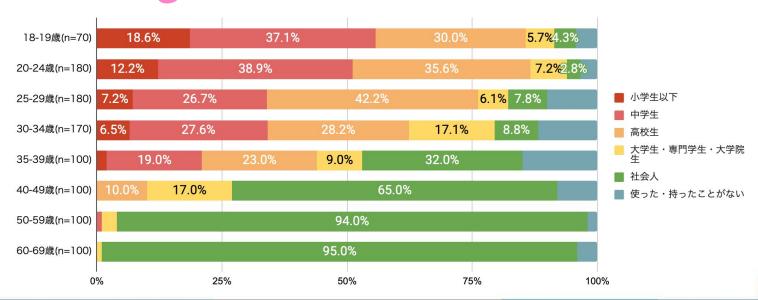


あしたレポート2025 🎎

初めて自分のスマートフォンを持った時期

18-24歳の5割以上は、高校生までに自分のスマートフォンを所有している。

○ 初めて自分のスマートフォンを所有した時期



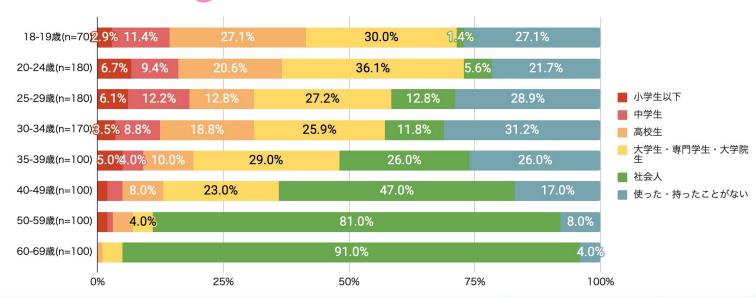
100



あしたレポート2025 🎎

初めて自分のPCを持った時期

18-24歳の約7割、25-34歳の約6割は、 社会人になる前に自分のPCを所有している。



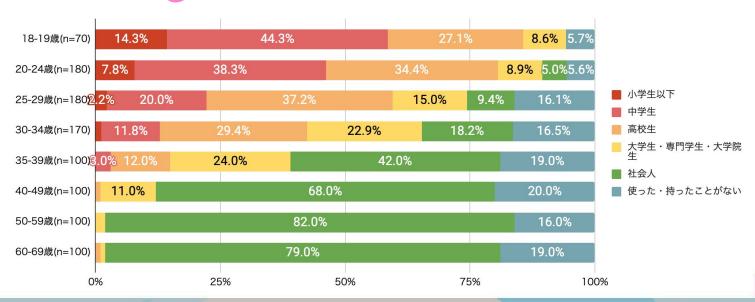


あしたレポート2025 🎎

初めて自分のSNSアカウントを持った時期

18-19歳の約6割は、高校生までに自分のSNSアカウントを作成している。

💿 初めて自分のSNSアカウントを作成した時期

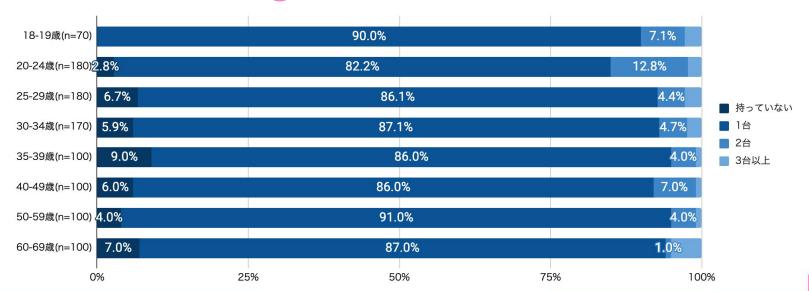




スマートフォンの所有台数

18-34歳の9割以上が、スマートフォンを1台は所有し、 20-24歳の約1割は2台所有している。

スマートフォンの所有台数



100

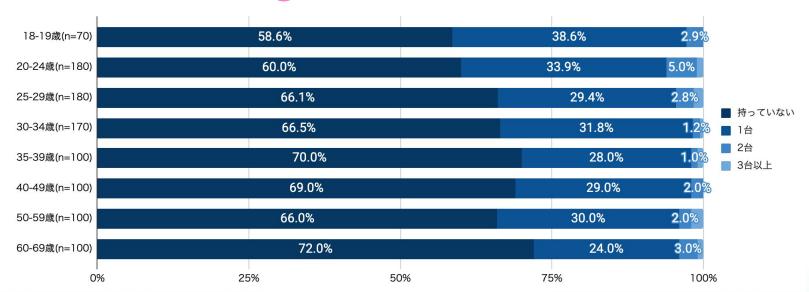
@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

あしたレポート2025 🍑

タブレット機器の所有台数

18-24歳の約4割がタブレット機器を所有している。

💿 タブレット機器の所有台数

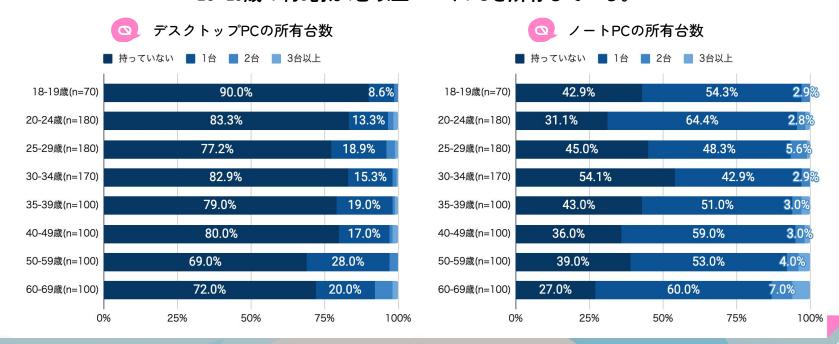


202

あしたレポート2025

PCの所有台数

18-34歳におけるデスクトップPC所有率は1~2割。 20~29歳の約5割は1台以上ノートPCを所有している。



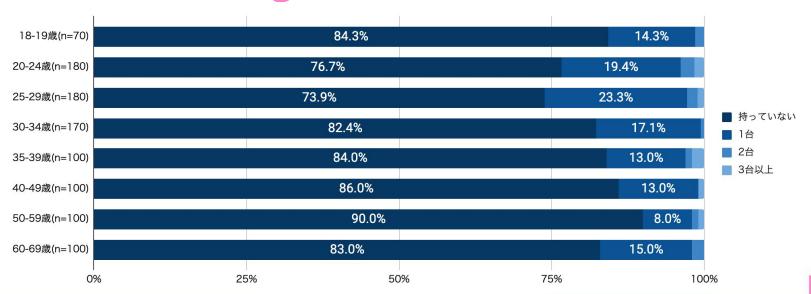
1000本音

©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

スマートウォッチの所有台数

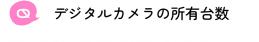
20-24歳の2割強、25-29歳の3割弱がスマートウォッチを所有している。

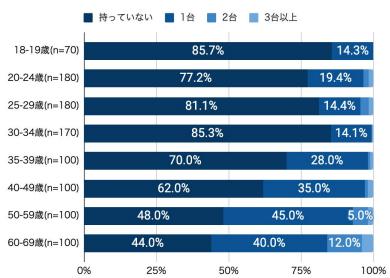
○ スマートウォッチの所有台数



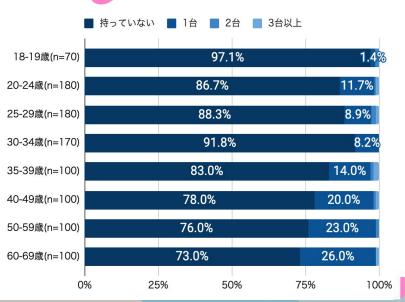
デジタルカメラ・ビデオカメラの所有台数

20代において、デジタルカメラの所有率は約2割。





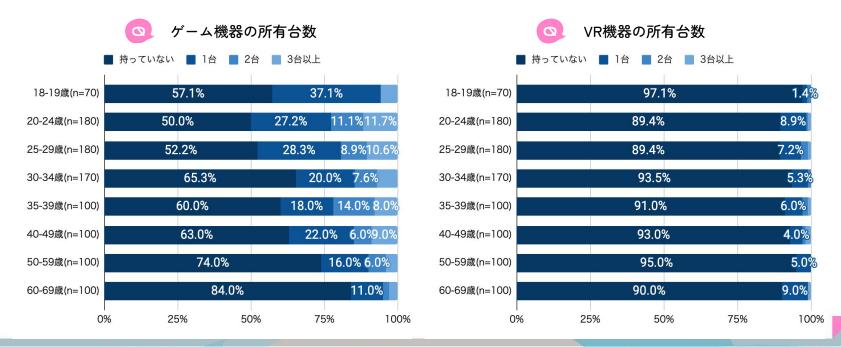
ビデオカメラの所有台数



あしたレポート2025

ゲーム・VR機器の所有台数

20-29歳の約5割がゲーム機器を1台以上、うち約1割は3台以上所有している。



1000本音

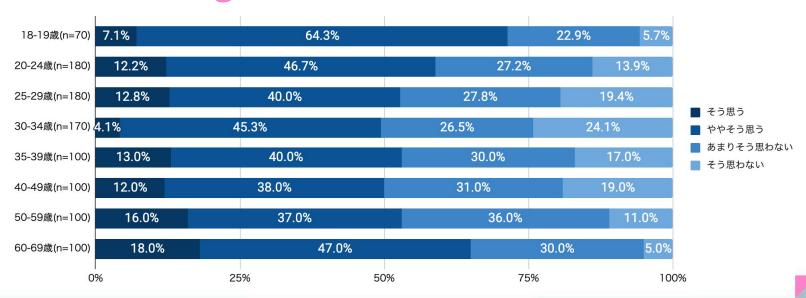


あしたレポート2025 🎎

インターネットへの認識

18-34歳の5割近くはインターネットが社会を良くすると認識し、 18-19歳においては7割を超える。

○ インターネットはこれからの社会を良くするか



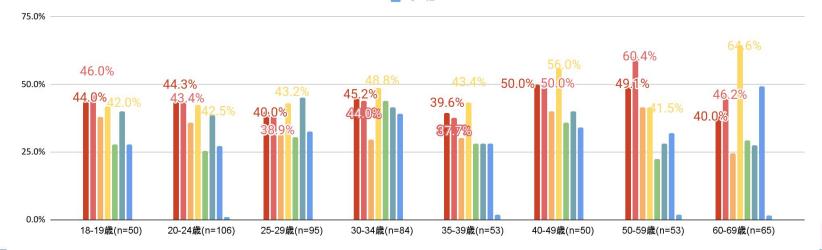
全年代で、教育機会の拡大・グローバルなコミュニケーション・災害時の情報共有が、 インターネットの社会貢献性を感じる理由として上位に挙げられている。

インターネットはこれからの社会を良くすると考える理由(当てはまるもの全て) (「インターネットはこれからの社会を良くするか」の質問に「そう思う」または「ややそう思う」と答えた方のみ回答)

■ 教育や学習の機会が広がるため ■ グローバルなコミュニケーションが可能になるため ■ 個人の声が発信されやすくなり、社会的な平等が進むため

災害時や緊急時に迅速な情報共有ができるため 📕 新しい働き方が広がるため 📘 エンターテインメントや趣味の幅が広がるため 📘 社会問題への関心や解決策が広がるため

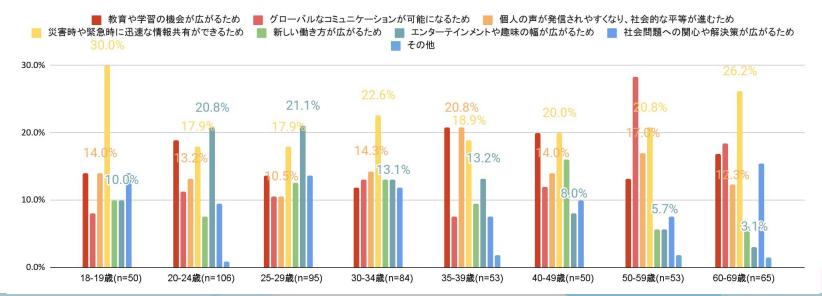
その他





18-19歳は災害時の情報共有に、20代はエンタメや趣味の範囲の広がりに、 インターネットの社会貢献性を強く感じている。

インターネットはこれからの社会を良くすると考える理由(最も当てはまるもの) (「インターネットはこれからの社会を良くするか」の質問に「そう思う」または「ややそう思う」と答えた方のみ回答)

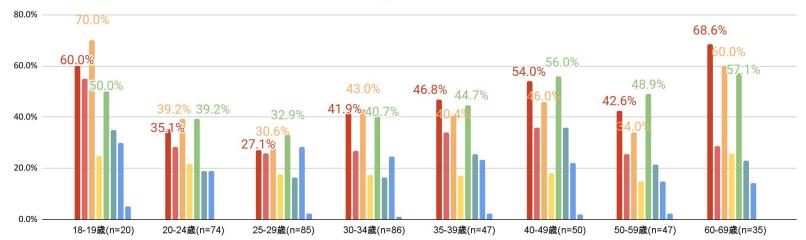




全年代で、個人情報侵害・SNSでの誹謗中傷・フェイクニュース拡散への懸念が インターネットは今後の社会を良くしないと思う理由の上位に挙げられている。

インターネットはこれからの社会を良くすると思わない理由(当てはまるもの全て)

■ 個人情報やプライバシーが侵害されるため 📕 ネット依存に伴う健康問題が増えるため 📕 SNSでの誹謗中傷やいじめが発生するため デジタルデバイド(情報格差)が拡大するためフェイクニュースや誤情報が広がりやすいため社会的な分断や対立を悪化させるため環境への負担が増えるため その他

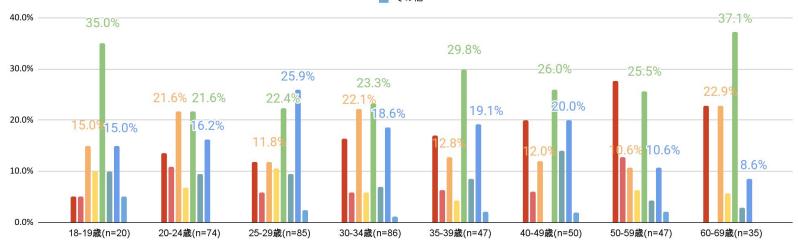




20-24歳と30-34歳はSNSでの誹謗中傷とフェイクニュース、 25-29歳は環境負荷の観点から、インターネットは今後の社会を良くしないと考える。

○ インターネットはこれからの社会を良くすると思わない理由(最も当てはまるもの) ○ (「インターネットはこれからの社会を良くするか」の質問に「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた方のみ回答)

■ 個人情報やプライバシーが侵害されるため ■ ネット依存に伴う健康問題が増えるため ■ SNSでの誹謗中傷やいじめが発生するため 🖊 デジタルデバイド(情報格差)が拡大するため 📕 フェイクニュースや誤情報が広がりやすいため 📕 社会的な分断や対立を悪化させるため 📘 環境への負担が増えるため ■ その他

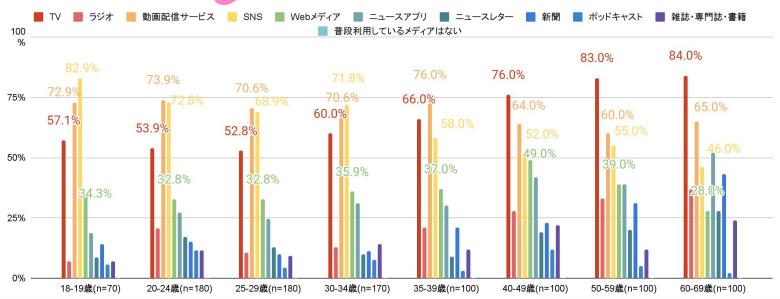




普段利用しているメディア

18-34歳はSNSと動画配信サービスの利用率が高く、 TVやWebメディアの利用率を上回る傾向にある。

普段利用しているメディア(複数回答可)

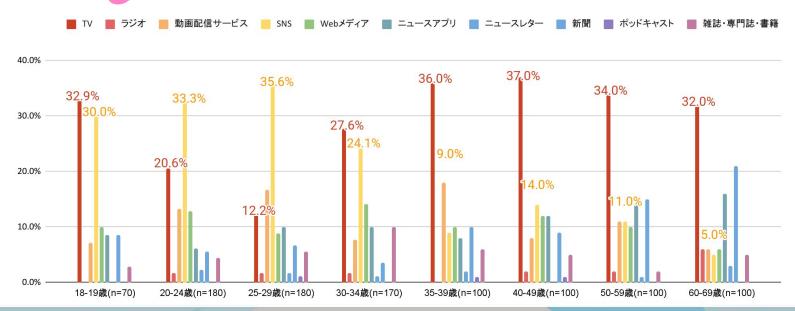




信頼しているメディア

信頼性が高い情報を得る際、20-29歳が最も利用する媒体はSNSであり、 18-19歳/30-34歳においてもTVに次いで利用されている。

世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る際、最も利用する媒体





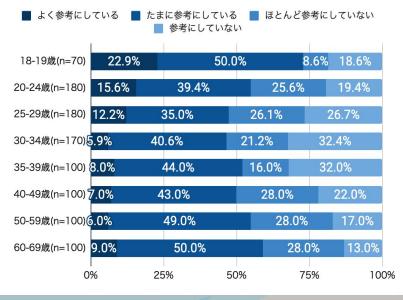


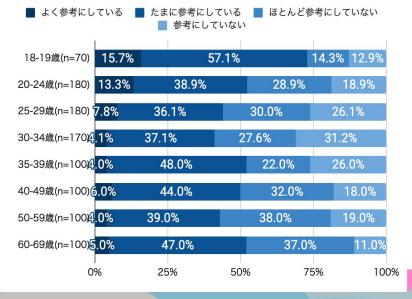
参考にする情報

18-19歳の約7割、20-34歳の5割近くは、公的機関・専門家や その分野に関連する企業や団体による情報を参考にしている。

公的機関・専門家が発信する情報

その分野に関連する企業や団体が発信している情報





214

100

©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

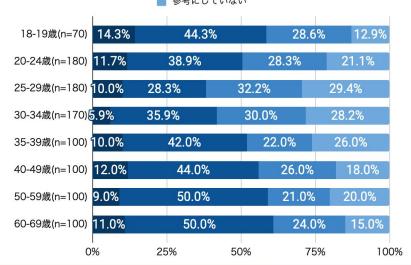


参考にする情報

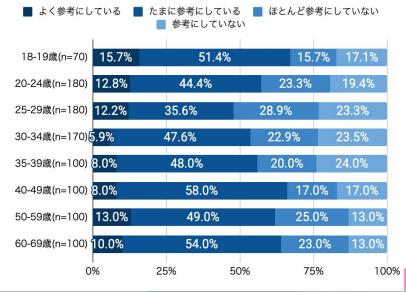
25-34歳の約6割がマスメディアの情報を参考にしていない。 また、この年代はニュースサイトの情報も5割近くが参考にしていない。

💿 マスメディア(例:テレビ・新聞)が発信している情報

■ よく参考にしている■ たまに参考にしている■ ほとんど参考にしていない



💿 ニュースサイトが発信している情報



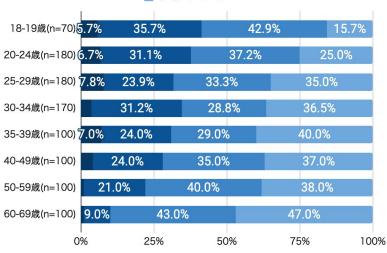
100

参考にする情報

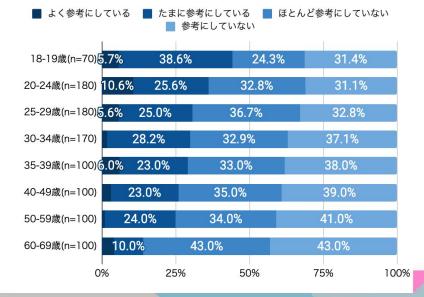
18-24歳の4割近くが、芸能人・インフルエンサーが発信する情報や出所は不明だが、検索などで上位に来ている情報を参考にしている。

■ 芸能人・インフルエンサーが発信する情報

■ よく参考にしている ■ たまに参考にしている ■ ほとんど参考にしていない ■ 参考にしていない

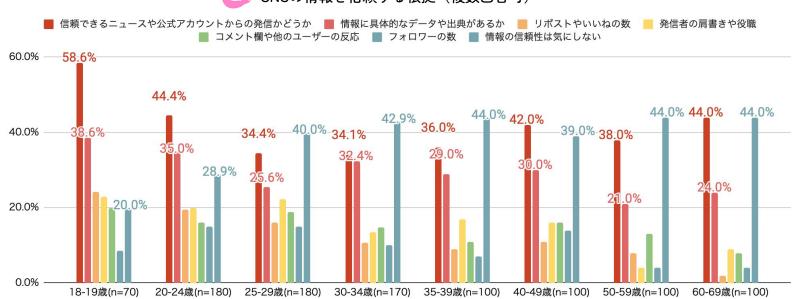


💿 出所は不明だが、検索などで上位に来ている情報





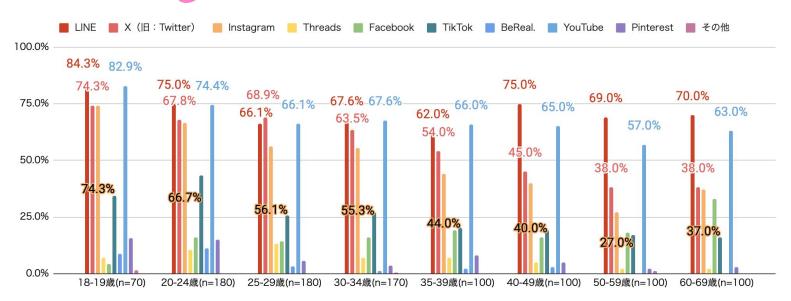
SNSの情報を信頼する根拠(複数回答可)



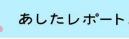


18-34歳は他の世代と比較して各SNSの利用率が高い。 特に18-24歳の8割近くがYouTubeを利用し、XやInstagramを上回る。

○ デジタルネイティブ世代が現在利用しているSNS(複数回答可)



あしたメディア



若年層ほど目的に応じて複数のSNSアカウントを使い分けており、 18-24歳においては5割以上が同じSNSで複数のアカウントを保有している。

趣味専用のアカウントを持っている

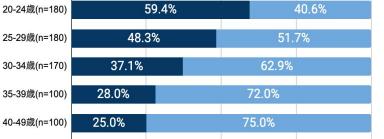


78.0%

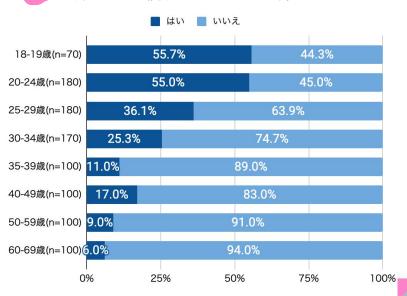
81.0%

75%

50%



同じSNSで複数のアカウントを持っている



100%

18-19歳(n=70)

50-59歳(n=100)

60-69歳(n=100)

22.0%

19.0%

25%

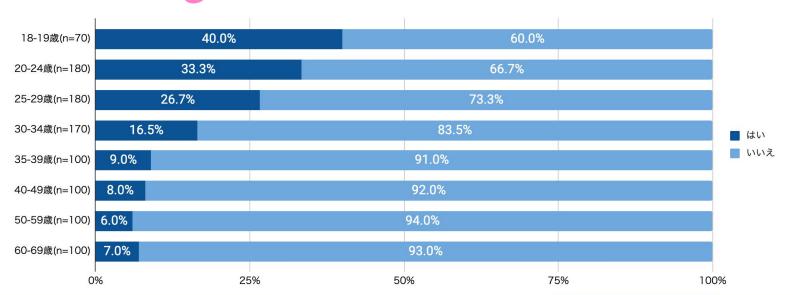
0%

219



18-34歳はリアルな友人にしか公開していないアカウントを開設する傾向がある。 特に、18-19歳においては4割が保有している。

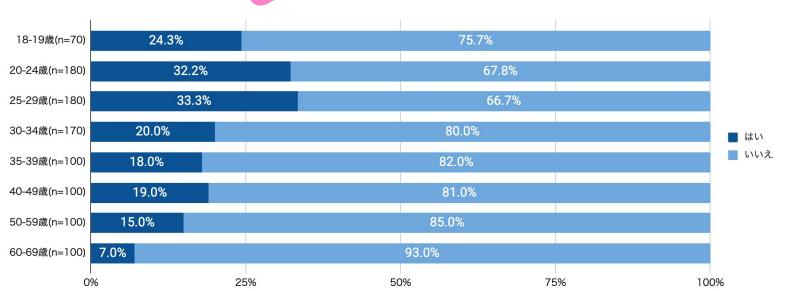
リアルな友達にしか公開していないSNSアカウントがある





20-29歳の3割超は、SNSがきっかけで友達ができた経験がある。

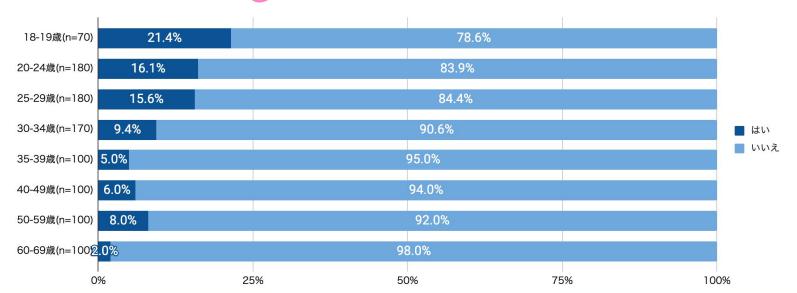
SNSがきっかけで、友達ができたことがある





他の年代と比較して、18-34歳はネットマナー講習の受講率が高く、 18-19歳では2割超、20-29歳は2割弱が講習を受けたことがある。

ネットマナーの講習などを受けたことがある

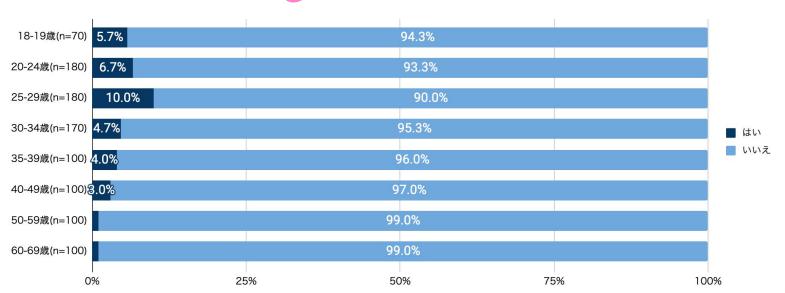


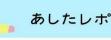
@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.



25-29歳の1割が、使用しているSNSで1万人以上のフォロワーを有している。

1万人以上のフォロワーがいる





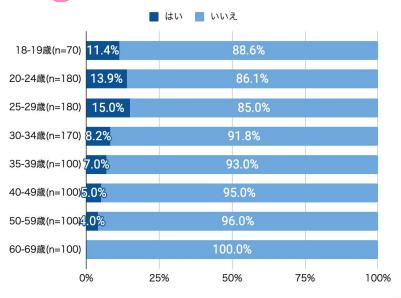


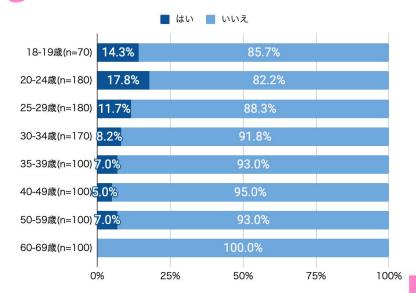
18-29歳は他年代と比べて、SNSへの悪口の書き込み経験や SNSをきっかけとしたトラブル遭遇率が高い。

💿 SNSに悪口を書き込んだことがある

0

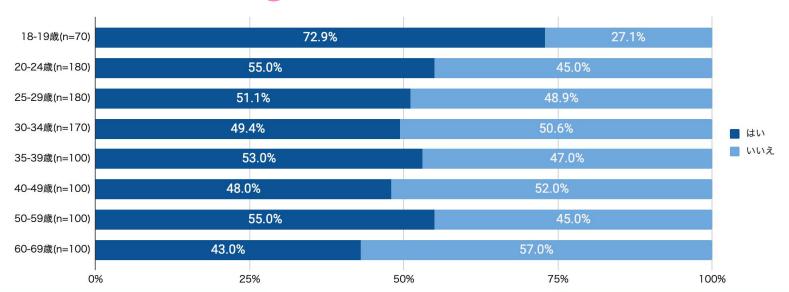
SNSがきっかけでトラブルになったことがある





18-19歳の約7割、20-34歳の5割近くがSNSの投稿を見て不快になったことがある。

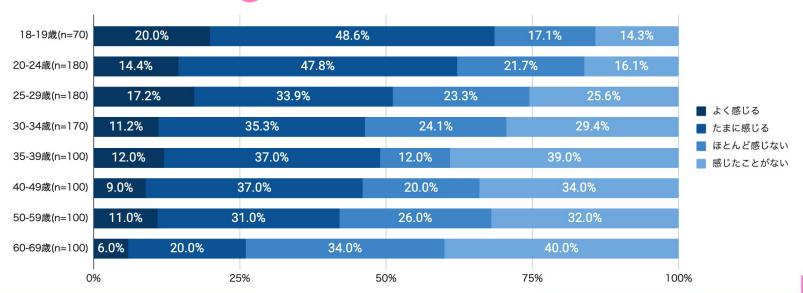
SNSの投稿を見て不快になったことがある



SNS疲れ

18-29歳の5割以上がSNS疲れを感じている。 特に18-19歳の約7割、20-24歳の約6割がSNS疲れを感じたことがある。

SNS疲れを感じたことがある



SNS疲れ

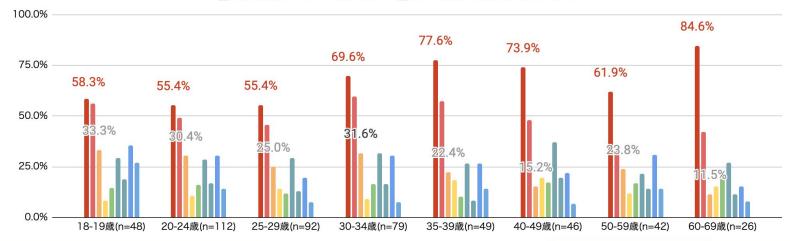
全年代を通じて、SNS疲れの主な要因として情報の多さが挙げられ、 さらに若年層では、他人の投稿を見た際の劣等感も影響する傾向にある。

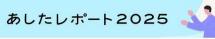
🔍 SNS疲れを感じる理由(複数回答可)

(「SNS疲れを感じたことがあるか」の質問に「よく感じる」または「たまに感じる」と答えた方のみ回答)

情報量が多すぎて疲れるため 📕 ネガティブな投稿やコメントを見ることが多いため 📕 他人の投稿を見て、劣等感を感じるため 投稿を考えるのが負担になるため ■ プライバシーが侵害されているように感じるため ■ 不快な広告やコンテンツを目にするため ■ ソーシャルメディア上の人間関係に疲れるため







AIに対するイメージ

18-19歳の8割近くがAIは暮らしや仕事を豊かにすると捉えている一方で、 約6割はAIに仕事を取られてしまうとも感じている。

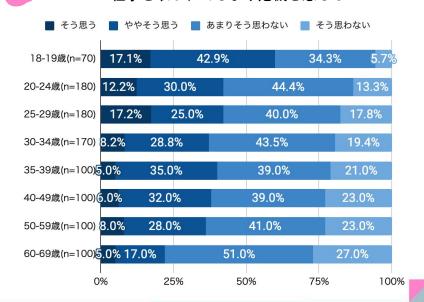
AIは暮らしや仕事を豊かにする ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない 15.7% 7.1% 18-19歳(n=70) 21.4% 55.7% 18.9% 45.0% 27.2% 8.9% 20-24歳(n=180) 25-29歳(n=180) 15.6% 43.3% 26.7% 14.4% 30-34歳(n=170) 7.6% 49.4% 26.5% 16.5% 35-39歳(n=100) 11.0% 47.0% 26.0% 16.0% 17.0% 47.0% 22.0% 14.0% 40-49歳(n=100) 50-59歳(n=100) 8.0% 34.0% 10.0% 48.0% 60-69歳(n=100) 12.0% 8.0% 49.0% 31.0%

50%

75%

25%

AIに什事を取られてしまう危機を感じる



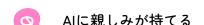
100%

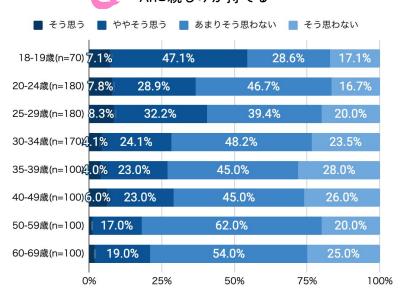
0%



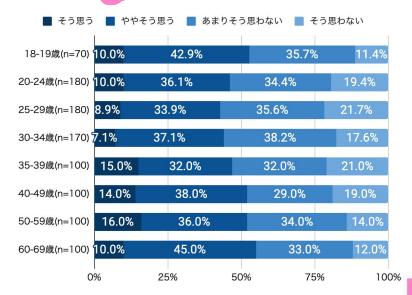
AIに対するイメージ

18-19歳の5割強がAIに親しみを持てると感じる一方、 同程度の割合で怖いというイメージも抱いている。





🔼 AIは怖いイメージがある

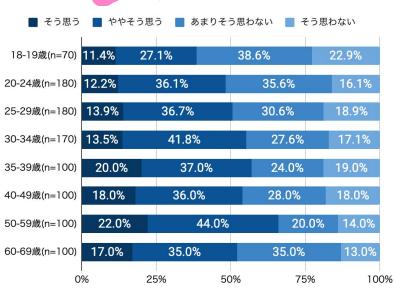


©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

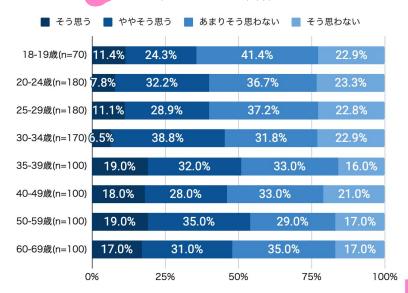


AIに対するイメージ

他の年代と比べて、18-19歳はAIに対して抵抗感が少なく、親和性が高い傾向がある。



AIは私にはあまり関係ない

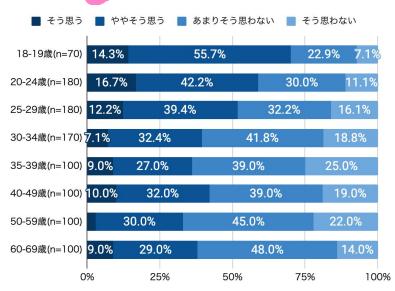


@BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

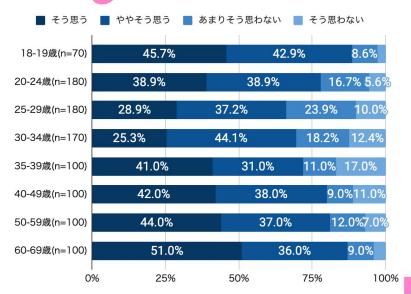
1000本音

全年代のうち、18-19歳はAIの積極的な利用に最も肯定的であると同時に、 適切な使用に対する意識も最も高い。

積極的に使いたいと感じる



AIは適切に使わなければならない



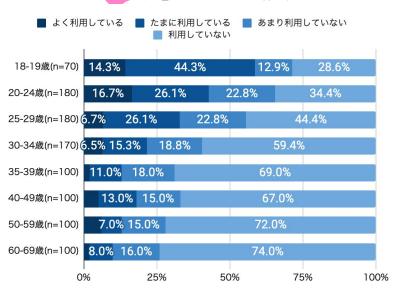




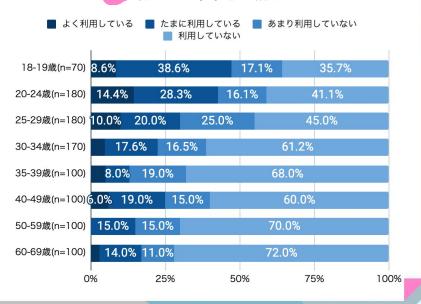
AIの使用目的

18-34歳は、他の年代と比較して 文書やレポートの作成を目的としてAIを利用する割合が高い。

○ 文書やレポートの作成



🔍 翻訳や語学学習の補助



100

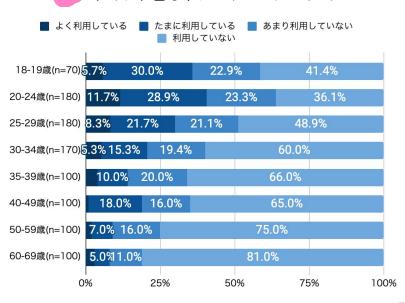




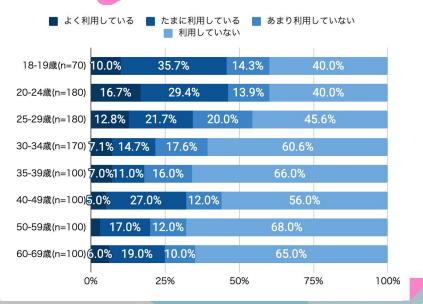
AIの使用目的

18-29歳の3割強がアイデア出しやブレインストーミングにAIを活用し、 4割強が情報検索や調査の補助を目的としてAIを使用している。

アイデア出しやブレインストーミング



情報検索や調査の補助



©BIGLOBE Inc. 2025. All rights reserved.

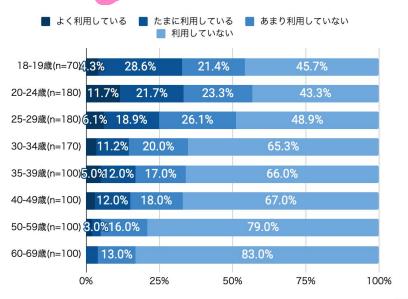




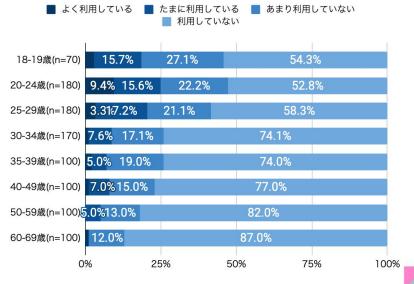
AIの使用目的

全年代のうち、20-24歳は画像・動画の生成や 物語・詩の作成を目的にAIを活用する割合が最も高い。

画像や動画の生成



💿 物語や詩の作成

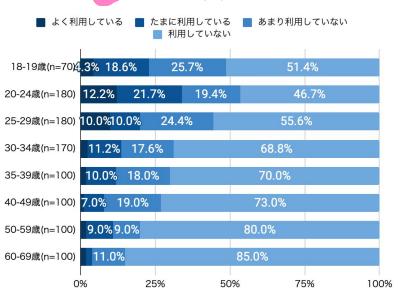




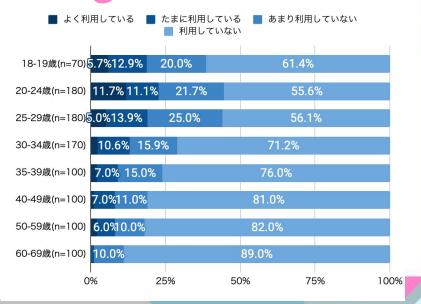
AIの使用目的

全年代のうち、20-24歳は雑談や人生相談を目的にAIを使用する割合が最も高い。

対話型AIと雑談をする



対話型AIに人生相談をする



🌉 あしたレポート2025 🎶

Interview



松島倫明(まつしま・みちあき)

未来を実装するメディア『WIRED』の日本版編集長。NHK出版学芸図書編集部編集長を経て2018年より現職。内閣府ムーンショットアンバサダー。21_21 DESIGN SIGHT企画展「2121年 Futures In-Sight」展示ディレクター。訳書に『ノヴァセン』(ジェームズ・ラヴロック)がある。東京出身、鎌倉在住。

デジタルネイティブ世代について

――「デジタルネイティブ世代」の特徴について教えてください。たと えば、若年層は「インターネットは社会を良くする」と考えている割合 が高いようです。(P.207参照)

若年層にとって、生まれたときからインターネット環境が当たり前にあるということは大きいと思います。ダグラス・アダムスというSF作家が書いた『銀河ヒッチハイク・ガイド』(新潮文庫、1982年)(※1)という小説に、「自分が生まれたときに既に存在したテクノロジーは、自然の一部だと感じる」という有名な指摘があります。自分が若い頃に登場したテクノロジーは、非常にクールで新鮮なものとして受け止めやすい一方で、大人になると新しい技術に対して懐疑的になり、自然に反するものだと感じる傾向が見られるのは、人類の歴史上ずっと繰り返されてきた類型的な現象なんです。

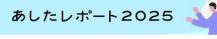
そう考えると、今回の調査に表れている「若い世代ほど新技術をポジティプに捉える傾向にある」という結果は、いわばその最新版だと捉えられます。「いつの時代も人は技術の受容をめぐって一定のサイクルを繰り返してきた」という視点で見ると、ある意味とても面白いですよね。

——この世代はSNSを最も信頼する情報ソースと考えているという結果が 出ています。こうした背景をどのように読み解けばいいでしょうか? (P.213参照)

インターネットは、ネットワーク効果によってメガインフルエンサーが生まれやすい構造があります。でも、チャンネル数がごく限られていた時代のテレビには、いま以上にメガインフルエンサーがいたわけです。今の若者にはネットやSNSがすでに当然のツールとして存在しているからこそ、インフルエンサーの発信を特別なものと感じるより前に、日常的な情報ソースだと認識しているのではないでしょうか。







Interview - 松島倫明

<u> ユヴァル・ノア・ハラリ(※2)の新著『NEXUS』(河出書房新社、2025年)などでも「情報ネットワークには常に功罪がある」と指摘されていますが、現代のインターネットのポジティブな側面を考えるのであれば、どのような点になるでしょうか?</u>

情報ネットワークの功罪について語られるとき、よく客観的な事実よりも感情が影響力を持つ「ポスト・トゥルースの時代」と言われます。でも、それこそハラリがかつて指摘していたように、「ではトゥルースの時代はかつてあったのか」と問えば、そんな理想的な時代はこの世に存在したことがありません。過去には限られた情報空間のなかでプロパガンダが蔓延していた。それこそ情報のネクサス(結節点)によって、客観的な事実かどうかは関係なく、物事が伝わってきたのが人類と情報の歴史です。

インターネットのポジティブな面としては、まず劇的に選択肢が広がっていることが挙げられます。今は無数の情報源があり、自分に合った情報やコミュニティがもし身の回りや、日本語の情報圏に存在しなくても、世界のどこかには必ずある。これは大きな利点だし、多くのひとびとが、それこそインターネットのことを意識しなくても日々享受していること。当然、そこにはエコーチェンバーやフィルターバブルのような課題もありますし、広告モデルが組み込まれたことで、結果的にアテンションエコノミーの弊害も生まれているわけです。

WIREDの創刊編集長ケヴィン・ケリーは「プロトピア」という概念を提唱しています。ユートピアでも、よくSFの世界で描かれるようなディストピアでもなく、常に功罪があって、それでも徐々に前進していくという考え方です。テクノロジーの歴史を振り返ると、常にそうしたバランスを取りながら発展してきたのも事実です。

SNSとウェルビーイングについて

— 一方、18-29歳の5割以上が「SNS疲れ」を感じているようです。 (P.226参照)SNSが若年層のメンタルヘルスに与える影響について、注目 されている研究やトレンドはありますか?オーストラリアでは2024年11月 (現地時間)に16歳未満のSNS利用を禁止する法律が可決したと聞きま す。

この10年、アテンション・エコノミーに対する批判が強まっています。 SNSはどうしても脊髄反射的なやり取りになりやすく、相手の意見に素早く反応してしまう。その結果、情報の消費スピードが上がりすぎて、自 尊心が傷ついたり、自己と他者の比較によるストレスが増大したりする 現象が指摘されています。

10代や20代の若い世代が、SNSで常に他者と比較されるストレスにさらされるのは確かに大きな問題です。





あしたレポート2025 🍑

Interview - 松島倫明

海外では、16歳未満のSNS利用を規制する動きが出てきたというのも、 未成年のメンタルヘルスを守るうえで、社会全体がデジタル・ウェル ビーイングをどう構築するかを模索している証拠でもあると思います。

一方で、Z世代の中には過度にテクノロジーに振り回される状態から一歩引いて、「過少消費」や「デ・インフルエンシング」といったムーブメントを通して、もっとシンプルな生き方を追求する流れも出始めています。過度なSNS依存から距離を置き、自分なりにバランスを取り戻そうとする動きですね。これもまた、新しい世代ならではの対応なのかなと思います。

もしかすると、将来的には「未成年がSNSを使えたなんて信じられない」という時代が来るかもしれません。たとえば、海外でも昔は子どもでも普通にお酒を飲めていた時代があったんです。でも社会が進むにつれて「未成年にお酒を飲ませるのは危険だ」という認識が高まり、法律で禁止されるようになった。今では当たり前のルールですけれど、昔を振り返ると「えっ、それが許されていたの?」と驚くわけです。それくらい社会の価値観は時代によって変わっていくものですし、大きな時間軸で見ればまだ誕生して間もないSNSの使い方について、社会はいまだ試行錯誤を繰り返している段階だと思います。

AIとの共生について

<u>──18-19歳の8割近くが「AIに仕事を奪われるのではないか」と回答する</u> <u>一方で「AIに親しみを覚えている」という結果も出ています。これをどの</u> ように解釈すべきかでしょうか。(P.228参照)

AIが進化するスピードには本当に目を見張るものがありますよね。若い世代ほどAIに触れる機会も多い分、便利だけど不安という複雑な気持ちを抱えやすいのだと思います。

今後は、AIが聞きたいことを何でも教えてくれる存在として、さらに身近になっていくはずです。ただし、その一方でエコーチェンバー的になりやすかったり、陰謀論を補強する情報ばかり集めてしまう危うさもある。

特にこれからは、AIがあなたの代理人(エージェント)となってSNSや検索ともどんどん溶け合っていくので、自分が欲しい答えを際限なく提示してくれるような構造になりやすい。閉じ込められた殻を破って外の世界を知るためには、ユヴァル・ノア・ハラリが言うように教養や通史をきちんと学ぶ必要性がますます高まると感じます。





あしたレポート2025



Interview - 松島倫明

<u>一一今後ますますテクノロジーが発展していく中で、私たちはどのように人間らしさを磨いていくべきでしょうか。</u>

現代は特に情報テクノロジーの急速な進歩によって可能性はいくらでも広がっていてうらやましいと感じるくらいです。一方で、「人間らしさ」というもの自体が何かすでに決まったものであるかのように考えるべきではないと思います。人類の歴史をひもとけば、テクノロジーとの相互作用によって「人間らしさ」の定義もその時どきで常に変化をしてきた。だからこそ、自分にとって何が快適で、何に心を動かされるのか、今、手にできるテクノロジーを使ってそれをどう実現するのかを主体的に考えることが、次の時代の「人間らしさ」を見つけ、磨くうえで重要なのかもしれませんね。

※1『銀河ヒッチハイク・ガイド』は1978年にイギリスでラジオドラマからスタートし、初版は1979年にイギリスで刊行された。テレビ、コミックスやゲームにもなっている。

※2 1976年生まれ、イスラエル出身の歴史学者。『サピエンス全史』『ホモ・デウス』は世界的なベストセラーとして知られる。



あしたレポート2025 🚵

Information

出典明記

本レポートを使用いただく際は、必ず以下の出典を明記してください。

ビッグローブ株式会社 『あしたレポート 2025: デジタルネイティブに聞く100の本音』

お問い合わせ

pr.pj@gp.biglobe.co.jp

関連サイト

あしたメディア by BIGLOBE : https://ashita.biglobe.co.jp/

公式Instagram: https://www.instagram.com/ashitamedia/

公式Podcast: https://open.spotify.com/show/7oMJaPOx74lu0pDnnf1Xu7







Staff

企画・制作

あしたメディア編集部

conomi matsuura

Mizuki Takeuchi

前田昌輝

白鳥菜都

おのれい

大沼芙実子

吉岡葵

岡慧隼

中山明子

中井圭

発行

2025年3月27日

ビッグローブ株式会社